

TOHOKU UNIVERSITY HOSPITAL 2022



東北大学病院 診療のご案内

人にやさしく
未来をみつめる



MESSAGE

病院長あいさつ

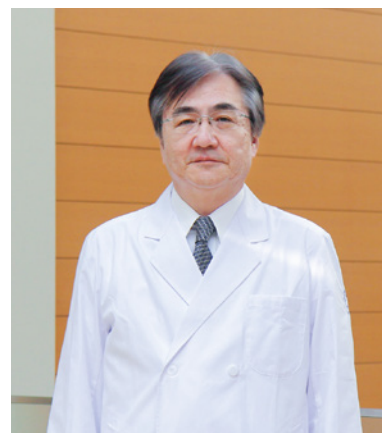
東北大学病院は1817年(文化14年)に創設された仙台藩医学校を淵源としています。明治に入り、廃藩置県により仙台藩医学校が廃止され、仙台公立病院、県立宮城病院へと変遷を辿りました。節目となる1915年には東北帝国大学医科大学附属医院となり、当院が誕生しました。2015年には開設から百周年を祝賀し、「これからも、共に生きる」をスローガンに、様々な記念事業を行いました。

当院はこれまでの百有余年にわたって、多くの臨床家・教育者を育成し、日本の医学・医療の発展に貢献してまいりました。また、地域を守ることも大きな使命であり、今後も東北地方における要として地域医療を支えていきたいと考えています。東北地方は、3.11東日本大震災からの復興も道半ばで、高齢化・過疎化がすすみ、解決しなければならない医療課題が集積しています。当院は、限られた医療資源を有効に活用し、様々な革新的技術を積極的に取り入れ、地域の課題解決にむけて力を尽くしています。

当院は、厚生省から「特定機能病院」に指定されており、高度医療を安全に提供することはもとより、高度医療の開発や研修も使命としています。また、我が国で最初に認定された医療法上の「臨床研究中核病院」の一つであり、国際的水準の臨床研究や創薬、医療機器開発などの推進が望まれています。院内に設置された「臨床研究推進センター」では、総合大学としての強みを活かしながら様々な企業とともに、これら開発に努めています。また、厚生労働省から「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定されており、院内に設置した「個別化医療センター」を中心に、東北メディカル・メガバンク機構、医学系研究科と密に連携し、がんゲノム医療を適切に提供しています。

昨今、医療における安全性や倫理が社会的に注目されるようになりました。医療の安全は高度医療や先進医療ばかりでなく、日々の医療業務のすべてに求められます。当院では、医療安全のための専任の医師、看護師、薬剤師などからなる「医療安全推進室」を中心に、職員の医療安全や倫理教育を行い、一丸となって、日々、安全安心な医療の提供に取り組んでいます。

未曾有のコロナ禍ではありますが、当院はスマートホスピタルをめざして新たな取り組みを積極的に展開しつつ、安全・安心な医療の提供に力を尽くし、社会から信頼される病院であり続けられるよう一層の努力を続けてまいります。皆様のご理解、ご支援を宜しくお願い申し上げます。



東北大学病院
病院長

富永 悌二

CONTENTS

病院長あいさつ	1	TOPICS	6	先進医療のご紹介	12
基本理念と将来構想	2	診療予約受付のご案内	8	医科診療科	13
病院概要	3	外来受診のご案内	9	歯科部門	57
機構図	4	地域医療連携センターのご紹介	10	中央診療施設等	79

「患者さんに優しい医療」と 「先進医療」との調和を目指した病院

基本理念と将来構想

- 1 社会の要請に応える開かれた病院
- 2 最先端の医療技術の開発・応用・評価
- 3 着実かつ独創的な研究の推進
- 4 人間性豊かな医療人の養成
- 5 患者の人間性を尊重した全人的医療と高度に専門化した先進的医療の調和

医療安全取り組み宣言

- 1 患者さん・家族及びチームの相互の意志の疎通を良好にし、患者さん本位の医療の質と安全を追求します。
- 2 医療の質と安全の確保はすべての職員の責務であることを自覚し、失敗に学び改善につなぐ文化を育みます。
- 3 医療の質と安全を保証するためのシステムの構築を組織をあげて行います。

患者さんに優しい医療と高度先進医療の調和を目指す、という理念を掲げた当院においては、下記の3項目に主眼を置き、当院に対する信頼性の向上と医療安全の推進に全力を尽くすことをここに宣言します。

東北大学病院 病院長



救急救命と医療安全の碑

患者さんの権利と義務

診療を受ける権利

いかなる人にも平等に、最善かつ安全な医療を継続して受ける権利を有します。

医療情報を知る権利

自己に関する医療情報を取得することができ、診療計画や処置等に関して理解し、納得するまで説明を受ける権利を有します。

自己の診療について決定する権利

医療従事者が提示する診療計画や治療法等について、自己の意志に基づいて自由に選択・決定する権利を有します。

プライバシーが保護される権利

個人情報には完全に保護され、私生活は不当に侵害されることはありません。

セカンドオピニオンを求める権利

患者さんの負担で、他の医療機関の医師の説明を受ける権利を有します。

情報を提供する義務

医療従事者が最善かつ適切な診療を行うために、患者さんは自身の健康状態に関する情報を可能な限り正確に提供してください。

診療に協力する義務

診療を円滑に行うために、患者さんは院内の医療行為の妨げとならないよう協力してください。

診療費を支払う義務

受けた医療に対し、診療費を遅滞なくお支払いください。

病院概要

2022年5月現在

名称	国立大学法人東北大学 東北大学病院
所在地	〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号
病院長	富永 悌二
建物規模	地上18階 地下2階
標榜診療科	44科 内科／腎臓・内分泌内科／血液内科／リウマチ科／糖尿病・代謝内科／漢方内科／腫瘍内科／循環器内科／感染症内科／老年内科呼吸器内科／消化器内科／心療内科／外科／消化器外科／肝臓・胆のう・膵臓外科／胃腸外科／移植・食道・血管外科乳腺・内分泌外科／心臓血管外科／整形外科／形成外科／麻酔科／救急科／呼吸器外科／産婦人科／泌尿器科／脳神経内科脳神経外科／精神科／小児科／小児外科／小児腫瘍外科／皮膚科／眼科／耳鼻咽喉科／頭頸部外科／リハビリテーション科放射線科／歯科／歯科口腔外科／小児歯科／矯正歯科／病理診断科
病床数	1,160床（一般病床：1,118床、精神：40床、感染：2床）
救急体制	三次救急
各種指定	■ 特定承認保険医療機関 ■ 特定機能病院 ■ エイズ拠点病院 ■ 災害拠点病院（地域災害医療センター） ■ がん診療連携拠点病院（都道府県） ■ 肝疾患診療連携拠点病院 ■ 総合周産期母子医療センター ■ 小児がん拠点病院 ■ 造血幹細胞移植推進拠点病院 ■ 臨床研究中核病院 ■ てんかん診療拠点病院 ■ 原子力災害拠点病院 ■ がんゲノム医療中核拠点病院 ■ アレルギー疾患拠点病院 ■ 難病診療連携拠点病院

ロゴマークコンセプト



ハートの形をベースにし、流動性、先進性を表現しています。ハートの二つの変形楕円は、病院と患者さんとの親密なかかわり、医療との密接な関係性を表現しています。

また、紺色の球体はエネルギーの上昇と共に、冷静な頭脳を意味します。熱いハートと冷静な、誠実な頭脳を併せ持つ当院の医療の場における存在感を的確に表現したマークです。メインカラーは医療にとって最大のテーマである生命（患者）そして血液を表現し、希望と情熱をも意味します。サブカラーは誠実・勤勉を表現しています。

禁煙に関する取り組み

当院では、加熱式などの新型タバコを含め、敷地内全面禁煙とし、病院周辺の道路や敷地においても禁煙のご協力を呼びかけています。また、啓発活動や禁煙指導を行うことにより、禁煙について考え始める機会を提供しています。

外部評価の実施

当院は、公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価（機能種別版 評価項目3rdG:ver.2.0）を受審し、所定の認定基準を達していると認められ、2021年6月4日付けで認定証が交付されました。

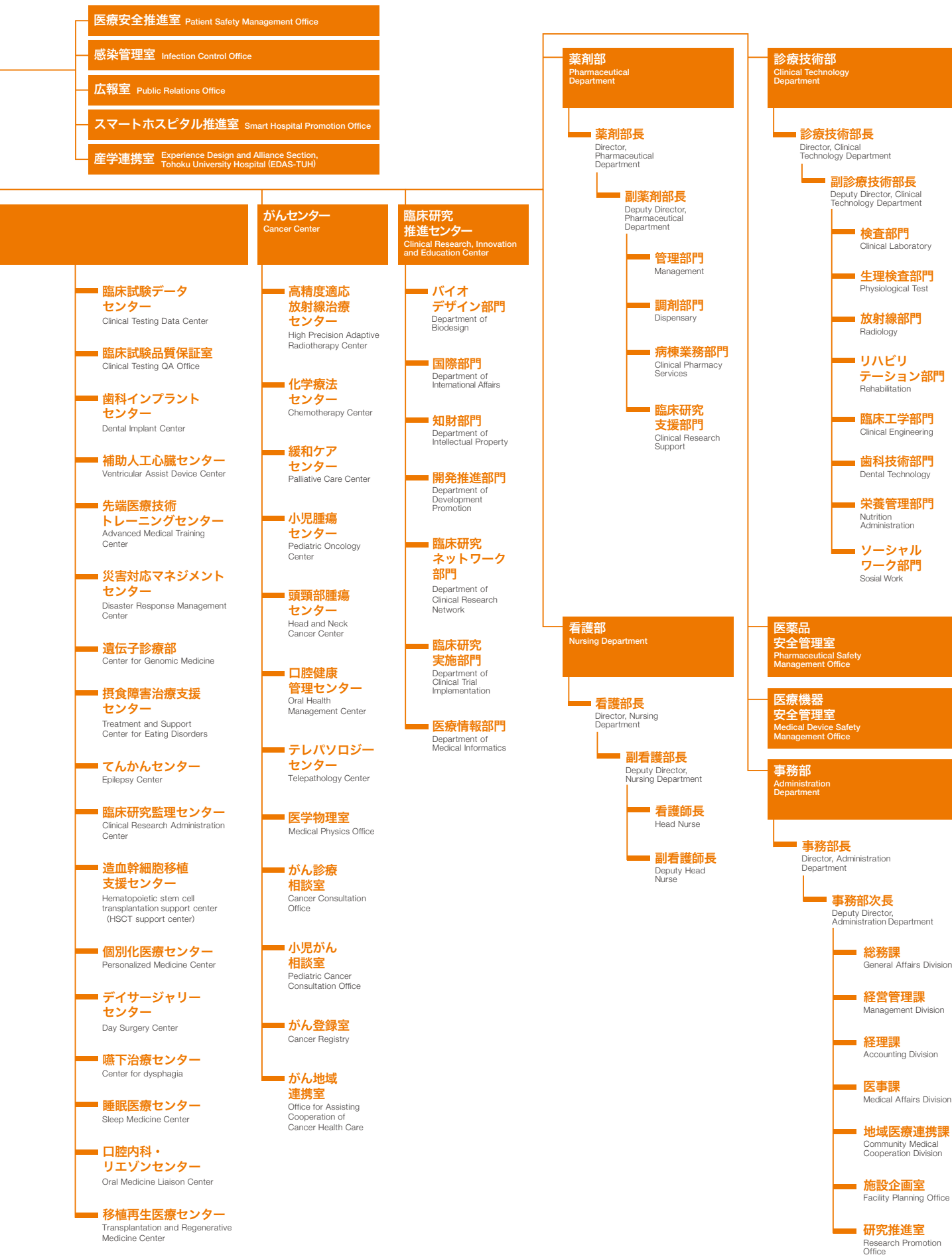
※2022年4月1日現在、確認審査中。



機構図

[2022年4月1日現在]
April.1.2022





■診療科数 50（医科39 歯科11）

地域の新型コロナウイルス感染症制御への貢献

当院は、感染症指定医療機関として重症・中等症患者を受け入れるとともに、東日本大震災の経験に基づき、宮城県内の感染制御活動に貢献しています。

2020年4月21日、全国に先駆けて「ドライブスルー方式の新型コロナウイルスPCR検査外来」を開始するとともに高齢者施設等のクラスター発生に対して「出張PCR検査」を実施。当院の医師、歯科医師、看護師等、延べ3,800名が出務し、2022年3月31日までに述べ15,313名に検査を行いました。

これと並行し、2020年4月16日には「新型コロナウイルス軽症者等宿泊療養施設(ホテル)」の医療支援を開始し、ホテル内往診による処方、採血、ポータブルレントゲン検査、酸素飽和度24時間モニタリングシステム、抗体カクテル療法等により医療体制を強化。医療逼迫の危機にあった第5波では、ケアレベルを軽症者用のホテル、往診機能を備えた医療機能付きホテル、入院の3段階に分けた独自の医療体制をとり、ホテル内死亡0に貢献しました。これらは2020年12月に設置された富永悌二病院長を本部長とした宮城県新型コロナウイルス感染症医療調整本部が主導したものです。

2021年5月からは、JR仙台駅前のビルに大学主体としては初となる「東北大学ワクチン接種センター」を設置、市民や東北大学教職員・学生に加え、市内13大学の学生に接種を実施、接種実績は2022年3月末までで65万件以上にのぼります。

これらの医療体制やスムーズな接種を可能としたのは当院メディカルITセンターが独自開発した「ワクチン接種web予約システム」で、この成果は2021年11月にTOHOKU DX大賞最優秀賞を受賞しました。



東北大学病院ウェルビーイング宣言

2022年1月、当院は、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることこそが健康であるとする概念「ウェルビーイング」(well-being)を宣言しました。

宣言では、「働き方改革を推進し病気と仕事を両立させ、やりがいのある職場を目指す」「がんを患う職員の就業に配慮し、支援する」「特定の疾患に対して、諸条件を勘案し、医療費の一部を補助する」の3つを掲げています。



- 1 働き方改革を推進し病気と仕事を両立させ、やりがいのある職場を目指します
- 2 がんを患う職員の就業に配慮し、支援します
- 3 特定の疾患に対して、諸条件を勘案し、医療費の一部を補助します

MRリニアック稼働 治療開始

従来よりも高精度にがん放射線治療が可能なエレクタユニット MRリニアックシステムを導入しました。エレクタユニットは、体内を高画質に描出可能な1.5テスラMRIと高精度に放射線を照射するリニアック※を一体化させた世界初の高磁場MRI画像誘導がん放射線治療装置です。照射直前にその日の腫瘍と周辺の重要臓器の位置や形状をMRIにて確認し、オンラインで治療計画を作成します。そのため、腫瘍位置の変化に対応するマージンを最小化することで、健常組織への放射線の影響を最小限に抑えながら腫瘍への照射線量を高めることができます。またMRIは放射線を使わないため、従来のX線透視装置やCTと異なり、画像誘導のための被ばくがないことに加え、CTよりも明瞭に画像を描出することができ、より安全な放射線治療を提供することが可能となります。また、これまでの放射線治療よりも治療期間が短期間となるため、患者さんの負担軽減にもつながることが期待されます。

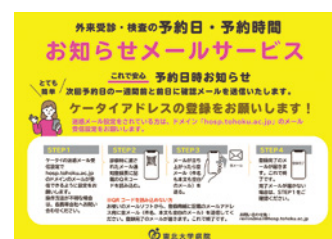
同装置は、2021年11月に先進医療棟地下1階に設置が完了し、機器の調整やスタッフのトレーニングを経て2022年2月28日に第一例目の治療が行われました。当面は前立腺がんの治療から開始し、すい臓がんや腎臓がん、食道がん、転移性骨腫瘍など多くの疾患に適応を拡大していく予定です。今後もがん患者さん一人ひとりに合わせたより安全でより高度な医療を提供してまいります。

※リニアック：放射線治療用のX線や電子線を発生させる最も一般的な放射線治療装置。
頭から四肢まで、全身のあらゆる領域の病変の治療が可能な汎用機。



患者さんへの新たなメールサービス・ 入院患者さん専用無料Wi-Fiの提供

2021年7月、当院での検査・受診の日時を忘れないように患者さんにメールでお知らせする新たなメールサービスを開始しました。診察時に患者さんに渡す登録用紙からメールアドレスを登録すると、次回外来受診・検査予約日の1週間前と前日にメールが送信されます。2022年3月末時点での登録者は19,471人にのびります。さらに、2022年4月からは入院患者さん専用無料Wi-Fiの提供も開始しました。当院では、患者さんの目線に立ち、より快適に治療に専念いただける環境整備を進めてまいります。



診療予約受付のご案内

地域医療連携センター TEL 022-717-7131 FAX 022-717-7132

予約専用フリーダイヤル 0120-201273

受付時間 月曜～金曜 8時30分～17時まで(土曜・日曜・祝日・年末年始を除く)

予約
フォーマット集
はこちらから



当院では、紹介患者さんの初診予約受付を行っております。

お電話でご希望の診療科をお知らせください。その場で予約日時をお返事いたします。

診療予約受付の流れ



ご紹介元の先生

お電話にて予約日時を決定します。
フリーダイヤル 0120-201273

決定後、地域医療連携センターに患者情報を記載した「診療予約申込書」をFAX(022-717-7132)してください。
※これまで同様FAXのみの受付も可能です。



地域医療連携センター

診療予約票を折り返しFAXいたします。



ご紹介元の先生

患者さんへ診療予約票と紹介状をお渡しください。

- 診療予約票の太枠内を記入するようご説明をお願いします。
- 予約当日は診療予約票、紹介状、健康保険証・各種受給者証(お持ちの方)、各種検査結果(CD-R、DVD等)、お薬手帳、診察券(当院の診察券をお持ちの方)を持参するようお願いいたします。



患者さん

予約日時に保険証・紹介状・予約票を持参し、外来を受診します。

※翌日分の予約については、前日(前診療日)14時までにお願いたします。

※予約受付時間外のお申込みについては、原則として翌診療日に対応となります。

※予約枠に制限があり、ご希望に添えない場合があります。あらかじめご了承ください。

※診療予約の受付は、紹介元医療機関から直接お申込みいただいた場合に限りです。患者さんご本人からのお申込みは受け付けておりません。

※再診予約及び救急患者さん、入院を要する患者さんのご紹介につきましては、直接該当診療科にお問い合わせください。

当院は、一部診療科を除き予約制を導入しております

※予約されずに来院された場合、当日中に受診できない場合がございますのでご注意ください。

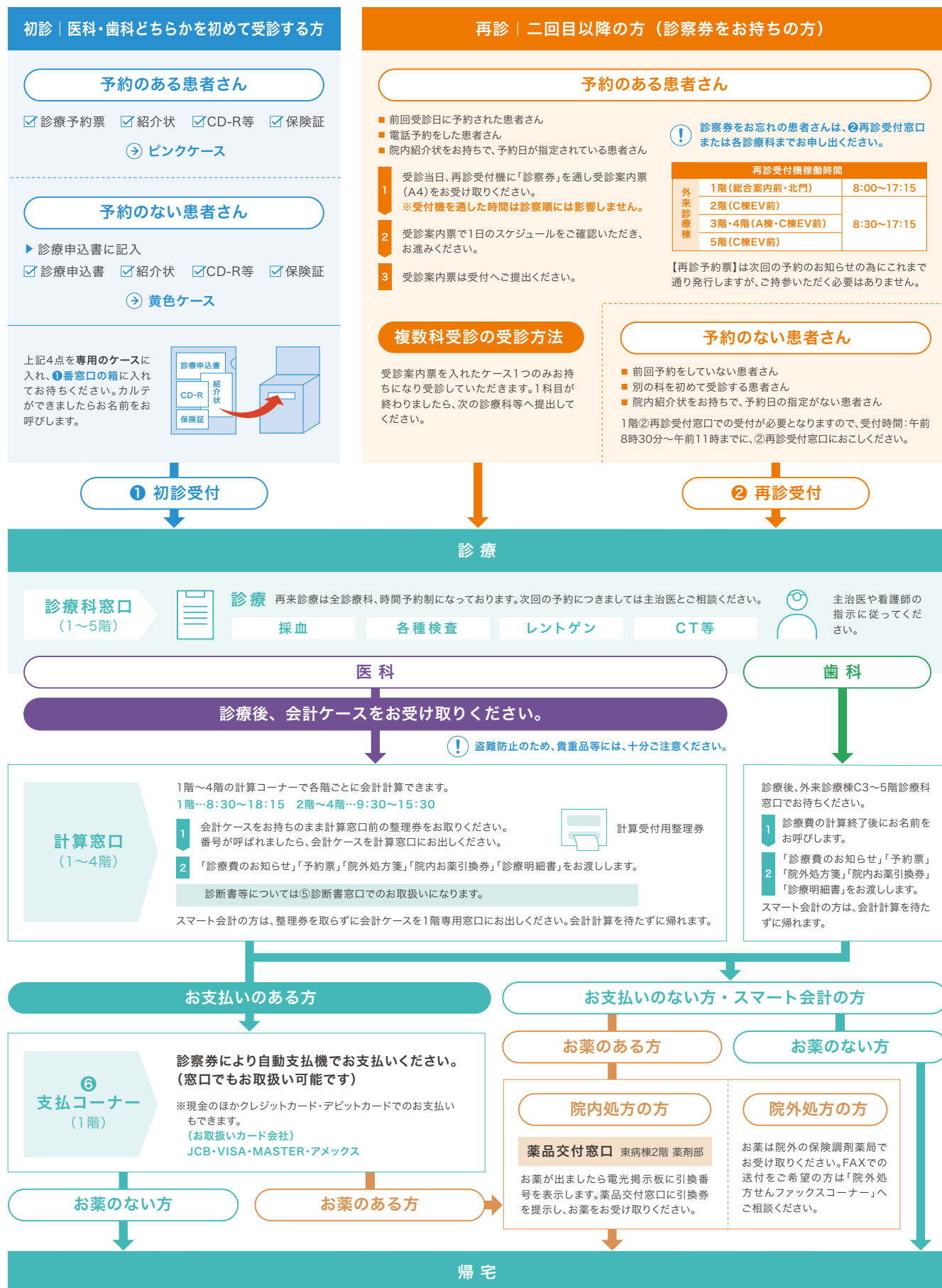
原則として紹介状が必要です

当院は高度・先進医療を提供する「特定機能病院」です。当院を受診希望される場合は、原則として他の医療機関からの紹介状が必要となります。紹介状をお持ちでない患者さんでも受診可能な場合もございますが、その場合は初診に係る費用として5,500円(医科)、3,300円(歯科)を自費でご負担いただきます。

※初診に係る費用(選定療養費)とは国が病院と診療所の機能分担の推進を図るために、「初期の診療は診療所・医院で、高度・専門医療は病院で」行うことを目的として定められた制度で、他の医療機関等から紹介状をお持ちでなく200床以上の病院を訪れる患者さんは、特別・高度な医療を求めていると考えられ、初診料の他に各病院が定めた金額を徴収できることとなっています。

※医科と歯科の診療科はそれぞれ別に初診扱いとなりますのでご了承ください。

外来受診のご案内



地域医療連携センターのご紹介

TEL 022-717-7618(看護師・SW) / 7131(事務)



診療科WEB

センター長あいさつ

センター長

青木 正志



地域医療連携センター長を拝命しております脳神経内科の青木正志(あおきまさし)と申します。多くのセンター員や病院・診療所のスタッフに支えられつつ、地域医療連携の核として運営しております。

さて、地域医療連携センターというのは、多様な職種が一緒に働く職場です。医師・看護師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー・精神保健福祉士・事務など、多くの職種の皆さん一人一人が連携して働いています。

当センターの第1のミッションは、「患者さんご家族へのサービス」です。医療福祉は、病める患者さんご家族に対する最大のサービス業であり、病院はこれを実践する場と考えています。そのため、待ち時間の解消を目指した外来の診療予約制、各種相談窓口業務、セカンドオピニオン外来の連絡・調整などに取り組んでいます。2019年3月からは医療機関からの電話による新患外来診療予約も開始しています。

第2のミッションは、「病-病連携、病-診連携の促進」です。特定機能病院である大学病院にはさまざまな専門医・指導医が多数おり、最先端の医療や難病の治療に取り組み、世界的な研究を推進しています。また、一般病院では行うことができない臨床試験も行っています。したがって、地域の「かかりつけ医」との役割分担や連携が重要となります。退院支援や各種相談、様々な医療情報の提供、関連病院懇談会などを通し、以前より増して大学病院と病院・診療所の連携をより密にしていく所存です。

第3のミッションは「広報活動」です。「診療のご案内」をはじめ、地域医療連携センター通信「With」などの広報活動を、東北大学病院広報室と協力しながら、当院をより多くの皆様に知っていただけるよう努力します。

本センターのモットーは「迅速で 信頼される適切な医療連携を 心をこめて」です。この言葉通りに実行し、皆様に親しみをもたれ信頼される東北大学病院を目指して行きたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

各種相談窓口業務

地域医療連携センターでは、患者さん(ご家族)の様々な医療・福祉に関する総合相談窓口、また地域の医療機関等との窓口として、ソーシャルワーカー、看護師、事務がお互いに協力しながら院内外の関係機関と、密接で効率的かつ効果的な連携を行っています。

医療そうだん窓口

当院に通院、入院中の患者さんの、病気や怪我に伴って生じるさまざまな問題や心配事についてご相談をお受けします。患者さん一人ひとりが安心して治療に専念できるよう、ソーシャルワーカーと看護師が互いに協力し、問題解決に向けて一緒に考えます。



ご意見窓口

患者さんやご家族からの診療や看護、病院に対する疑問、困りごと、要望・提案等のご意見を伺います。患者さんが安心して療養できるよう、専属の相談員が対応し、院内の関係部署と協力して改善を図ります。



患者申出療養相談窓口

患者申出療養に関する相談窓口です。患者申出療養がどのような制度か、どのような医療が対象になるのか、などについてお聞きになりたい方のご相談をお受けします。

がん診療相談室／小児がん相談室(がん相談支援センター)

当院に入院、通院されている患者さんやご家族、地域の皆様から「がん」に関するご相談を面談や電話で受けています。安心して療養生活を送れるよう、相談員が正しい情報の提供や意思決定のお手伝いをします。



難病相談窓口

宮城県からの委託を受け早期診断や難病患者の療養環境向上のための相談支援を行います。難病の患者・家族及び支援関係者からの相談を院内外問わず、対応します。

主な相談事例

- 在宅医療や療養に関しての不安や心配
- 医療的ケアに関すること
- 誰に相談したらよいかわからない等

セカンドオピニオン外来予約窓口

当院以外の医療機関で治療中の患者さんを対象に、現在の診断内容や治療法に関して、当院の専門医の意見や判断を提供いたします。地域医療連携センターでは、その予約受付および医師と患者さんとの連絡調整を行っています。

退院・在宅支援、退院調整

当院に入院・通院されている患者さんが安心して療養生活が継続できるよう、入院早期から看護師とソーシャルワーカーのペアで各病棟の退院支援を行っています。毎日病棟と情報共有を行い、毎週定期的に多職種で退院支援カンファレンスを実施しています。院内外が多職種と密に連携しながら、一人一人の患者さんに合わせた支援ができるよう、「後方支援チーム」として活動しています。



入退院センター

患者さんが安心して入院生活を送れるよう、看護師や薬剤師、ソーシャルワーカー、管理栄養士などの多職種が、主治医と密に連携しながら入院前から患者さんのサポートを開始しています。また、入院前から地域の医療機関との強い連携体制のもと、退院に向けた支援を積極的に行っています。

対象となる診療科(今後、他診療科へも拡大を予定)

- | | | |
|--------------|----------|--------------|
| ■ 腎・高血圧・内分泌科 | ■ 心臓血管外科 | ■ 皮膚科 |
| ■ 血液内科 | ■ 整形外科 | ■ 眼科 |
| ■ リウマチ膠原病内科 | ■ 形成外科 | ■ 耳鼻咽喉・頭頸部外科 |
| ■ 糖尿病代謝科 | ■ 呼吸器外科 | ■ 放射線治療科 |
| ■ 加齢・老年病科 | ■ 婦人科 | ■ 放射線診断科 |
| ■ 呼吸器内科 | ■ 泌尿器科 | ■ 歯科顎口腔外科 |
| ■ 腫瘍内科 | ■ 脳神経内科 | ■ 歯科麻酔疼痛管理科 |
| ■ 総合外科 | ■ 脳神経外科 | |



オープンカンファレンス

当院では2017年度より「医療と介護のより良い連携を目指して」をテーマとして東北大学病院地域医療オープンカンファレンスを開催しています。この会は当院の後方支援担当者と、地域の後方支援に関わる担当者が直接交流することで顔の見える連携を推進し、円滑な転院・退院調整に繋げることを目的として開催しています。参加者は院外より訪問看護師、ケアマネジャー、相談員、行政職員の方など多職種の方に参加していただいています。また、毎回おこなっているグループワークでは院内外の参加者混合でテーマに沿って活発なディスカッションをおこなっています。病院、介護、訪問看護、行政などの様々な分野の方から意見を聞くことができ回数を重ねる毎に充実してきています。当院で、このような会を開催することで他施設間の交流の機会ともなっており地域全体の「顔の見える連携づくり」にも貢献できていると思います。

2020年度からはCOVID-19感染症対策を講じながらZOOMを使用したweb開催も行いました。今後も、参加された方の有意義な時間となるように地域のニーズを取り入れながら企画して継続していきます。



地域医療連携協議会

日頃、当院との医療連携にご協力いただいている地域の医療機関とのさらなる連携強化をはかり、医療機関の機能分化を促進することを目的として、年に1回、地域医療連携協議会総会を開催しています。当院の最近の動きや、診療科、部署についてご紹介し、情報の交換、共有を行う場でもあります。

2020年度より、新型コロナウイルス感染症のため開催を見合わせております。

2019年度の様子



紹介患者さんの診療予約受付・外来診療担当医表の発行

当院では、地域医療連携を推進するため他院からのご紹介患者さんを対象として新患予約を受け付けております。紹介元医療機関が当院へ患者さんをご紹介いただく際にお役立ていただけるよう外来診療担当医表を作成しております。



予約申込みのご案内
[年2回発行]



外来診療担当医表
[年2回発行]



診療のご案内
[年1回発行]



With
[年2回発行]

先進医療のご紹介

2022年5月現在

お問い合わせに関しましては、実施している診療科外来までお願いします。

(健康保険等及び公費負担は適用になりません)

正式名称(厚生労働省届出)	金 額	診療科	承認日
ウイルスに起因する難治性の 眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	1回につき 45,310 円	眼科	2016年6月1日
細菌又は真菌に起因する難治性の 眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	1回につき 25,510 円	眼科	2016年6月1日
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫 (初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	1連につき 113,400 円	脳神経外科	2017年1月1日
腹腔鏡下スリーブ状胃切除術及び十二指腸空腸バイパス術	1回につき 714,640 円	総合外科	2018年3月1日
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与 の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移 を伴うものに限る。)	1コース当たり 33,823 円	総合外科	2020年1月1日
細胞診検体を用いた遺伝子検査	0 円	呼吸器内科	2020年12月1日

CLINICAL DEPARTMENT

[Medical]

医科診療科

内科

総合診療科	14
循環器内科	15
総合感染症科	16
腎・高血圧・内分泌科	17
血液内科	18
リウマチ膠原病内科	19
糖尿病代謝科	20
消化器内科	21
加齢・老年病科	22
漢方内科	23
心療内科	24
呼吸器内科	25
腫瘍内科	26

外科

総合外科(肝胆膵・移植グループ)	27
総合外科(上部消化管・血管グループ)	28
総合外科(下部消化管グループ)	29
総合外科(乳腺・内分泌グループ)	30
総合外科(小児外科グループ)	31
心臓血管外科	32
整形外科	33
形成外科	34
麻酔科	35
緩和医療科	36
呼吸器外科	37
救急科	38

産婦人科・泌尿生殖器科

婦人科	39
産科	40
泌尿器科	41

脳・神経・精神科

脳神経内科	42
脳神経外科	43
精神科	44

小児科

小児科	45
遺伝科	46
小児腫瘍科	47

感覚器・理学診療科

皮膚科	48
眼科	49
耳鼻咽喉・頭頸部外科	50
肢体不自由リハビリテーション科	51
てんかん科	52
内部障害リハビリテーション科	53
高次脳機能障害科	54

放射線科

放射線治療科	55
放射線診断科	56

内科

総合診療科

TEL 022-717-7509(外来)



科長
石井 正 教授



地域の先生方へ

- なんでも診療しますが、受診するためには紹介状をお願いします。
- 診断がつき次第あるいは診断の検討がつき次第、担当診療科に紹介します。
- 原則的に外来診療のみ



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

総合診療は以前の大講座の医療体制から臓器別・領域別の専門医分担当が進むなかで必要性が分かってきた診療領域です。総合診療の医療領域にはプライマリ・ケア、予防医療、訪問診療(家庭医)、病院総合診療などが含まれます。これらのうち当院の総合診療科は専ら病院総合診療を担当しております。

当科では何らかの症状に対してまだ診断がついていない患者さん、複数の医療機関を受診しても症状が改善されない患者さん、さらに精神疾患が重なって複雑な病態となっている患者さんなどが受診されます。

私たちは、鑑別診断による臨床診断、簡易心理検査などを行い適切に診断して、あるいは診断の方向性をつけて、その担当診療科に紹介いたします。一度の紹介で診断がつくこともありますが、複数回紹介し直すことが普通です。

当診療科には様々な領域の専門医が所属しており、症例検討会でそれぞれの知識を共有し討論し適切な診断に近づけよう日々研鑽を重ねております。

鑑別診断にお時間がかかる場合がございますのでご了承ください。

得意分野

- 総合診療専門医、家庭医専門医、病院総合診療専門医などの研修プログラムを担当しております。
- 災害医療・災害対策、コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラムを担当しております。震災被災地の医療支援やコロナパンデミック対策医療を行っております。社会学系専門医・指導医がいます。
- 身近にある興味・フィールドワークなどから研究すること。大学病院の総合診療・被災地医療支援・災害対策・コロナパンデミック対策など診療の中で感じた興味をテーマに研究し、これまでに多数報告しております。



主な対象疾患

頭痛

胸部の症状(胸痛、動悸、呼吸困難など)

腹部の症状(腹痛、腹部膨満感、腹部違和感など)

消化器の症状(嘔気、下痢、便秘など)

腰痛・関節痛

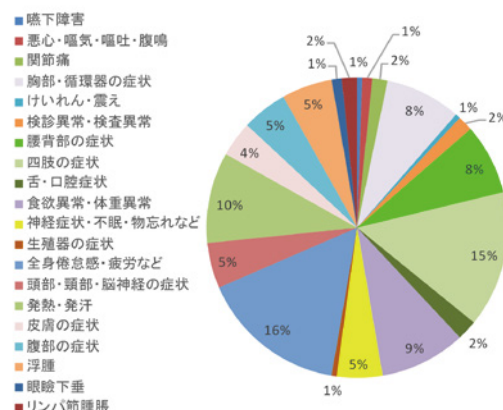
全身倦怠感

めまい

しびれ

ほてり など

なかなか診断のつかない症状

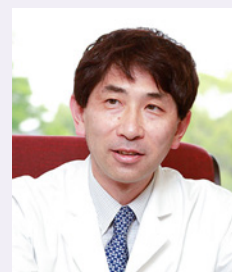


2021年総合診療科外来新患(217名)

内科

循環器内科

TEL 022-717-7728(外来)



科長
安田 聡 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

生活習慣病の管理から最先端技術を駆使したカテーテル治療まで、循環器専門医が診療にあたります。いつでも気軽に相談できて最適で包括的な診療が受けられるよう心がけております。

診療内容

当科では、虚血性心疾患に対するカテーテル診断を年間約600例、冠動脈に対するカテーテルインターベンション治療を年間約200例施行しています。ハイリスクの重症大動脈弁狭窄症症例に対してはハートチームのもと経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)を年間約50例行っております。

不整脈領域では心房細動を含む頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を年間約240例施行しています(図1)。ペースメーカー、両室ペーシング、植込型除細動器などあらゆるデバイス治療を行っております。

心筋疾患、弁膜症等に伴う重症心不全に対して、心臓血管外科と協力して体外式膜型人工肺(ECMO)や補助循環用ポンプカテーテル(インペラ)による機械的循環補助に取り組んでいます。慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する肺動脈バルーン拡張術を年間約110-120件施行しています。

低侵襲検査法としては、心臓MRI検査を用いて基礎的心疾患の診断を行っています。冠動脈CT検査での動脈硬化病変の検出、ポジトロン断層撮影(PET)、心筋シンチ検査などの心臓核医学検査により心筋虚血を評価しています。経食道を含む心臓超音波検査も多数実施しています。

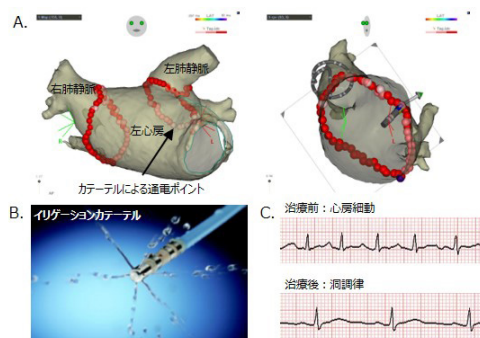
得意分野

虚血性心疾患では冠動脈造影と血管内イメージングによる詳細な形態学的検討に加え、機能的検査(FFR)を行い、より質の高い冠動脈インターベンション治療を行っております。また、冠攣縮誘発試験による冠攣縮性狭心症、微小循環狭心症を診断しています。世界的に評価の高い東北慢性心不全登録(CHART)研究のデータを基礎とした心不全の薬物・非薬物(デバイス)療法を行っています。肺高血圧症診療では日本有数の症例数を有しています。専門性の高い心房細動に対するカテーテルアブレーションについても県内有数の症例数です。



主な対象疾患

虚血性心疾患	徐脈性不整脈
狭心症	洞不全症候群
心筋梗塞	房室ブロック
心臓弁膜症	徐脈頻脈症候群
(大動脈弁狭窄症など)	頻脈性不整脈
心筋症	心房細動
拡張型心筋症	心房粗動
肥大型心筋症	発作性上室性頻拍
高血圧性心筋症	心房性期外収縮
不整脈原性右室心筋症	心室性期外収縮
心ファブリー病	心室頻拍
心サルコイドーシス	心室細動
心アミロイドーシス	Brugada症候群
心筋炎	QT延長症候群
肺高血圧症	成人先天性心疾患
肺動脈性肺高血圧症	静脈血栓塞栓症
慢性血栓性肺高血圧症	がん治療に伴う心疾患
	薬剤性心筋症
	放射線性心膜炎



(図1) 心房細動に対するカテーテル治療

内科

総合感染症科

TEL 022-717-7766(外来)

完全予約制



科長
徳田 浩一 特命教授



地域の先生方へ

総合感染症科は、感染症専門医・指導医、抗菌化学療法指導医等の資格を有する医師が診療に携わっています。難治性感染症、薬剤耐性菌感染症、免疫不全関連感染症、術後感染症など多様な感染症の診断・治療・予防のトータルマネジメントを実践しています。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

公衆衛生の発展や優れた抗微生物薬の開発で制圧できたかに見えた感染症は再び私たちの前に大きな脅威として立ちはだかっています。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌や多剤耐性緑膿菌などの薬剤耐性菌による院内感染の全国的な発生や、世界的大流行（パンデミック）に発展した2009年の新型インフルエンザウイルス感染症、西アフリカにおけるエボラウイルス病、中東を中心に現在も発生が続いている中東呼吸器症候群（MERS）、そして近年、パンデミックとなっている新型コロナウイルス感染症（COVID-19）など、さまざまな新興・再興感染症が次々と出現しています。感染症は個人・病院の問題に留まることなく時に社会全体の脅威となることから、当診療科では病院内外における感染症マネジメントを行っています。

感染症への罹患によって、社会生活が大きく制限されることもあることから、患者とその取り巻く状況を俯瞰して総合的なマネジメント（診断、治療、予防、社会復帰）に心がけています。多岐にわたる感染症に対して、さまざま診療科と協力しながら感染症診断へのサポート、抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬の選択や投与量・投与方法に関するアドバイスや、感染予防に関するコンサルテーション業務を日々行っています。

得意分野

感染症は原因微生物が伝播する、すなわち他者にも疾患をおこし得るという特殊性があるため、個人や施設を超えて、地域に伝播して広がる可能性があります。そのため、総合感染症科では、院内での感染対策活動だけでなく、地域の医療施設における感染症診療・感染対策にも協力支援しています。さらに、宮城県における唯一の第一種感染症指定医療機関として、エボラウイルス病など感染リスクの高い感染症にも対応可能な第一種病室を院内に設置し、地域そして宮城県の感染症診療を支えていきたいと考えています。



主な対象疾患

- | | |
|--|-------------|
| 重症全身性感染症 | 呼吸器感染症 |
| 敗血症 | 肺炎 |
| 細菌性心内膜炎 | 気管支炎（慢性・急性） |
| 髄膜炎 | 上気道炎 |
| 消化器感染症 | 結核 |
| 腸管感染症 | 非結核性抗酸菌症 |
| （細菌性・ウイルス性など） | インフルエンザ |
| 胆道感染症 | |
| 尿路感染症 | |
| 外科手術関連感染症、移植関連感染症、免疫不全関連感染症、その他各科領域関連感染症 | |
| HIV感染症 | |
| 薬剤耐性菌感染症 | |
| 熱帯感染症・寄生虫感染症、渡航者感染症 | |
| 新興ウイルス感染症 | |
| （新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、エボラウイルス病（EVD）、中東呼吸器症候群（MERS）、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）など） | |



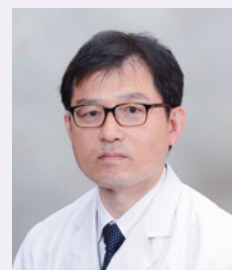
総合感染症科と感染管理室の合同カンファ（毎週1回）

内科

腎・高血圧・内分泌科

TEL 022-717-7778(外来)

完全予約制



科長
田中 哲洋 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

新患日：月曜・水曜・金曜 予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いします。
急患はその限りではありませんので、直接外来へご相談下さい。

診療内容

当科では腎臓病、高血圧および内分泌疾患の診療を行っています。内分泌疾患の年間入院数は、原発性アルドステロン症150例、褐色細胞腫約20例、クッシング症候群30例、視床下部・下垂体疾患約50例、原発性副甲状腺機能亢進症約30例、その他、下垂体前葉機能低下症・中枢性尿崩症・SIADHなどがあります。二次性高血圧症、内分泌疾患は症例の集約と追跡の体制が整備され、丁寧で確実な診断に定評があり、全国にまたがって患者さんをご紹介をいただいております。腎臓病に関しては、適応症例に対してエコーガイド下腎生検を年間153例実施しています。疾患毎の診療実績としては、IgA腎症30例、原発性ネフローゼ症候群37例（膜性腎症、巣状分節性糸球体硬化症、微小変化型ネフローゼ症候群など）、その他二次性腎臓病（ループス腎炎など）、ANCA関連腎炎、糖尿病性腎症（入院管理、外来での透析予防指導）、多発性嚢胞腎、などが挙げられます。また、腎代替療法選択に向けた情報提供と導入（血液透析が年間56例、腹膜透析の導入と維持管理が約5例、腎移植に向けたコーディネートを年間約5例）もを行っています。さらに当科領域の疾患を持つ患者の周術期・周産期コンサルテーションなど、重症・高難度疾患患者の診療にも貢献しています。

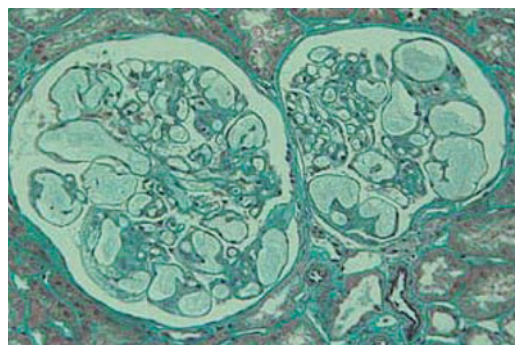
得意分野

- 腎臓病：生検病理診断。全身疾患や薬剤などに起因する腎臓病の病態診断と治療。
- 遺伝性腎疾患の診断確定、現在可能な治療の実施。
- 慢性腎不全の管理、透析予防指導
- 腎代替療法の導入、患者さん、ご家族の意思、身体や生活状況を多角的に検討し、協働での意思決定（Shared Decision Making）から、患者さんに最適の方法を選択して導入する。
- 若年性高血圧、治療抵抗性高血圧、電解質異常の原因精査。
- 副腎疾患：各種負荷試験や画像診断。副腎静脈サンプリング検査。
- 腎血管性高血圧症：画像診断と血管拡張術や薬物療法の決定。
- 副甲状腺機能異常



主な対象疾患

慢性糸球体腎炎
ネフローゼ症候群
糖尿病や全身性疾患に続発する腎臓病
遺伝性の腎疾患
薬剤性腎障害（急性、慢性）コンサルテーション
保存期腎不全：糖尿病性腎症の透析予防、
将来の腎代替療法の選択を見据えた透析前の管理
末期腎不全：血液透析、腹膜透析、
腎移植の選択 支援と導入期医療
原発性アルドステロン症、クッシング症候群、
褐色細胞腫などの内分泌性高血圧症及び副腎疾患
クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症、
中枢性尿崩症などの下垂体疾患
原発性副甲状腺機能亢進症、内分泌性骨粗しょう症
などのCa骨代謝疾患
妊娠高血圧症候群
腎血管性高血圧症



リボプロテイン腎症

内科

血液内科

TEL 022-717-7730(外来)

完全予約制



科長
張替 秀郎 教授



地域の先生方へ

血液内科では、難治性の血液疾患を診療しています。病棟は17床の無菌室、準無菌室の特殊病室を備えており、東北地区の中心的病院として先進的な診療を行っています。新患は完全予約制ですが、患者さんの容態、検査結果から急を要すると思われるときはいつでも地域医療連携センターにご連絡ください。担当医が直接状況を伺い、対応いたします。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

これらの疾患に対して一般的な治療から最新の治療まで幅広い対応ができるように、日本血液学会専門医11名、日本造血細胞移植学会認定医4名、日本輸血細胞治療専門医4名が、専門診療にあたっています。特に造血器腫瘍に対しては、分子標的薬や生物学的製剤、さらに必要に応じて細胞治療や造血幹細胞移植を組み入れ、疾患や患者さんの状態に合わせた最善の治療を行うよう心がけています。新薬を用いた治験を数多く行っているのも特徴です。血液疾患は全身に様々な症状を呈する場合がありますが、当院に数多くある他診療科と迅速に連携して治療を進めることも可能です。さらに、日常の診療においても、リハビリテーション科、総合感染症科、歯科、臨床心理士、栄養科との協力体制を構築し、集学的治療を実施しています。造血幹細胞移植については、非血縁者間移植ができるよう認定を受けた移植施設であるとともに、全国に12施設選定されている造血幹細胞移植推進拠点病院の一つであり、血縁者および非血縁者ドナーからの骨髄移植/末梢血幹細胞移植/臍帯血移植が実施可能な施設です。移植件数は常に東北地区のトップクラスです。

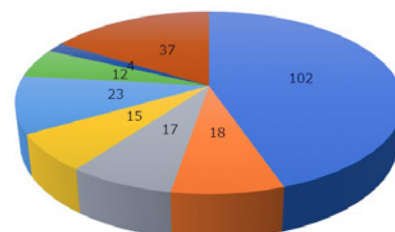


主な対象疾患

急性骨髄性／リンパ球性白血病
悪性リンパ腫
多発性骨髄腫
骨髄異形成症候群
慢性骨髄性／リンパ球性白血病
真性赤血球増加症
本態性血小板血症
骨髄線維症
再生不良性貧血
溶血性貧血
巨赤芽球性貧血
免疫性血小板減少症
血友病

得意分野

上記のすべての血液疾患に対し最新の治療を行っています。加えて免疫細胞療法については全国的にも実施ができる数少ない施設の一つです。また、治験実施数も全国的に上位で、その内容も難治性血液疾患全般にわたっており、新たな治療法の開発を積極的に進めています。



■ 悪性リンパ腫 ■ 急性白血病 ■ 骨髄異形成症候群
■ 多発性骨髄腫、MGUS ■ 骨髄増殖性腫瘍 ■ 特発性血小板減少性紫斑病
■ 凝固異常 ■ その他

2020年に当科で診断した血液疾患内訳

内科

リウマチ膠原病内科

TEL 022-717-7730(外来) 完全予約制



科長
藤井 博司 特命教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

膠原病は原因不明の発熱や関節の痛みなど日常診療に潜むこともあり、確定診断と同様に適切な病変の評価が方針決定に重要です。原因不明の炎症が持続するとき当科疾患は鑑別の対象となりますが、進行性の臓器病変の有無を評価し経過観察となることもあります。

診療内容

膠原病とは全身の組織や臓器に慢性的な炎症が起こり、未治療であれば複数の臓器障害をきたし致命的になることもある疾患です。関節痛、皮疹、発熱が続く場合は膠原病やその類縁疾患(対象疾患参照)が原因のことがあります。膠原病の炎症は自己免疫により引き起こされていることが多く、治療はステロイドなどによる免疫抑制療法が主体となります。一昔前は診断がつきにくく治療開始が遅れたり、治療に伴う副作用で致命的になることも珍しくなかった疾患ですが、近年、疾患特異的抗体の測定、画像診断法の進歩による早期診断が可能となり、生物学的製剤などの分子標的療法の導入による治療方法の改善、副作用の軽減が実現してきております。

当科はわが国を代表するリウマチ膠原病診療施設の一つであり、日本リウマチ学会専門医を中心として専門的診療にあたっています。16床の病床を有し、大量ステロイド療法などが必要な場合は入院加療も行い、新規の治療も積極的に導入します。全身性疾患であり、他の診療科の先生方の協力を得て診療にあたりますが、各診療科にも優れた専門医、スタッフがそろっており、患者さんが最良の診療が受けられるように努めています。

得意分野

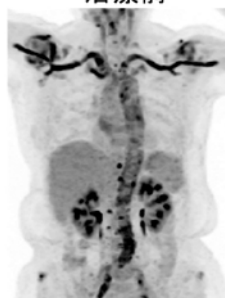
関節リウマチ以外の膠原病である全身性エリテマトーデス、炎症性筋疾患、強皮症、血管炎症候群などの症例も多いことが特徴です。ステロイド、免疫抑制薬、生物学的製剤、時には血漿交換も組み合わせた治療を行っています。集学的治療が必要な膠原病の急性期や、診断のついていない全身の炎症性疾患の診療も積極的に行っております。関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎/皮膚筋炎、血管炎症候群の難治例については新薬の治験も行っております。



主な対象疾患

関節リウマチ	多発血管炎性肉芽腫症
全身性エリテマトーデス	成人発症ステイル病
強皮症	ベーチェット病
多発性筋炎/皮膚筋炎	IgG4関連疾患
混合性結合組織病	リウマチ性多発筋痛症
抗リン脂質抗体症候群	乾癬性関節症
シェーグレン症候群	家族性地中海熱
高安動脈炎	不明熱/不明炎症
巨細胞動脈炎	
結節性多発動脈炎	
顕微鏡的多発血管炎	
好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	

治療前



治療後



巨細胞性動脈炎患者の血管炎の改善

内科

糖尿病代謝科

TEL 022-717-7779



科長
片桐 秀樹 教授



地域の先生方へ

糖尿病代謝科は代謝疾患診療の拠点として、多くの医療機関から患者さんをご紹介いただいております。一般的な糖尿病治療や合併症精査、教育目的などの入院症例のほか、治療に難渋する糖尿病や高度肥満症、低血糖症など様々な代謝疾患を担当しております。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

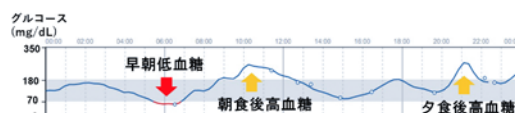
糖尿病と言っていましてもその病態は様々です。以前の糖尿病薬は、インスリン製剤と数種類の内服薬に限られていました。しかし現在は内服薬やインスリン製剤の多様化に加えて、注射剤ではGLP1製剤も登場し、無数の組み合わせから個々の患者さんのその時々々の病状に最も適した治療法を選択できる時代となりました。また、病態把握や治療効果判定の手段として持続血糖測定システム(CGMS)(図上段)を病棟と外来に備え、24時間の血糖変動を用いて治療の最適化を行っております。さらに血糖変動をモニターしながら持続インスリン注入療法(CSII)によりインスリン量を調節する、リアルタイムCGMセンサー併用型インスリンポンプ(SAP)療法(図下段)の症例も増えてきました。今年度はAI機能を搭載したSAP療法の導入により、1型糖尿病の血糖変動のさらなる改善が期待できます。当科では、一般的な2型糖尿病の病態把握や合併症精査、教育を一括で行う入院症例はもちろんのこと、治療に難渋する糖尿病や高度肥満症、低血糖症など、多岐にわたる代謝疾患を担当しております。また高血糖緊急症や重症低血糖などの急性疾患にも対応しております。当科での治療後、患者さんにはご紹介元の医療機関で治療を続けていただいております。

得意分野

近年、血糖変動の程度は血糖コントロールの指標としてその重要性が増してきています。CGMSの適応拡大も進み、より多くの患者さんの血糖変動を把握できるようになりました。当科ではCGMSやSAPの使用経験が豊富であり、外来や病棟において患者さんの病態把握を詳細に行いながら治療の最適化を図っております。また、糖尿病療養指導士や管理栄養士とともにチーム医療で療養指導に取り組んでおります。このように、日進月歩の医療技術に対応するとともに、患者さんの心理や社会的背景も含めた全人的な治療を目指すべく邁進しております。

主な対象疾患

- 1型糖尿病
- 2型糖尿病
- 妊娠糖尿病
- ステロイド糖尿病
- 内分泌異常に伴う糖尿病
- 膵性糖尿病
- ミトコンドリア糖尿病
- 高度肥満症
- 家族性高コレステロール血症
- 低血糖症



上段) CGMSにより血糖の推移を点ではなく線で捉えることができる

下段) CGMSで血糖値をリアルタイムにモニターしながらインスリン治療をすることが可能

上段: CGMSによる24時間血糖変動 下段: SAP療法

内科

消化器内科

TEL 022-717-7731 (外来)



科長
正宗 淳 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

消化器疾患が疑われる患者さんを遠慮なくご紹介下さい。新患日は火曜・金曜です。専門外来は上部消化管：月曜・火曜・木曜、肝臓：火曜・金曜、下部消化管：水曜・金曜、膵・胆道：火曜・木曜・金曜となっております。緊急の場合は曜日に関わらず対応いたします。

診療内容

消化器内科は上部消化管、下部消化管、肝臓、膵・胆道の4診療グループで構成され、各診療グループでは専門医・指導医を中心に経験豊富な多くの医師が診療に従事しており、安全で良質な医療を提供できる体制を整えています。

上部消化管疾患：胃・食道早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、内視鏡的静脈瘤硬化療法等の内視鏡治療を中心に診療を行っています。また、胃食道逆流症や機能性消化管疾患についても専門性を生かし診療にあたっております。**下部消化管疾患：**炎症性腸疾患の診断から寛解導入・維持療法の他、腫瘍性疾患のESD、カプセル小腸内視鏡検査やバルーン付小腸内視鏡検査等による診療を行なっています。**肝疾患：**肝疾患診療連携拠点病院として様々な肝疾患の診断・治療を行っています。肝癌に対してはラジオ波焼灼療法や血管塞栓術、持続動注療法、化学療法などを行い、肝不全に対しては総合外科と連携して肝移植を含めた治療を行っています。**膵・胆道疾患：**膵癌の早期診断や進行期の病理診断、感染性膵壊死に対する経消化管的治療、膵炎の遺伝子解析、膵石に対する体外衝撃波結石破碎術や膵管ステント留置などを行っています。また、胆道癌の術前評価や減黄処置、総胆管結石・肝内結石除去なども行っています。

得意分野

- **上部消化管疾患：**胃癌・食道癌・十二指腸腫瘍に対する内視鏡治療、24時間pHインピーダンスモニタリングを含む胃食道逆流症の診療
- **下部消化管疾患：**炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)の寛解導入および維持療法、大腸癌の内視鏡治療
- **肝疾患：**抗ウイルス療法(B型肝炎、C型肝炎)、非アルコール性脂肪性肝疾患の治療、肝細胞癌のラジオ波焼灼療法・血管塞栓術・化学療法
- **膵・胆道疾患：**膵癌の早期診断やEUS-FNAによる膵腫瘍等の組織診断、急性膵炎および慢性膵炎の治療、総胆管結石の結石除去術、悪性胆道疾患の減黄療法、十二指腸狭窄に対するステント治療

主な対象疾患

上部消化管

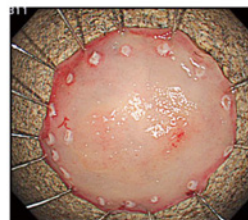
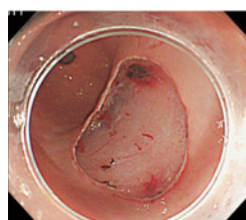
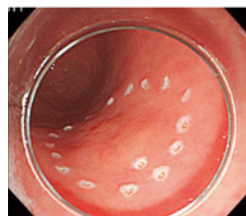
早期食道癌
早期胃癌
食道および胃粘膜下腫瘍
十二指腸腫瘍
食道胃静脈瘤
胃食道逆流症
胃・十二指腸潰瘍
機能性ディスペプシア
下部消化管
大腸ポリープ
早期大腸癌
潰瘍性大腸炎
クローン病
腸管型ペーチェット病

肝臓

急性肝炎・急性肝不全
ウイルス性肝炎
自己免疫性肝疾患
非アルコール性脂肪性肝炎
肝硬変(代償性・非代償性)
肝細胞癌をはじめとする
肝腫瘍

膵・胆道

膵腫瘍
急性膵炎
慢性膵炎
自己免疫性膵炎
胆道癌
胆石症



内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の内視鏡画像

内科

加齢・老年病科

TEL 022-717-7736(外来)

完全予約制



科長
中瀬 泰然 特命教授



地域の先生方へ

認知症疑い症例だけでなく、もの忘れを心配しているのみの方でもお気軽にご紹介ください。なお診察では生活状況も確認いたしますので、受診時にはご本人だけでなく同居しているご家族や介護者の同伴をご指示頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

アルツハイマー型認知症をはじめとする認知症では、その症状が患者本人のみならずご家族の大きな負担となります。うつ病や内臓疾患などでも記憶や注意力が低下してADLの阻害要因になります。がんや肺炎、骨粗鬆症、筋力低下(サルコペニア)、社会活動減少など加齢に伴った病態で生じる老年症候群も高齢者のADLを低下させる大きな要因です。私たちはこのような高齢者に対して、認知症専門医や老年病専門医、臨床心理士、看護師がチームとなり、詳しい問診、診察、神経心理検査、MRI検査、脳血流画像検査などにて精密な原因検索や診断・治療を行い、さらに介護者のサポートも行っています。特に高齢者総合機能評価(CGA)を積極的に用いることで、日常生活機能の障害となっている原因の軽減と予防へ向けた対策も行っています(図)。

また高齢者では、その多病性のために多数の薬剤が処方されることで生じる有害事象(ポリファーマシー)が懸念されております。睡眠薬や抗不安薬などの併用も転倒・骨折のリスクを高めます。私たちは高齢者のポリファーマシー改善に対して、外来診療のみならず入院診療も積極的に取り入れています。

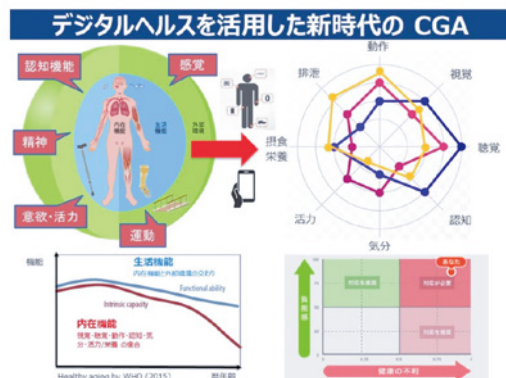


主な対象疾患

アルツハイマー型認知症
レビー小体型認知症
前頭側頭型認知症
脳梗塞後遺症・血管性認知症
パーキンソン病
多病を有する高齢者
総合機能評価が必要な虚弱高齢者
加齢性筋肉減少症(サルコペニア)
もの忘れが気になる高齢者
画像診断を希望する高齢患者

得意分野

- 各種画像検査や神経心理検査を用いたアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症など認知症の診断、鑑別、および治療。
- 幻覚・妄想、昼夜逆転、うつ状態、せん妄など認知症周辺症状(BPSD)の診断、鑑別、治療導入。
- 高齢者総合機能評価(CGA)を用いた老年症候群の診断とADL改善へ向けた介入。
- 多剤服用による有害事象(ポリファーマシー)の改善や対策。



デジタルヘルスを活用した新時代のCDA

内科

漢方内科

TEL 022-717-7736(外来)

完全予約制



科長
石井 正 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

予約をいただいております。受診を希望される方はあらかじめ地域医療連携センターにお申込みください。また、再来診察の予約調整については漢方内科外来022-717-7736にお電話ください。

診療内容

漢方の診察は、望診(視る)・聞診(聞く、嗅ぐ)・問診(話を聞く)・切診(触る)といわれる診察方法により行われ、漢方独自の理論体系に基づいて診断が下されます。この診断をもとに、西洋医学による治療だけでは十分な回復が得られない方々に漢方による併用治療を行っております。

漢方内科では漢方薬及び鍼灸治療を実践しています。漢方薬による治療は、エキス剤と煎じ薬を用いて行っています。エキス剤はあらかじめ決められた分量で服用しやすいように包装されたものを処方し、煎じ薬は患者さんの症状にあわせて各々の生薬を独自に配合し、煎じてから内服します。鍼灸治療はツボに鍼や灸で刺激を加えて筋肉痛や関節痛を緩和しますが、時には内臓や精神的な症状にも用いられます。診断と治療がびたりと一致した時に、これらの治療は著効を示します。最近では、冷え症の患者さんが増えており、漢方薬特有の「体を温めてエネルギーを巡らせる治療」で症状が軽減する症例を数多く経験しています。また、シールタイプで皮膚に貼れる極小鍼を使用し、鍼治療時の痛みを伴わずゆっくりと治療ができる方法も取り入れています。さらに、高齢者の歩行障害、排尿障害など加齢とともに生じる様々な機能低下に対する治療も行っております。

得意分野

漢方の治療対象となる疾患・症状は診療科横断的であり、がん化学療法に伴う手足のしびれや倦怠感、脳血管障害の後遺症、神経難病、膠原病、炎症性腸疾患、アトピー性皮膚炎など様々な病態に対し、西洋医学による治療だけでは十分な回復が得られない方々に漢方や鍼灸による併用治療を行っています。当科では漢方治療の科学的検証も積極的に進めています。最近では、「脳血管障害後遺症患者さんの機能性便秘に対する漢方薬の効果」、「東日本大震災後の心的外傷後ストレス障害に対する漢方薬の効果」、「鍼灸による嚥下機能の改善効果」、「がん治療のサポート」など最新の研究を報告しつつ、臨床に応用しています。



主な対象疾患

冷え症、ほてり、のぼせ
倦怠感、食欲不振
虚弱体質
しびれ、痛み
月経に関連する諸症状
更年期に関連する諸症状
膠原病に伴伴する症状
加齢に伴伴する症状
慢性的な消化器症状
がん治療のサポート



患者さんの状態に応じて漢方薬、鍼灸治療をご提供しています。

内科

心療内科

TEL 022-717-7734(外来)

完全予約制



科長
福土 審 教授



地域の先生方へ

新患は完全予約制です。ストレスによって発症もしくは増悪している疾患を中心にご紹介下さい。摂食障害の患者さんをご紹介いただく場合は入院までの間、点滴等栄養補給をお願いすることがあります。幻覚、妄想、パーソナリティ障害は心療内科の担当範囲とは異なりますのでご了解下さい。改善後は患者さんをお返しする方針です。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

心療内科は、「心理社会的ストレスによって発症もしくは増悪する内科疾患」を主な診療対象にしています。現代社会には様々なストレスが多く、これによる疾患群が非常に重要です。心理社会的ストレスによって発症・増悪する身体疾患を心身症と言います。心身症においては、患者さん自身はストレスを自覚していない場合があります。不安症、うつ病も、心理社会的ストレスによって発症・増悪し、しばしば内科疾患を合併します。これらの疾患の根底には、海馬、扁桃体、前帯状回などの情動を司る脳部位、あるいはそれらを制御する前頭前野の機能的異常や器質的異常が存在します(図1)。心身症では、ストレスを受けてから脳機能が変化し、各臓器が影響を受ける心→身の経路があります。それだけでなく、各臓器の信号が脳に伝達されて脳機能が変化する身→心の経路が病態を作っています。

過敏性腸症候群はAMEDムーンショット型研究開発事業の対象疾患として腸内細菌分析、バイオマーカー測定、遺伝子多型分析が可能です。また、摂食障害治療支援拠点病院に指定されており、東日本の重要拠点としての役割を担って活動しています。治療としては、最新の脳科学と臨床薬理学に基づく薬物療法を行います。心身医学療法として、自律訓練法、交流分析法、認知行動療法などを実施しています。

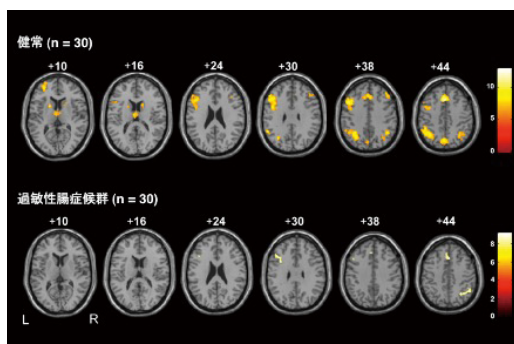
得意分野

- **機能的消化管障害**: 消化器症状が持続し、内視鏡や消化管造影など一般的な検査では異常がない状態です。過敏性腸症候群や機能的ディスぺプシアがその代表です。東北大学心療内科の機能的消化管障害に関する診療・研究・教育レベルは世界トップクラスの評価を得ています。
- **摂食障害**: 心身医学的診療により、心身の異常を改善させます。摂食障害治療支援センターのページ(P88)をご覧ください。
- 情動に伴う様々な身体変化・認知・行動に対し、最新の脳科学に基づいて介入します。東北大学心療内科は日本の各大学の心療内科等と共同し、新しい認知行動療法や薬物療法を開発しています。



主な対象疾患

ストレス関連疾患全般	周期性嘔吐症候群
心身症	回避・制限性食物摂取症
過敏性腸症候群	過食性障害
機能的ディスぺプシア	機能的食道障害
神経性やせ症	機能的身体症候群
神経性過食症	パニック障害
機能的便秘	不眠症
機能的下痢	内科疾患(身体疾患)に併存するうつ病
機能的腹部膨満症	内科疾患(身体疾患)に併存する不安障害
中枢性腹痛症候群	内科疾患(身体疾患)に併存する適応障害
慢性疼痛	
線維筋痛症	
慢性疲労症候群	
慢性悪心嘔吐症候群	



(図1) 過敏性腸症候群の機能的磁気共鳴画像

内科

呼吸器内科

TEL 022-717-7875(外来)



科長
杉浦 久敏 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

初回は新患担当医が診察し必要な検査等を実施・予約した後、2回目以降に各専門外来にて診察させていただきます。急を要する場合など特別な対応が必要な場合には事前にご相談いただければ幸いです。

診療内容

当科は呼吸器疾患全般を対象としています。エビデンスに基づく治療や臨床試験を実施しながら、安全で適切な診療を提供しています。

COPD:精密呼吸機能検査や呼気ガス検査、画像検査を駆使して診断し、適切な気管支拡張薬を用いて治療します。増悪時の対応に加え、呼吸リハビリや在宅酸素療法など包括的な診療を行っています。

気管支喘息:症状に加え、血液検査や呼気ガス検査、呼吸機能検査、画像検査を用いて診断し、吸入ステロイド薬や気管支拡張薬による治療を行います。重症例での生物学的製剤による治療経験も豊富です。

肺癌・縦隔腫瘍・胸膜腫瘍:遺伝子変異検査により分子標的薬の適応を評価し、化学療法や免疫チェックポイント阻害剤、放射線療法、緩和ケアを組み合わせながら集学的に治療しています。

間質性肺疾患:原因が特定できない特発性間質性肺炎、膠原病に伴う間質性肺炎、特殊な環境抗原吸入による過敏性肺炎などが対象です。画像検査や呼吸機能検査、気管支鏡検査、胸腔鏡下肺生検による適切な診断と治療を心がけています。

呼吸器感染症:細菌をはじめとする様々な感染症を対象としています。喀痰や気管支鏡検査、血清マーカーなどにより原因菌を特定し、適切な抗菌薬治療を行います。

睡眠時無呼吸症候群:終夜睡眠ポリグラフ検査により診断し、中等症以上では主に経鼻的持続陽圧呼吸療法による治療を行っています。

サルコイドーシス:検診や眼科のぶどう膜炎などをきっかけとして発見され、気管支鏡検査などの検査によって診断します。多臓器病変を有する症例では、各専門科と協力し、最適な治療法を提供します。

得意分野

呼吸器における上記主要疾患の診療に加え、肺胞蛋白症・肺リンパ管筋腫症などの稀少疾患に対しても、全国有数の治療実績を有しています。地域の医療機関と連携し、東北地方最大の呼吸器拠点病院として責任をもって診療に取り組んでいます。



主な対象疾患

慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	呼吸器感染症 (肺炎、抗酸菌症、 真菌感染など)
気管支喘息	間質性肺炎
肺癌	アレルギー性肺疾患
縦隔および胸膜腫瘍	サルコイドーシス
睡眠時無呼吸症候群	



気管支鏡検査

内科

腫瘍内科

TEL 022-717-7879(外来)

完全予約制



科長
石岡 千加史 教授



地域の先生方へ

がん薬物療法を行うにあたり事前の病名告知は必要な条件です。ご紹介の際には患者さん(できればその家族にも)に可能な限り病名と病状の説明をお願いします。治療方針の決定や紹介先に迷う患者さん、集学的治療やがんゲノム医療が必要な患者さんにもご紹介いただければ対応します。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

私たちの腫瘍内科は、主に進行・再発のがん患者さんを対象として、がん薬物療法とその副作用および合併症に対する支持療法を担当する診療科です。対象疾患は図に示す通り、消化器系の悪性腫瘍が多くを占めますが、その他の臓器や希少がん・難治がんの治療を積極的に行っています。2018年2月、当院はがんゲノム医療中核拠点病院に指定され、がんゲノム医療の東北地方の拠点になりました。当科は院内関連診療科と連携病院と協力し、がん遺伝子パネル検査(別名、がんゲノムプロファイリング検査)のエキスパートパネル(最終診断のための専門家会議)を主催し、がんのゲノム検査の結果に基づいた診療、臨床研究、治験を実施しています。

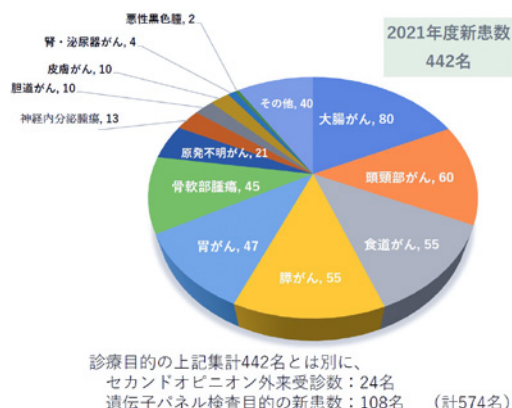
当科の外来診療は東病棟4階(診察室5室)で、入院診療は西病棟16階(病床数26床)で行っています。また、治療の多くは外来に隣接する化学療法センターで実施しています。当院の化学療法センターは全国大学病院中で最大規模(31床、年間約15,000件の治療)であり、当科はその運営の一翼を担います。専門性の高い看護師や薬剤師等のスタッフのもと、安全かつ快適に治療を受けていただけます。また、入院治療が必要な患者さんへも万全の体制で対応いたします。入院中のみならず、退院後も安心して過ごせるよう多職種のメディカルスタッフや地域医療機関と連携して診療いたします。

得意分野

当科は1969年開設以来、がん薬物療法を中心とする進行がん治療に取り組んできた日本で最も長い歴史を有する専門的診療科です。常に最新のエビデンスに基づいた最適ながん薬物療法を提案いたします。進行がんは治癒を期待することが難しく、治療の主な目的は延命となりますが、患者さん、家族に寄り添い、その希望、価値観を尊重し、がんの薬物療法のみならず、がん治療のトータルマネジメントを担当し、納得できる治療を提供いたします。新規抗がん薬の治験や新規治療法の臨床試験にも積極的に参加しており、がん薬物療法の治療成績の向上に取り組んでおります。専門医の育成にも注力しており、これまでに計38名の「がん薬物療法専門医」を輩出し、そのうち現在9名が在籍しています。がんゲノム医療においては、東北地方のがんゲノム医療の牽引役として、その提供体制の整備、普及、啓発、人材育成に貢献しています。

主な対象疾患

消化器がん
(食道、胃、大腸、肝・胆・膵、消化管間質腫瘍)
頭頸部がん 骨軟部腫瘍癌
細胞腫瘍 悪性黒色腫瘍
神経内分泌腫瘍 原発不明がん
上記以外の希少がん・難治がん
特定遺伝子に変異を有するがん
遺伝性腫瘍・家族性腫瘍
その他般悪性腫瘍全般



新患者内訳

外科

総合外科（肝胆膵・移植グループ）

TEL 022-717-7740（肝胆膵）／7742（移植） 完全予約制



科長
海野 倫明 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

我々は肝胆膵領域の良性疾患から癌の外科治療、移植医療を専門としています。腹腔鏡下手術やロボット手術を取り入れた低侵襲治療や、他院では切除できないと言われた難治癌に対する手術を含めた集学的治療、日本有数の経験数を誇る肝・腎・膵移植治療が当科の特色です。

診療内容

膵臓分野では、当科が主体となって行った多施設共同研究により切除可能な膵癌に対する術前化学療法の有効性を世界で初めて示すことができました。当科は膵癌外科治療において世界をリードする施設です。胆道分野では、他院で切除不能と言われた症例でも、化学療法を組み合わせた集学的治療により、積極的に切除を行い良好な成績を発表してきました。また、内視鏡やロボット手術を積極的に取り入れ、肝胆膵の内視鏡手術専門医が数多く在籍しています。当科は、日本有数の肝胆膵手術のハイボリュームセンターであり、患者さんの幸せに繋がるよう、日々新しいことに挑戦し続けています。

移植肝臓外科分野では、腹腔鏡下肝切除を積極的に導入しております。また、移植手技を応用し、他院で切除不可能と言われた高度進行癌に対する血管合併切除再建を伴う高難度手術も積極的に行っております。臓器移植の分野では、肝移植、膵移植、腎移植を行っております。肝移植はこれまでに220例以上を行い、近年の5年生存率は90%を超え世界的にみても良好な成績を維持しております。また膵腎同時移植15例、膵島移植3例、腎移植は140例以上に施行しています。

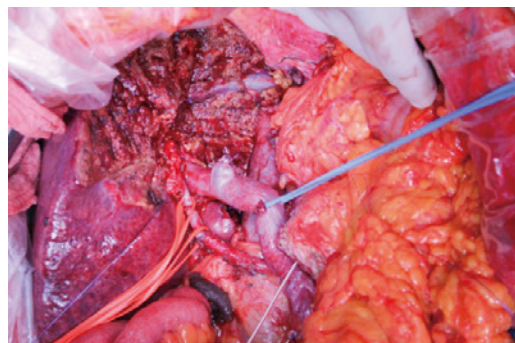


主な対象疾患

- 肝臓：肝細胞癌、肝内胆管癌、転移性肝癌、肝腫瘍、肝内結石症、肝動脈疾患、脾機能亢進症、門脈圧亢進症など
- 胆道：胆管癌、胆嚢癌、乳頭部癌、膵・胆道合流異常症、先天性胆道拡張症など
- 膵臓：膵臓癌、嚢胞性膵腫瘍（IPMN、MCN）、膵神経内分泌腫瘍（pNET）、慢性膵炎など
- 移植：肝移植対象疾患（胆道閉鎖症、原発性胆汁性肝硬変、原発性硬化性胆管炎、アラジール症候群、末期肝不全等）腎移植対象疾患（慢性腎不全）、膵・膵島移植対象疾患（1型糖尿病）

得意分野

- 膵臓癌や胆道癌に対する外科的治療、膵臓や胆道疾患に対する低侵襲治療（ロボット支援下膵切除、腹腔鏡下膵切除、腹腔鏡下胆管切除、腹腔鏡下胆嚢摘出術）、局所進行膵臓癌や胆道癌に対する手術を含めた集学的治療
- 肝臓癌や転移性肝腫瘍に対する外科的切除や腹腔鏡下切除、肝移植、膵移植、腎移植、肝胆膵領域近傍の後腹膜腫瘍に対する手術



肝左葉尾状葉切除+膵頭十二指腸切除後

外科

総合外科(上部消化管・血管グループ)

TEL 022-717-7742(食道・血管) / 7740(胃)

一部予約制



科長
亀井 尚 教授



地域の先生方へ

私たちは食道・胃疾患に対する上部消化管外科と腹部・末梢血管疾患に対する血管治療を専門領域として診療を行なっております。各領域において先進的医療を低侵襲で行い、豊富な経験から各分野で日本をリードする実績を誇っております。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

食道分野では本邦初の胸腔鏡下食道癌手術を導入して以降、ロボット手術(da Vinci)を含め常に低侵襲な手術を心がけています。手術以外でもESDや光線力学療法(PDT)、他科と連携した集学的治療など患者さんに最も適した治療を提供しています。癌診療以外ではアカラシアや食道裂孔ヘルニアなどあらゆる食道疾患に対して、診断からPOEMといった最新の外科治療まで行っています。

胃外科分野では胃癌に対して鏡視下手術を標準的に行なっています。また、高度進行癌に対しては術前化学療法を施行し、進行度に応じて適切な治療を実践しています。病的肥満症の外科治療では、保険診療のスリーブ状胃切除術と先進医療のスリーブ・バイパス術を施行しています。高い減量効果と糖尿病改善効果があり、QOLのみでなく生命予後の改善を目指します。

血管外科分野では胸部と頭頸部を除いた脈管疾患を幅広く診療しています。近年、血管疾患に対する治療は従来の直達手術とともに血管内治療技術も大きく進歩しており、より低侵襲な治療が可能となっています。これらの治療法にはそれぞれ長所・短所がございますので当診療グループでは、病変部位や重症度と患者個々の耐術能を慎重に検討して適切な治療の提供を心がけております。



主な対象疾患

食道悪性腫瘍	病的肥満症
食道良性腫瘍	腹壁癒痕ヘルニア
食道アカラシア	鼠径ヘルニア
食道運動機能異常	腹部大動脈瘤
食道裂孔ヘルニア	末梢動脈疾患
難治性逆流性食道炎	腹部内臓動脈疾患
食道憩室	静脈疾患
胃癌	バスキュラーアクセス
胃良性腫瘍	

得意分野

- 食道癌低侵襲治療
(ロボット支援下食道切除、胸腔鏡下食道切除、PDT、ESD)
- アカラシア手術(経内視鏡的筋層切開術:POEM)
- 食道裂孔ヘルニア手術
- 胃癌手術(ロボット支援下胃切除術、腹腔鏡下胃切除術)
- 腹壁癒痕ヘルニア修復術
- 腹部大動脈瘤手術(ステントグラフト治療、人工血管置換術)
- 末梢動脈疾患治療(カテーテル治療およびバイパス手術)



ダヴィンチ食道切除

外科

総合外科（下部消化管グループ）

TEL 022-717-7740（外来） 完全予約制



科長
大沼 忍 特命教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

根治性、低侵襲性、機能温存性を重視した安全で確実な治療を心がけております。初診から手術までの期間は1ヶ月前後となり、十分な術前精査を行いながらも、長期間お待たせすることなく診療いたします。なお、緊急症例は随時対応いたしますので、総合外科・下部消化管グループ外来宛にお電話いただければ幸いです。

診療内容

下部消化管グループは、小腸・大腸の良性・悪性疾患を診療しています。悪性疾患の代表である大腸癌に対する手術では、根治性、低侵襲を兼ね備えた腹腔鏡手術を行っています。現在、大腸癌手術の8割は腹腔鏡で行っており、さらに、直腸癌に対するロボット手術も積極的に取り組んでいます。直腸癌では肛門付近の早期直腸癌に対して、永久的な人工肛門（ストーマ）を回避して肛門機能を温存する括約筋間直腸切除術（Intersphincteric resection: ISR）を導入しています。また、進行直腸癌に対し、術前化学放射線療法後に手術を行うことで、機能温存と根治性の向上を目指しています。さらに、遠隔転移例、局所再発例には手術療法・放射線療法・化学療法を組み合わせることで治療成績の向上に努めています。家族性大腸腺腫症、神経内分泌腫瘍（カルチノイド）、消化管間質性腫瘍（GIST）、悪性黒色腫など稀腫瘍に対する手術治療にも対応しています。

良性疾患では、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に力を入れているのも当科の特徴です。潰瘍性大腸炎では大腸を全摘して、自然排便が可能な回腸・肛門吻合術を標準としています。クローン病では病変部の狭窄が高度な場合は病変部の切除を行いますが、比較的軽度の場合は狭窄を解除する術式を組み合わせ、可能な限り腸管を温存し、短腸症候群の予防に努めています。

得意分野

- 大腸癌（結腸癌・直腸癌）に対する腹腔鏡手術・ロボット手術
- 直腸癌に対する肛門機能温存手術
- 進行大腸癌・大腸癌再発に対する積極的切除、集学的治療
- 遺伝性大腸癌（家族性大腸腺腫症、リンチ症候群）に対する手術治療
- 神経内分泌腫瘍（カルチノイド）、消化管間質性腫瘍（GIST）、悪性黒色腫など稀少腫瘍に対する手術治療
- 炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）に対する腹腔鏡を中心とした手術治療
- 人工肛門（ストーマ）ケア
- 短腸症候群の予防と管理



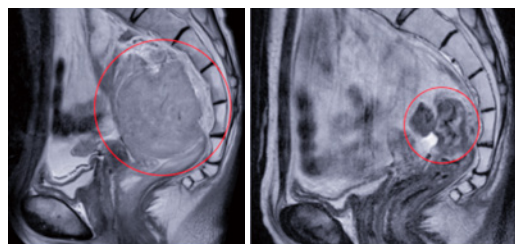
主な対象疾患

悪性疾患：

- 大腸癌（結腸癌・直腸癌）
- 遺伝性大腸癌（家族性大腸腺腫症、リンチ症候群など）
- 神経内分泌腫瘍（カルチノイド）
- 消化管間質性腫瘍（GIST）
- 肛門ページェット病
- 悪性黒色腫など稀少腫瘍

良性疾患：

- 炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）
- ページェット病
- 慢性偽性腸閉塞症
- 短腸症候群
- 中心静脈栄養カテーテル・CVポート管理
- 人工肛門ケア



直腸癌に対する化学放射線療法（CRT）著効例（40代女性）

外科

総合外科（乳腺・内分泌グループ）

TEL 022-717-7742(外来)

一部予約制



科長
石田 孝宣 教授



地域の先生方へ

乳腺・甲状腺疾患を専門とし、外科専門医 12名、乳腺専門医 7名、内分泌外科専門医 2名、甲状腺学会専門医 1名が高度な医療を提供しており、当院は日本専門医機構基幹施設、乳癌学会認定施設、内分泌・甲状腺外科専門医認定施設に認定されています。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

乳腺疾患と内分泌（甲状腺、副甲状腺）疾患を対象に、主にがんに関する診療、研究に取り組んでいます。

乳腺疾患では、女性で最も多い「乳がん」の早期診断・早期治療に努めています。各種画像を組み合わせることで、触知しないがんも診断可能です。手術では、根治性と整容性を兼ね備えた「乳房温存療法」の確立を目指し、温存率の高さ、乳房内再発率の低さで優れた成績を挙げています。また、乳房全摘後の乳房再建も保険適応の認定施設であり、多様な治療選択が可能です。一方、進行・再発例では、がんの性格や病状に応じて薬物、放射線、手術を適切に組み合わせ、高い治療効果を挙げています。また、乳がん卵巣がん症候群等に関する遺伝医療も積極的に行なっており、乳房や卵巣の予防切除も可能な施設です。

甲状腺疾患では、結節（しこり）と機能（ホルモン量）が問題になります。結節の多くは手術が不要な良性ですが、手術を必要とする悪性（がん）もあります。悪性でもその多くは、進行の緩徐な治りやすいタイプに属します。一方、機能の病気では甲状腺機能亢進症や副甲状腺機能亢進症があります。前者の場合、手術以外にも、内服薬、放射線（放射性ヨード）による治療があり、長所と短所を考慮した治療法の選択が可能です。

得意分野

3次元マンモグラフィやMRIガイド下生検等を導入し、精密な診断に努めています。また、乳房温存手術では整容性を追求した手術法を開発し、実施例は1,700例を超え、術後10年の温存乳房内再発率は4%と根治性でも優れた成績を挙げています。薬物療法では、ガイドラインに沿った標準治療を柱に、市販される前の新規治療薬の臨床試験にも多数参加しています。

甲状腺治療では、気管浸潤を伴う進行した甲状腺がんに対する気管合併切除や、悪性度の高い未分化がんに対する新規分子標的治療を加えた集学的治療などにも積極的に取り組んでいます。



主な対象疾患

乳腺疾患として：

乳腺悪性腫瘍（乳がん、悪性葉状腫瘍、肉腫など）、乳腺良性腫瘍（線維腺腫、乳頭腫など）、乳腺炎、乳腺膿瘍 など

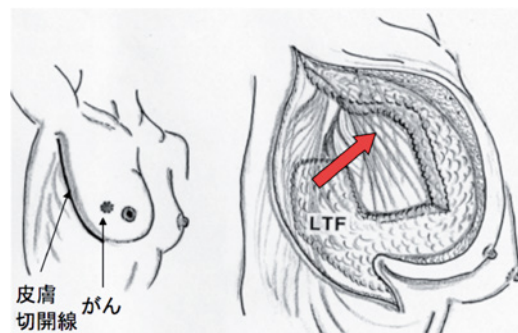
甲状腺、副甲状腺（上皮小体）疾患として：

甲状腺悪性腫瘍（甲状腺がん、悪性リンパ腫など）、甲状腺良性腫瘍（腺腫様甲状腺腫など）、甲状腺機能亢進症（バセドウ病）および低下症、副甲状腺（上皮小体）腫瘍、原発性および続発性副甲状腺機能亢進症 など

外来日：新患・再来ともに診察致します。

乳 腺：月曜、水曜、木曜

甲状腺：火曜、金曜



皮膚がん
切開線

乳房温存手術におけるLTF：Lateral Tissue Flap（側胸部の組織）を用いた形成方法

外科

総合外科（小児外科グループ）

TEL 022-717-7758（外来）

完全予約制



科長
和田 基 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

新患外来を月曜と木曜の午前に行っています。初めて当科を受診される際には新患外来にご紹介ください。急患は24時間体制で受け入れておりますので、いつでもご連絡ください。

診療内容

(1)当診療科は、新生児外科、小児消化器外科、小児肝胆道外科、小児呼吸器外科、小児移植外科、小児腫瘍外科、小児内視鏡外科といった各領域の専門家が最先端の医療を行っています。一方、虫垂炎などの救急疾患やそけいヘルニアや便秘などの頻度の高い疾患にも広く対応しています。

(2)疾患に応じて、小児科や産婦人科、関連診療各科、診療部門、東北大学病院以外の施設とも連携して治療を行います。昨年より総合外科の一員となったことで、これまで以上に成人外科の各専門科とも密に連携をとり、より最適な治療を行えるようになりました。集学的な治療が必要とされる小児がんにおいても、関連各科と連携して治療を行うことができる全国有数の施設です。また小児がん拠点病院として、チャイルドライフスペシャリティ、小児精神科医や児童心理学者などとも協力して子供達や親御さんに対する心理的ケアを行い、理想的な小児外科医療の提供を目指しています。

(3)胆道閉鎖症治療のパイオニアです。東北大学の故葛西森夫名誉教授が、世界で初めて胆道閉鎖症根治手術（葛西手術）を開発して以来、豊富な臨床経験に基づき、術前術後管理、合併症の治療を含め、世界の指導的立場にあります。

(4)短腸症や腸管運動障害といった、腸管不全症に対して、様々な治療法を組み合わせた腸管リハビリテーション（機能回復）プログラムを行っています。なお、当院は国内に12施設ある小腸移植実施認定施設にも認定されており、小腸移植は当科が担当しています。

(5)小児に対する内視鏡や臍部切開による手術など、低侵襲で整容性にも考慮した手術を積極的に行っています。

得意分野

当科は、胆道閉鎖症をはじめとする肝胆道疾患、ヒルシュスプルング病（および類縁疾患）や腸管不全に関して、全国から多くの症例が集まる日本を代表する施設の一つです。また、さまざまな疾患に対して、術後の整容性に優れたアプローチや術式を採用し、できる限り侵襲が少ない手術を行っています。



主な対象疾患

そけいヘルニア	門脈圧亢進症／肺・縦隔・食道疾患（嚢胞性肺疾患、食道閉鎖・狭窄症など）／胸壁・腹壁の異常（漏斗胸、臍帯ヘルニア、腹壁破裂など）
停留精巣	横隔膜の異常（横隔膜ヘルニアなど）
臍ヘルニア	良性腫瘍（血管腫、リンパ管腫、奇形腫など）
肥厚性幽門狭窄症	悪性腫瘍（神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、悪性胚細胞腫瘍など）
腸重積症	
急性虫垂炎	
胃食道逆流症	
頸部瘻孔・嚢胞	
小腸・大腸・肛門の疾患（小腸閉鎖、鎖肛、ヒルシュスプルング病など）	
腸管不全	
肝胆道疾患（胆道閉鎖症、胆道拡張症など）	



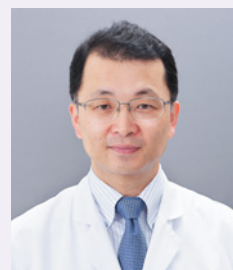
小腸移植手術風景

外科

心臓血管外科

TEL 022-717-7743(外来)

完全予約制



科長
齋木 佳克 教授



地域の先生方へ

歯周病と心臓大血管疾患との関連が指摘されており、特に心内膜炎や人工弁・人工血管感染の原因となることがあります。ご紹介の前に、一度患者さんの口腔内をチェックしていただき、歯科的スクリーニングをしていただきますようお願いします。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

標準的な手術及び高度先進医療技術を取り入れた手術治療を行っており、2021年には331例の心臓大血管手術を施行しました。

先天性心疾患では学会認定の成人先天性心疾患総合修練施設と認定され主な治療対象としています。

虚血性心疾患では、ハートチームを構成し、カテーテル治療が困難な症例に対して積極的に冠動脈バイパス手術を行っています。

弁膜症治療では、右小開胸アプローチによる低侵襲心臓手術を導入し、これまでに25症例に施行しました。2019年には、開心術における大動脈弁置換術に、Sutureless valve / Rapid deployment valveを導入し、複合手術の患者さんに適応しています。

重症心不全治療においては補助人工心臓センターを立ち上げ、多職種協働による診療体制を実現しています。植込型補助人工心臓の実施設であり、これまでに101例の植込み手術を実施しました。さらに、東北地方唯一の心臓移植認定施設として、2005年3月から現在まで30例の脳死心臓移植を実施しています。2021年5月からは心臓移植を前提としない植込型補助人工心臓装着(Destination therapy)を、全国認定7施設の一つとして実践しています。



主な対象疾患

胸部大動脈瘤
虚血性心疾患
心臓弁膜症
重症心不全
先天性心疾患
成人先天性心疾患
不整脈

得意分野

胸部大動脈瘤に対する開胸手術の症例数が年間80~100例と全国的に見ても多いことが特徴のひとつで、再手術症例や緊急手術症例も含め、その治療成績も良好と考えています。また、大動脈瘤に対する低侵襲治療であるステントグラフト治療でも、2013年4月からはハイブリッド手術室が稼働し、より一層その安全性や確実性が向上しています。

さらに当施設では日本心臓血管外科データベース(NCD/JCVSD)に2001年の設立当初から参加し、我が国における疾患重症度に応じた手術成績の算定およびリスク予測に積極的に貢献しております。



2022年度 医局員写真

外科

整形外科

TEL 022-717-7747 (外来)

完全予約制



科長
相澤 俊峰 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

当外来は完全予約制ですが、緊急の場合は電話でご連絡いただければ適宜対応いたします。また、整形外科以外の診療科からは、恐れ入りますが一度近くの整形外科へご紹介いただき、大学病院への直接のご紹介はなるべくご遠慮ください。

診療内容

日本は世界に先駆けて超高齢社会を迎え、ただ生きているだけではなく、動ける体を維持することが求められる時代になりました。自分の体を自分の意思で動かすための部位(器官)には、関節やせぼねなどの骨格、それをつなぐ靱帯、それらを動かす神経・筋が含まれます。これらはまとめて運動器と呼ばれます。整形外科はこの運動器の疾患を扱う診療科です。「外科系」の診療科ですが、外科治療である手術のみならず、内科的な治療(薬や理学療法)も行っています。診療対象としては、部位は脊椎・脊髄、上肢、骨盤、下肢など全身に及び、年齢層は新生児から高齢者のすべてが対象となります。

高齢者にみられる骨粗鬆症、脊柱管狭窄症、変形性関節症等の変性疾患はもちろんのこと、外傷や若年者に多いスポーツ障害などにも積極的に取り組み、運動器疾患の予防・治療を通して人々の生活の質の向上と健康寿命(介護なしで活動できる年数)の伸延に努めています。

近年は体に負担の少ない手術(低侵襲手術)が求められる時代になり、関節鏡下手術や脊椎内視鏡手術、悪性腫瘍に対する患肢温存手術も積極的に取り入れています。外傷は当院高度救命救急センター内の外傷センターが担当しています。

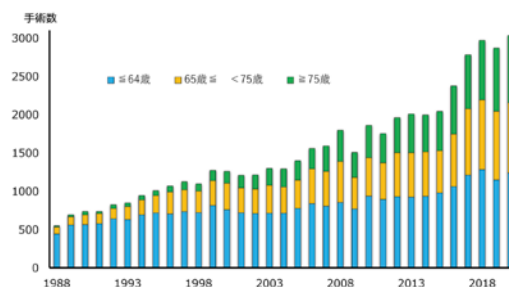
得意分野

成人脊柱変形に対する矯正骨切り術、胸椎後縦靱帯骨化症に対する新しい手術などの脊椎手術、肩、膝、股関節などに対する各種人工関節手術や、股関節の骨切り術、肩腱板断裂や膝靱帯損傷に対する関節鏡視下手術、骨軟部組織の悪性腫瘍に対する手術を多く手掛けています。また、関節リウマチや骨粗鬆症患者さんへの薬物療法も行っています。



主な対象疾患

頸部脊髄症	変形性股関節症
腰部脊柱管狭窄症	特発性大腿骨頭壊死
腰椎椎間板ヘルニア	変形性膝関節症
胸椎後縦靱帯骨化症	膝靱帯損傷
胸椎黄色靱帯骨化症	膝半月板損傷
脊椎・脊髄腫瘍	骨軟部腫瘍
成人脊柱変形	感染性脊椎炎
反復性肩関節脱臼	感染性関節炎
肩腱板断裂	関節リウマチ
凍結肩	スポーツ障害



宮城県における脊椎外科手術年齢層の年次推移です。年々、65歳以上とくに75歳以上で手術を受ける患者さんが増えています。

外科

形成外科

TEL 022-717-7748(外来)

完全予約制



科長
今井 啓道 教授



地域の先生方へ

「新患外来」ではお一人1時間をかけて丁寧にお話を伺います。口唇口蓋裂出生前カウンセリングは「新患外来」にご予約をお申し込み下さい。乳房再建、眼瞼下垂、血管腫につきましては、直接専門外来へ予約も可能です。外傷など急患は別途随時対応いたします。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

形成外科では外見に関わる疾患・外傷に対して広く治療しております。

口唇・口蓋裂をはじめとした顔の先天性性疾患に対して「唇顎口蓋裂センター」を設け医科・歯科を横断した包括治療を提供し、仮骨延長術を駆使した高度な顔面骨形成手術も数多く行っています。受診の窓口は形成外科となっています。**一般的な顎変形症**に対しても矯正歯科の先生からの紹介を受け、整容性を考慮した顎顔面骨形成術を行っています。**乳がん術後の乳房再建**では、人工乳房を用いたものから自家組織移植術を用いた方法まで様々な方法を用意し、他院で切除術を受けた症例にも対応しております。**眼瞼下垂症**は高齢化社会に伴い増加傾向にあります。当院では高齢の方でも比較的安全に手術を受けて頂けるように、入院での局所麻酔手術を行っております。**顔面神経麻痺**も治療が可能です。内科的な加療が好まなかった方が対象になります。交叉神経移植や神経付き筋肉移植による動的再建、各種つり上げ手術による静的再建を症例に応じて行っています。**血管腫**は治療に難渋する先天的な疾患です。当院では硬化療法を軸に症状の緩和に努めています。**ケロイド**には電子線照射を併用した切除術からステロイドを用いた療法まで様々な治療を行っています。

得意分野

乳がん術後の乳房再建は女性専門医が担当し女性目線の治療を行っており好評です。眼瞼下垂症の治療では高齢者に対応した医療を提供しています。血管腫は経験豊富な専門医が担当し、東北中から患者が集まります。口唇・口蓋裂の治療は当科が伝統的に得意とする分野で、最近では臨床心理士と連携した先駆的な取り組みや、仮骨延長法を応用した独自の顔面骨形成手術も提供しています。頭頸部腫瘍切除後再建手術は本邦有数の症例数を誇ります。耳鼻咽喉科と連携し形成外科が機能と整容を重視した再建手術を提供しています。



主な対象疾患

口唇・口蓋裂	顔面神経麻痺
先天性頭蓋顔面疾患	眼瞼下垂
その他の体表先天性疾患	血管腫・リンパ管腫
顎変形症	ケロイド・瘢痕
顔面外傷・骨折	熱傷
裂傷・挫創	熱傷瘢痕
頭頸部腫瘍切除後変形	皮膚皮下腫瘍
乳がん術後乳房変形	リンパ浮腫



形成外科のスタッフ集合写真

外科

麻酔科

TEL 022-717-7760(外来)



科長
山内 正憲 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

術前診察では、重度合併症患者がスムーズに手術を受けられるように対応します。来院前からの禁煙指導をお願いします。ペインクリニックでは、骨関節疾患、神経疾患、帯状疱疹、血行障害などの痛みに対応します。血液検査では凝固系も確認しています。

診療内容

臨床麻酔

麻酔の基本は、手術を受ける患者さんが安心できることと、安全に麻酔を行なうことです。術前診察では、全ての患者さんの状態把握と丁寧な説明を欠かさないようにしています。とくに、重篤な合併症や特殊な手術では、術前のシミュレーションと執刀医・看護師・臨床工学技士・薬剤師とのミーティングという取り組みを行っています。術後は集中治療管理も含め、手術中からの一貫性のある全身管理と鎮痛治療を実践しています。高度医療を受けるために全国から来院する重症患者さんも多いため、脳死移植(心臓、肺、肝臓、小腸)、生体部分移植(肺、肝臓、腎臓)など本邦で可能な全ての臓器移植手術や特殊な術式への麻酔・全身管理を行っています。喫煙は術後合併症が重篤になるため、禁煙指導も行っています。

集中治療

国立大学で初めて運営された長い歴史があり、昼夜の区切りなく24時間体制で治療を続けています。世界トップクラスの人工呼吸管理や人工呼吸器関連肺炎対策、せん妄防止対策を実践しています。

ペインクリニック

様々な対象疾患に対し、薬物治療(漢方薬を含む)、各種神経ブロック、脊髄刺激療法、痛みの受容アプローチを行っています。



主な対象疾患

術前診察：

動揺歯、開口障害、睡眠時無呼吸、重度心疾患、重度呼吸器疾患、先天異常、移植医療、内分泌異常、消化器疾患、神経疾患、血液疾患、腎疾患、肝疾患、高度肥満

ペインクリニック：

帯状疱疹、帯状疱疹後神経痛、低髄液圧症候群、脊椎疾患による痛み、凍結肩(五十肩)、手足の血行障害、術後痛、頸部痛、がんの術後痛、片頭痛、群発頭痛、小児の難治性痛、リハビリテーション時の痛み

得意分野

- 重症合併症患者には、詳細な術前評価とシミュレーション対応により、安全で高度な麻酔管理を行います。
- X線透視や超音波装置を用いた神経ブロックと、局所麻酔薬の種類と濃度を繊細に組み合わせることで、運動機能を維持しながらの鎮痛実現という他にはない管理ができます。

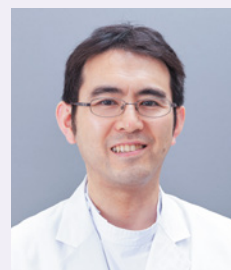


複数の麻酔科医による全身管理の様子

外科

緩和医療科

TEL 022-717-7768(外来)



科長
井上 彰 教授



地域の先生方へ

「入棟面談」「緩和ケア外来」の予約は当科外来(022-717-7768)に直接お電話ください(月曜～金曜9時～17時)。「セカンドオピニオン」については地域医療連携センターを通して予約をお取り下さい。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

2007年に施行された「がん対策基本法」において、緩和医療(緩和ケア)は、手術や放射線療法、化学療法と並ぶ「がん治療の柱」とされ、「終末期」に限った治療ではなく「より良く生きる」ことを目指して、進行がんと「診断された時」から行われるべきと明記されています。患者さんが抱える苦痛は、痛みなどの身体的苦痛だけではなく、精神的苦痛(不安やせん妄など)や社会的苦痛(就労や介護に関する問題など)、さらには霊的苦痛(スピリチュアルペイン)と多岐にわたりますが、それらを軽減するために当科では、精神科やリハビリテーション科などの他科医師や、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、臨床宗教師などの各種専門スタッフが連携し「全人的なケア」を行います。

「緩和ケア外来」では、主たる診療科に併診する形で対応させていただき、必要に応じて認定看護師による「がん看護外来」でも対応します。入院中の患者さんには、多職種の専門家で構成される「緩和ケアチーム」が往診し、適切な治療方針を担当医と相談し、速やかな症状緩和を目指します。そして病状が進んで通院治療やご自宅での療養が困難となった患者さんは、当科が主体となって「緩和ケア病棟」にて熟練した医療スタッフが苦痛の緩和にむけて最善を尽くし、患者さん・ご家族が心身ともに穏やかな療養生活を送れるよう努めます。

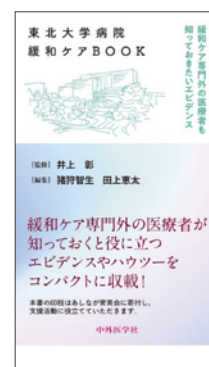
得意分野

日本緩和医療学会認定の緩和医療専門医に加え、日本臨床腫瘍学会によるがん薬物療法専門医が所属し、質の高い「緩和ケアとがん治療の両立」を可能にしています。血液悪性腫瘍専門医や麻酔科専門医も所属し、多様性から生まれる「懐の広さ」が当科の特色です。全国的な臨床研究グループにも属しているため、緩和ケアの発展にも熱心に取り組んでいます。医師以外では、国公立の大学病院では全国唯一、臨床宗教師が正規職員として雇用されており、患者さん・ご家族のスピリチュアルペインに寄り添います。



主な対象疾患

何らかの苦痛でお困りの患者さんであれば、がん・非がんを問わず対象となります。ただし、緩和ケア病棟での療養については、がん患者さんのみが対象です。



書籍化された東北大学病院緩和ケアマニュアル



2台備えているリフトバス

外科

呼吸器外科

TEL 022-717-7877 (外来)

完全予約制



科長
岡田 克典 教授



地域の先生方へ

新患は完全予約制(月曜～金曜の午前中)です。肺移植に関わるお問い合わせは、臓器移植医療部(022-717-7702)またはE-mail:tohoku-lungtx@grp.tohoku.ac.jpまでお願いいたします。肺移植コーディネーターまたは担当医が対応いたします。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

呼吸器外科は、肺、縦隔、胸壁などの胸部疾患のうち、外科的治療を要するものを診療の対象とする診療科です。

肺癌の治療においては、II期までであれば手術が第一選択です。当科では、80%程度の肺癌手術に4cm程度の皮切で行う完全胸腔鏡下肺切除術(いわゆるcomplete VATS)またはロボット支援下肺切除術を適用しており、手術の低侵襲化を進めています。進行した肺癌では、ケースバイケースで8～10cm程度の皮膚切開で行う胸腔鏡を併用した小開胸下の肺切除術(hybrid VATS)または大きな傷で行う開胸手術を適用します。当科において2010年から2014年までの5年間に切除術が施行された383例の非小細胞肺癌症例の5年生存率は、病理病期IA期で91.8%、IB期で76.9%、IIA期で81.2%、IIB期で75.9%と、良好な成績が得られています。肺癌例においては、健康診断で発見された早期の方から、気管・気管支形成術や血管形成術を要する局所進行肺癌の方まで、幅広く診療させていただいております。精査を含めて承りますので、どうぞご遠慮なくご紹介ください。縦隔腫瘍、重症筋無力症に対する拡大胸腺摘除術などにおいても積極的に胸腔鏡を取り入れ、患者さんの負担が少ない低侵襲治療を行っています。

また、当院は全国に10施設ある肺移植実施施設の一つに認定されており、2000年の本邦初となる脳死肺移植以来、2021年12月までに146例の肺移植(脳死肺移植:131例、生体肺移植:15例)を実施しました。呼吸不全に苦しむ多くの患者さんが社会復帰を果たしています。肺移植後の5年生存率は約75%と、世界的にみても良好な成績が得られています。

得意分野

早期肺癌に対して適用している完全胸腔鏡下肺切除術並びにロボット支援下肺切除術は、患者さんに対する負担が少なく、術後の入院日数も少なく済みます。また、すりガラス影を主体とする早期肺癌に対しては、エビデンスに基づいた縮小手術(部分切除または区域切除)を適用しています。一方、気管・気管支形成や肺血管形成を伴う局所進行肺癌、補助化学放射線療法後の肺切除術を積極的に行っており、肺移植を通して培った技術を肺癌の治療にも生かします。当院は、東北・北海道で唯一の肺移植施設です。60歳未満で在宅酸素療法導入を検討するような患者さんに対しては、肺移植を治療オプションの一つとしてご検討ください。



主な対象疾患

肺癌	肺アスペルギローマ
転移性肺腫瘍	胸部外傷
縦隔腫瘍	気道異物
胸壁腫瘍	重症筋無力症
悪性胸膜中皮腫	(拡大胸腺摘除)
気胸	慢性進行性肺疾患
肺嚢胞	(肺移植)
膿胸	



完全胸腔鏡下肺切除術の手術風景

外科

救急科

TEL 022-717-7024(外来)



科長
久志本 成樹 教授



地域の先生方へ

救急患者さんの診療では、“時間”がとても大切です。確定診断より病態の緊急性の判断と速やかな治療の開始が大きく転帰に影響します。“緊急を要する病態”であると考えられるときには、適切なタイミングでご紹介ください。限りある医療資源としての救急集中治療です。状態安定後には、ご紹介いただいた患者さんをお受けいただきたくお願いします。



診療科WEB

診療内容

救急科では、救急車で運ばれてくる患者さんを中心として救急科専門医が初期診療を担当します。多発外傷や重症熱傷、心肺機能停止状態に対する蘇生と心停止後症候群の治療、敗血症、原因不明のショック、熱中症などの環境障害、呼吸不全に対する集中治療、急性腹症に対する外科的治療などを必要とする患者さんに対しては、初期診療から集中治療までを救急科医師が中心となって診療します。

救急治療を必要とする患者さんを積極的に受け入れ、救急科スタッフのみでなく、施設の総合力を集結して最善の治療を提供します。



主な対象疾患

重症患者さんを中心とした、すべての救急治療を要する患者さんを受け入れています。また、初期及び第二次救急医療施設の後方病院として十分に機能できるように、365日、24時間体制で診療を行っています。

病院外心停止（心停止後症候群に対する治療も含みます）	発性低体温症）
外傷	急性冠症候群
熱傷	大動脈疾患（急性大動脈解離、大動脈瘤破裂など）
重症感染症（敗血症）や特殊感染症（ガス壊疽、壊死性筋膜炎、破傷風など）	脳血管障害
急性腹症	呼吸不全
急性中毒	心不全
体温異常（熱中症や偶	出血性ショック
	意識障害
	複数の領域診療科にわたる重篤な病態

得意分野

- 救急診療だけでなく、集中治療、外傷、外科、そして熱傷専門医認定施設として、我が国の指導的な役割を担います。さらに、急性期外科診療 - acute care surgery、膜型人工肺による補助循環を用いた治療を行うECMOセンターとして、集中治療領域にも広く診療体制を整備しています。
- “外傷再建センター”として、機能的再建が必要な整形外科領域の患者さんの診療を専門チームが積極的に行っています。
- 宮城県ドクターヘリ基地病院として活動を行い、県内全域に質の高い救急医療と集中治療を常に提供しています。



CTと血管撮影装置を備えたハイブリットER

産婦人科・泌尿生殖器科

婦人科

TEL 022-717-7745(外来) 完全予約制



科長
島田 宗昭 特命教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

三次医療機関として、重症例、希少疾患、難治症例および他科との治療連携が必要な合併症を有する症例への対応、先進医療や高度精密検査法の治療提供など、最善の医療を安全に提供できるように努めています。

診療内容

腫瘍分野:年間200例以上の悪性腫瘍に対してガイドラインに準拠した標準治療、機能温存を重視した以下の治療に取り組んでいます。1.早期子宮頸癌に対する妊孕能温存腹腔鏡下広汎子宮頸部摘出術 2.早期子宮がんに対するロボット手術を含む腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 3.治験などの新規治療開発 4.遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する診療(リスク低減卵巣卵管摘出術など) 5.がんゲノム医療 **生殖分野:**一般不妊から高度生殖補助技術、鏡視下手術(腹腔鏡下術、子宮鏡手術、卵管鏡下卵管形成術)、不育症の診療に取り組んでおります。また、院内にみやぎ・せんだい不妊・不育相談センターを設置し、行政と連携して地域の患者さんが気軽に悩みを相談できる環境整備に取り組んでいます。また、若年がん患者さんの迅速なカウンセリングや妊孕性温存治療を行う体制を確保しております。 **女性ヘルスケア:**主に更年期障害をはじめとした多・不定愁訴に対して、心身一如(心と体を1つに捉える)の観点から漢方治療を行っています。特に原因の見えにくい機能的な異常に漢方治療はたいへん有効です。また漢方治療だけでなく西洋治療との統合医療も行い、女性診療の広い窓口としてお役に立てる様努めて参ります。 **内分泌・思春期分野:**月経異常、婦人科良性腫瘍、思春期月経異常・月経随伴症状、性分化疾患、性同一性障害を対象としております。性機能やこころの問題に関わる病態にも、他科と連携しながら治療を行える診療体制をとっています。

得意分野

それぞれの専門分野でのスペシャリストを配し、婦人科腫瘍、生殖、内分泌・思春期、女性ヘルスケア、女性漢方に関する最新治療の提供に努めています。全ての分野で患者さんの希望となるような試験的な治療にも積極的に取り組んでいます。ロボット手術を含む最新の術式、性分化疾患など比較的稀な疾患に対する形成手術などを迅速に導入し、根治性を担保しつつ、低侵襲かつ妊孕能など機能温存に配慮した治療を心がけています。良性疾患を含め、婦人科領域の診療をすべて網羅できるよう心がけておりますので、お気軽にお問い合わせください。



主な対象疾患

子宮頸がん	月経前症候群
子宮体がん・子宮肉腫	月経前不快気分障害
卵巣がん・卵管がん・	不妊症
腹膜がん	不育症
遺伝性腫瘍(子宮、卵巣)	妊孕性温存治療を必要とするAYAがん
外陰がん	子宮内膜症
腔がん	子宮筋腫
絨毛性疾患	子宮内膜ポリープ
骨盤内腫瘍	良性卵巣腫瘍
月経異常	子宮腺筋症
月経困難症	異所性妊娠
多嚢胞性卵巣症候群	腔炎
思春期早発	各種性感染症
初経遅延	骨盤腹膜炎
原発性無月経	更年期障害
続発性無月経	閉経後骨粗鬆症
体重減少性無月経	骨盤臓器脱
性分化疾患	過活動膀胱
性同一性障害	



婦人科診療スタッフ集合写真

産婦人科・泌尿生殖器科

産科

TEL 022-717-7746(外来) 完全予約制



科長
齋藤 昌利 教授



地域の先生方へ

産科では、三次施設として合併症を有するハイリスク妊娠、ハイリスク分娩を扱っているほか、産後の危機的出血症例も積極的に受け入れています。産科専属医師約20名をはじめとするコメディカルスタッフと共に一丸となって診療にあたっています。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

産科は総合周産期母子医療センターとして、県内のいわゆるハイリスク妊娠・分娩症例を扱っています。専門他科と連携しながら、より良い妊娠・分娩を目指して診療を行っており、年間の分娩数は約850件となっています。また、その他にも県内の一次・二次医療機関から弛緩出血症例をほぼ全例受け入れ、麻酔科・救急部・輸血部と連携しながら先進的かつ効率的な治療を行なっています。

日々の診療では、最新の超音波診断装置を用いて、胎児の形態評価のみならずより細かい胎児の心機能評価も行い、新生児科と密に連携を取りながらベストなタイミング、方法での分娩を求めて診療しています。また、切迫早産の原因となる子宮内炎症の評価のために羊水内のサイトカイン測定などを行い、より厳格な診断基準の下、胎児の娩出時期の決定と愛護的な帝王切開術の施行に努めています。

このような日常診療の他に、県内の周産期救急搬送症例のコーディネーター業務も行っており、一次・二次施設で発生した救急症例をどの病院にいつ搬送するのかといったコーディネートも行っています。その連絡件数は年間約500件にのぼり、そのうち約200件を当院で受け入れています。

得意分野

当科の得意分野は、子宮内胎児発育遅延症例です。最新の超音波機器を用いて、細かい血流評価を行うことによりその原因、現時点での心機能評価、予想される経過などを常に考え、よりベストな分娩タイミング・方法を検討しています。また、産後の大量出血症例も我々が担う専門分野です。搬送依頼の電話を受けた瞬間から機能的かつ合理的な治療チームを作り、迅速な治療方針の決定と同時に、麻酔科・救急部・輸血部との連携をはかり、母体への負担が少なく回復の早い診療を心がけています。



主な対象疾患

稽留流産	羊水過小症
胞状奇胎	一絨毛膜二羊膜性双胎
切迫流産	常位胎盤早期剥離
重症妊娠悪阻	胎児骨系統疾患
子宮頸管無力症	胎児形態異常症
切迫早産	染色体異常
妊娠高血圧症候群	弛緩出血
HELLP症候群	子宮破裂
前置胎盤	子宮内反症
癒着胎盤	産道血腫
合併症妊娠	帝王切開術後合併症
子宮内胎児発育遅延	胎盤遺残
妊娠糖尿病	RPOC
血液型不適合妊娠	社会的ハイリスク症例
羊水過多症	



産科病棟処置室

産婦人科・泌尿生殖器科

泌尿器科

TEL 022-717-7756(外来) 完全予約制



科長
伊藤 明宏 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

泌尿器科領域の良性疾患から悪性疾患において、診断から治療まで、患者さんや地域の先生方に安心して受診していただくことを第一に考え、患者さんに負担の少ない医療を目指して診療を行っています。

診療内容

泌尿器系および男性生殖器腫瘍、副腎腫瘍、尿路結石症、先天性水腎症、前立腺肥大症、排尿障害、男性不妊症、男性機能障害など泌尿器疾患全般に渡って診療を行っています。

ロボット支援システムを使用することで繊細な操作による低侵襲手術が可能となり、前立腺全摘除術、腎部分切除術、膀胱全摘除術と尿路変向、腎盂形成術をロボット支援手術で行い、手術による負担ができるだけ少なくなるような治療を心掛けています。

また、進行癌に対しては化学療法、分子標的治療薬、免疫療法（抗PD-1抗体薬）などを行い、泌尿器科癌診療において、診断から手術・放射線治療・薬物療法・緩和医療まで、一貫して診療を行う体制を整えています。排尿障害や男性不妊症、副腎腫瘍、尿路結石、先天性水腎症などの良性疾患についても、熟練した専門医が診療にあたっています。副腎腫瘍の腹腔鏡手術や重症尿失禁に対する人工尿道括約筋埋込術の手術件数は全国でも有数です。間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術やDMSO注入療法、難治性過活動膀胱に対する仙骨神経刺激装置埋込術も行っています。

得意分野

- ロボット支援手術：前立腺全摘術、腎部分切除術、膀胱全摘術、腎盂形成術
- 腹腔鏡手術：腎摘除術、副腎摘出術、腎尿管全摘術、精巣癌での後腹膜リンパ節郭清術
- 前立腺小線源療法
- 尿路結石内視鏡下レーザー手術
- 精索静脈瘤に対する顕微鏡下手術
- 精索静脈瘤に対する顕微鏡下手術
- 泌尿器癌の薬物治療：腎癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌など
- 神経因性膀胱：各種神経疾患に伴う排尿障害の診断や治療
- 人工尿道括約筋埋込術
- 間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術、DMSO注入療法
- 難治性過活動膀胱に対する仙骨神経刺激装置埋込術



主な対象疾患

- | | |
|--------------------------------|-----------|
| 前立腺癌 | 尿路結石症 |
| 腎癌 | 尿路感染症 |
| 腎盂尿管癌 | 先天性水腎症 |
| 膀胱癌 | 前立腺肥大症 |
| 尿道癌 | 排尿障害 |
| 陰茎癌 | 尿失禁 |
| 精巣腫瘍 | 過活動膀胱 |
| 副腎腫瘍 | 間質性膀胱炎 |
| (原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、クッシング症候群など) | 精索静脈瘤 |
| | 性機能障害・ED |
| | 男性不妊症 |
| | 男性性腺機能低下症 |



ロボット支援前立腺全摘術の外観

脳・神経・精神科

脳神経内科

TEL 022-717-7735(外来)

完全予約制

科長
青木 正志 教授

地域の先生方へ

- 新患外来は完全予約制です。当院地域医療連携センターでご予約ください。
- セカンドオピニオンの際は、新患外来ではなくセカンドオピニオン外来にご予約をお願いいたします。
- 緊急のご紹介、ご不明な点は、外来連絡先までお問い合わせください。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

脳は人類にとって最も大切な臓器と考えられています。脳神経内科は、この脳をはじめとして脊髄、末梢神経、筋肉などにおこる幅広い疾患を対象としています。神経学的診察法により原因となる責任病巣を特定し、各種の特殊検査や画像検査などを用いて内科的に診断し、その原因を特定して治療します。脳神経内科が担当する領域は、頭痛・めまい・しびれ・物忘れ等のよくある症状から、認知症やパーキンソン病等の神経変性疾患をはじめとする慢性疾患、そして脳炎・脳血管障害・てんかんなどの神経救急疾患まで多岐にわたります。私たちはこれらの幅広い疾患を診療し、脳神経外科やリハビリテーション科などの他診療科、高度救命救急センターや医療ネットワークを通じた各病院との診療連携を大切にしています。

外来診療は、新患外来(7名)および各疾患の脳神経内科専門医(12名)による専門外来よりなり、来院される新患患者全例に専門医による神経学的診察を行っています。的確な診断と治療のため、MRIや脳脊髄液検査、各種血清自己抗体検査、節電図などの電気生理学的検査、筋生検による病理学的診断(図1)、ドパミントランスポーターシンチグラフィー(図2)、MIBG心筋シンチグラフィー、遺伝子検査等を行っています。

得意分野

主に筋萎縮性側索硬化症、筋疾患、パーキンソン病関連疾患、神経免疫疾患を専門とする専門医を複数配置し、各分野のセカンドオピニオン依頼を積極的に受け入れています。国内外の治験に参画し、筋萎縮性側索硬化症に対する神経栄養因子を用いた医師主導治験にも取り組んでいます。家族性の筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病関連疾患、筋疾患について遺伝子解析も行っています。また視神経脊髄炎関連疾患に認められるアクアポリン4抗体やミエリンオリゴデンドロサイト糖蛋白質(MOG)抗体の測定(図3)を行っています。

主な対象疾患

筋萎縮性側索硬化症	脳炎・髄膜炎
球脊髄性筋萎縮症	プリオン病
パーキンソン病	HTLV-1関連脊髄症
多系統萎縮症	痙性対麻痺
脊髄小脳変性症	脳血管障害(脳卒中)
進行性核上性麻痺	認知症
大脳皮質基底核変性症	てんかん頭痛
多発性硬化症	めまい
視神経脊髄炎	しびれ
筋炎	歩行障害
筋ジストロフィー	
ギラン・バレー症候群	
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	

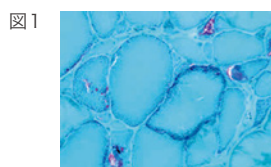


図1

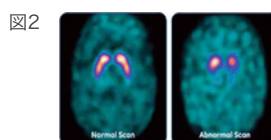


図2

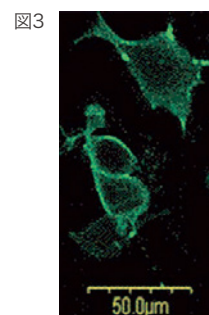


図3

図1. 筋疾患の筋組織トリクロムゴモリ染色

図2. パーキンソン病のドパミントランスポーターシンチグラフィー

図3. 視神経脊髄炎患者の血清特異的抗体の検出

脳・神経・精神科

脳神経外科

TEL 022-717-7752(外来)

完全予約制

科長
富永 悌二 教授

診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

新患日は月曜・木曜ですが完全予約制になっておりますので地域医療連携センターにて予約をお願いします。予約が既に埋まっている場合でも緊急性が高いと考えられる場合は当科外来宛てにご一報下さい。

診療内容

当科の診療の特色: 幅広い脳神経疾患に適切・的確な医療を提供するために、放射線診断科・治療科、小児科・小児医療センター、てんかん科などと密な連携をとっています。また各疾患に対するサブスペシャリティー領域の専門性を高めつつ、仙台圏の基幹病院と連携しながら、希少難治疾患を含め脳神経外科の全ての分野について専門的な診断・治療を提供しています。

脳血管障害: 脳血管病変の早期診断・治療を行っています。脳卒中の急性期治療に加え、脳動脈瘤や脳動静脈奇形、もやもや病などの治療に豊富な経験を有します。

脳腫瘍: 手術に加えて放射線治療や化学療法などの集学的治療を行っています。

てんかん外科: 難治てんかんに対する外科治療を積極的に行っています。てんかん科・小児科・放射線診断科・高次脳機能障害科と連携して発作モニタリングを含む包括的術前検査を行い手術適応を決定します。

その他: 高度脳卒中治療および下垂体腫瘍(広南病院)、小児脳神経外科(宮城県立こども病院)、パーキンソン病など不随意運動疾患(宮城病院)、定位放射線治療(鈴木二郎記念ガンマハウス)など、関連基幹病院の専門医と連携して治療を提供します。

得意分野

- 脳血管障害: 脳動静脈奇形に対しては脳血管内治療科や定位放射線治療専門医と連携して患者さん毎のリスクベネフィットを考慮し多角的な治療選択肢を提供しています。
- 脳腫瘍: 術中MRIや脳機能マッピングを駆使しながら、機能温存を図りながら最大限の治療効果を得る方法を実践しています。
- てんかん外科: 難治てんかんに対し高磁場MRI・脳磁図・PETなどの術前画像診断や留置頭蓋内電極による生理学的検査に基づいた的確な治療を提供します。



主な対象疾患

脳血管障害

(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、海綿状血管腫、頸動脈狭窄症、もやもや病、硬膜動静脈瘻)

脳腫瘍

(神経膠腫、髄膜腫、聴神経鞘腫、頭蓋咽頭腫、胚細胞腫、下垂体腫瘍、転移性脳腫瘍)

頭部外傷(急性硬膜下血腫、急性硬膜外血腫、慢性硬膜外血腫)

てんかん

機能的疾患(パーキンソン病、三叉神経痛、顔面けいれん、正常圧水頭症)

小児疾患

脊髄・脊椎疾患



術中MRI装置

脳・神経・精神科

精神科

TEL 022-717-7737(外来)

完全予約制



科長
富田 博秋 教授



地域の先生方へ

大学病院での高度な検査や診療技術が必要な場合や、経過の中で診療方針の見直しが必要になった場合等に外来診療や入院目的でのご紹介をお受けしています。基本的に、地域にかかりつけの精神科医療機関を持って頂くことを原則としています。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

大学病院の精神科という立場を活かして、地域の関連する医療機関との緊密な連携のもと、高い専門性を要する診療ニーズに応えるべく、外来・入院での診療に取り組んでいます。精神疾患は検査等により客観的に病態を捉えることが難しく、適切な診断や診療方針を定めることは容易でないこともある一方、検査等により把握可能な身体要因が潜むことも稀ではありません。また、慢性の経過をたどる精神疾患の診療の過程で、症状が繰り返す、症状の顕れ方が変わる、治療に反応しなくなるなどのことが生じることも少なくありません。

大学病院では、高度な精査や診療技術、最先端の情報、多数の医師・多職種による検討の体制を活かして、身体的側面から心理社会的な側面に至るまでの総合的なアセスメントに基づいて鑑別診断や診療方針の組み立てを行います。お一人お一人にあわせて、心理教育、生活指導、精神療法、合理的薬物療法を含む身体治療をバランスよく行い、通常の治療への反応が低く難治化する場合、適宜、治療抵抗性の精神疾患に有効とされる治療法の導入を検討、実施します。認知症、摂食障害、睡眠障害、てんかん等は、院内の関連診療科と連携することで病院として専門性の高い診療体制を作っています。

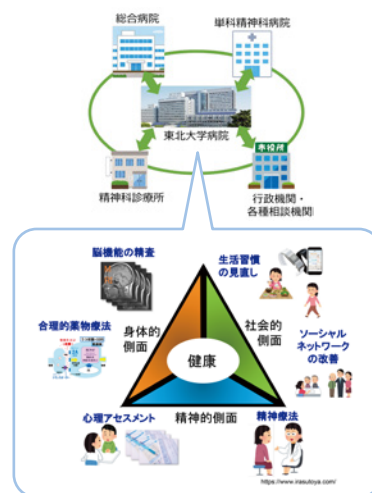
得意分野

専門外来として、周産期専門外来、児童思春期専門外来(こども外来)、早期精神病外来(SAFEクリニック)を予約制で設置し、学内外の関係者と連携して、早期介入や包括的な医療を実施しており、さらに多職種からなる精神科リエゾンチームを有しています。双極性障害、うつ病、統合失調症、早期精神病、発達障害、睡眠障害、周産期メンタルヘルス、腫瘍性疾患罹患患者のメンタルヘルス等については、先進的な診療を提供するだけでなく、今後の医療技術の発展に繋がる臨床研究も同時に行なっています。

主な対象疾患

精神病性障害群(統合失調症など)
双極性障害(躁うつ病)および関連障害群
抑うつ障害群(うつ病など)
不安症群(社交不安症、パニック症、全般不安症など)
強迫症および関連症群
心的外傷およびストレス因関連障害群
身体症状症および関連症群
睡眠-覚醒障害群
物質関連障害および嗜癖性障害群

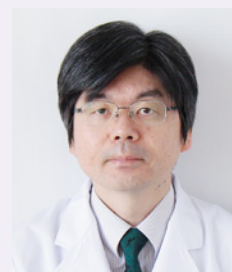
地域連携と先進医療体制に基づく
心身の健康に向けたバランスのとれた包括的精神医療



大学病院精神科診療イメージ図

小児科

TEL 022-717-7744(外来) 一部予約制



科長
笹原 洋二 特命教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

専門分野ごとに新患日を設けております。病院HPや小児科HP、診療予約申込書をご参照ください。緊急性のある場合は新患曜日に関わらず当該診療グループへ遠慮なくご連絡ください。小児科・小児腫瘍科として広くご紹介を承っております。

診療内容

小児科はこどもの全身を診る総合診療科であり、7つの診療グループによる専門的な小児医療を提供しています。

①**血液・腫瘍・免疫グループ**: 白血病・固形腫瘍・脳腫瘍の小児がん、再生不良性貧血などの血液疾患、慢性活動性EBウイルス感染症、原発性免疫不全症を診療しています。②**神経・発達支援グループ**: てんかん、変性疾患、脳炎・脳症、筋疾患、発達障害など幅広い神経疾患に対応しています。③**腎臓グループ**: ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、尿細管機能異常症、先天性腎尿路異常、腎不全、学校検尿精査など、腎疾患の診療を幅広く行っています。④**内分泌グループ**: 低身長、甲状腺疾患、副腎疾患、カルシウム・リン代謝異常、性腺疾患、小児糖尿病などが対象疾患です。⑤**先天代謝異常グループ**: アミノ酸代謝異常症、有機酸代謝異常症、脂肪酸代謝異常症、尿素回路異常症、ライソゾーム病など先天代謝異常症全域を診療しています。⑥**循環器グループ**: 先天性心疾患、不整脈、川崎病、心筋症、心筋炎などの小児循環器疾患の診断・治療に当たっています。⑦**新生児グループ**: 新生児科医が産科、小児外科、心臓血管外科などとの密接な連携のもと、胎児・新生児の管理や集中治療を行っています。

得意分野

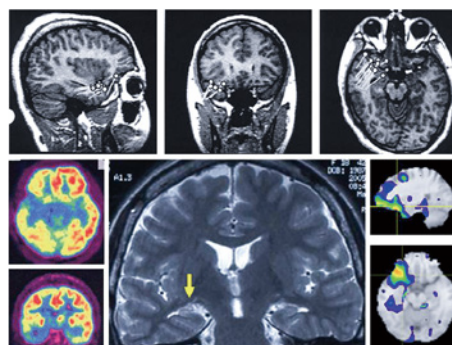
①**血液・腫瘍・免疫グループ**: 小児悪性腫瘍・免疫不全症の診療と同種造血幹細胞移植。②**神経・発達支援グループ**: ビデオ脳波、SPECTや脳磁図などによるてんかんの画像診断、先天性神経疾患の遺伝子解析。③**腎臓グループ**: 難治性ネフローゼ症候群の治療、腎炎や尿細管異常症の診断と治療。④**内分泌グループ**: 骨系統新患の診断と治療。⑤**先天代謝異常グループ**: 先天性代謝異常症の早期診断と治療。⑥**循環器グループ**: 不整脈、川崎病、心筋症、心筋炎の診断と治療およびカテーテル治療。⑦**新生児グループ**: 極低出生体重児の全身管理。



主な対象疾患

小児良性・悪性血液疾患、小児腫瘍性疾患
原発性免疫不全症
難治性ウイルス感染症
てんかん、小児神経・筋疾患
発達障害
小児腎疾患
小児内分泌疾患
先天代謝異常症
小児循環器疾患
新生児疾患

を当該診療グループにて診療致します。疾患内容や病状によっては宮城県立こども病院をはじめ関連施設と連携して診療する場合があります。



側頭葉てんかんの画像診断

小児科 遺伝科

TEL 022-717-7744(外来) 完全予約制



科長
青木 洋子 教授



地域の先生方へ

遺伝科外来は完全予約制となっております。ご紹介の前に紹介の目的や内容を確認させて頂いておりますので、ご紹介の際は外来までお電話をお願いします。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

近年、遺伝子・ゲノムに関する研究が急速に進歩し、保険収載での遺伝学的検査が可能になった疾患も増加し、遺伝医療の範囲が急速に拡大しています。さらに、遺伝性疾患は自分自身だけでなく血縁者に共通な問題であることが多いため、その心理面に十分な配慮した対応が必要になります。このため、遺伝の関わる疾患に対しての正確な情報を説明し、検査の事、あるいは今後の事を共に相談していくプロセスを、「遺伝カウンセリング」と呼びます。

遺伝カウンセリングでは、臨床遺伝専門医・指導医を含む複数の医師と認定遺伝カウンセラーが十分な時間をかけて問題点や不安に感じている点を伺います。初診時は、約1時間から1時間30分の診療時間が必要となります。そのため、完全予約制で毎週木曜日午後を初診の方の診療日としています。

2015年3月に東北大学病院内に診療科横断的な診療部門として遺伝子診療部が立ち上がりました。遺伝科を中心として腫瘍内科、血液内科、脳神経内科、総合外科乳腺・内分泌グループ、産婦人科、小児科が遺伝子診療部を形成し、連携して診療を行っています。

得意分野

当科の研究によって世界で初めて病因となる遺伝子を見つけた希少難病が数多くあります。このような研究背景をもとに、保険収載遺伝学的検査の提出や解釈、未診断疾患プロジェクト(IRUD)、個別化医療センターでのがん遺伝子パネル検査との連携・診療科支援を行っております。また、東北大学病院は臨床遺伝専門医の研修病院の一つに認定されており、臨床遺伝専門医の資格取得をめざす医師が日々研鑽を積んでいます。大学院医学系研究科と共同して、遺伝専門職である認定遺伝カウンセラーを養成しています。

主な対象疾患

遺伝性疾患全般(周産期、小児科、成人期、
遺伝性腫瘍)の遺伝カウンセリング

遺伝子診療部体制

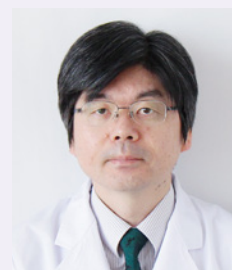


遺伝子診療部体制

小児科

小児腫瘍科

TEL 022-717-7878(外来)



科長
笹原 洋二 特命教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

新患日は月曜、水曜、木曜、金曜ですが、緊急性のある場合は新患曜日に関わらず当該診療グループへ遠慮なくご連絡ください。小児科・小児腫瘍科として広くご紹介を承っております。

診療内容

小児血液腫瘍、固形腫瘍、脳腫瘍、免疫不全症などを小児科各診療グループとともに診療しています。

①小児白血病・固形腫瘍・脳腫瘍の診断と治療：小児白血病や悪性リンパ腫などの血液腫瘍性疾患、神経芽腫や肝芽腫、腎芽腫などの固形腫瘍、脳腫瘍の診断と内科的治療を行っています。全国規模の治療グループスタディへの参加による治療成績向上を目指しています。難治性疾患に対しては造血幹細胞移植を併用した治療を行い、個別化医療センターを介したがんゲノム医療や分子標的療法の併用も行っています。②小児良性血液疾患：再生不良性貧血、先天性造血不全症と血小板減少症、溶血性貧血など、良性血液疾患の診断と治療を行っています。③原発性免疫不全症：原発性免疫不全症の診断と治療を広く行っています。特に複合免疫不全症とWiskott-Aldrich症候群は全国から相談が寄せられています。根治療法としてRIST(強度低減前処置による造血幹細胞移植)を施行し、長期的な生活の質(QOL)の向上を目指しています。④難治性ウイルス感染症：慢性活動性EBウイルス感染症、移植後リンパ増殖性疾患の診断と治療を行い、慢性活動性EBウイルス感染症の根治療法としてRISTを施行しています。

得意分野

当院は東北地区で唯一の小児がん拠点病院に指定されています。がんセンター内に小児腫瘍センターを組織化し、小児がん相談室やAYAルームを設け、セミクリーン域とプレイルームを設置して長期入院環境を整備しています。

小児がんの治療成績向上により、多くの患児が治る病気になっています。看護師・臨床心理士・MSW・院内学級教師・CLS(チャイルドライフスペシャリスト)の多職種スタッフによるサポートや復学支援、長期フォローアップ外来と造血細胞移植後フォローアップ外来を行っています。



主な対象疾患

小児血液腫瘍(白血病・悪性リンパ腫など)
小児固形腫瘍(神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、横紋筋肉腫、骨腫瘍、性腺腫瘍など)
小児脳腫瘍(髄芽腫、胚細胞性腫瘍など)
小児良性血液疾患(再生不良性貧血、先天性造血不全症、先天性血小板減少症など)
原発性免疫不全症(重症複合免疫不全症、Wiskott-Aldrich症候群、自己炎症性疾患など)
難治性ウイルス感染症(慢性活動性EBウイルス感染症など)

を、関連診療科と連携しながら診療致します。



病棟セミクリーン域個室

感覚器・理学診療科

皮膚科

TEL 022-717-7759(外来)

完全予約制



科長
浅野 善英 教授



地域の先生方へ

当科を初診される紹介患者さんは、当日の混雑を避けるため地域医療連携センターを介して予約を取った後に受診して頂いています。なお、急を要する患者さんはこの限りではありません。主治医の先生から直接連絡を頂ければ、新患担当医が適切に対処いたします。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

新患(午前)では、日本皮膚科学会認定専門医が研修医とともに診断・治療にあたり、肉眼的な臨床所見はもちろん、ダーモスコピーや皮膚超音波測定装置を用いた非侵襲的検査、必要に応じた病理組織検査など多角的な所見を踏まえて正確な診断を心がけています。

治療方法に関しては、皮膚科医が従来行ってきた軟膏療法や光線療法に加えて、皮膚外科手術、レーザー治療、ナローバンドUVBやエキシマライトなど紫外線療法、生物学的製剤や分子標的薬を用いた最新の治療を積極的にレパートリーに加えています。

病棟では治験を含めた臨床試験も積極的行っています。22床を確保し、悪性黒色腫を含む皮膚腫瘍の手術、全身性強皮症・限局性強皮症と皮膚筋炎を中心とした膠原病の治療、自己免疫性水疱症、重症アトピー性皮膚炎、重症乾癬、重症薬疹、円形脱毛症、白斑、重症皮膚感染症などの難治性皮膚疾患の治療、毛細血管奇形や太田母斑などのあざのレーザー治療を行っています。また全身性無汗症の診断も行っています。



主な対象疾患

皮膚科では皮疹を伴うすべての疾患を扱いますが、当科では皮膚腫瘍(特に悪性黒色腫、皮膚リンパ腫)、膠原病・血管炎(特に全身性強皮症、限局性強皮症、皮膚筋炎)、アトピー性皮膚炎、乾癬、白斑、脱毛症、水疱症、レーザー(美容を除く)の診療を重点的に行っています。これらの疾患については専門外来を設けており、患者さんが大学病院に求める安全で質の高い治療の提供に努めています。

得意分野

専門外来を設けている疾患が得意分野になりますが、特に腫瘍外来では医師主導治験を含めた最先端の治療を提供しています。また、膠原病領域では特に全身性強皮症・限局性強皮症と皮膚筋炎の診療に力を入れており、リウマチ膠原病内科や循環器内科など関連各科と連携して診療科横断的な質が高く安全な治療の提供に努めています。また、キャピラロスコープを用いた全身性強皮症の早期診断にも精力的に取り組んでいます。



キャピラロスコープ

感覚器・理学診療科

眼科

TEL 022-717-7757(外来) 完全予約制



科長
中澤 徹 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

完全予約制で月曜から金曜まで毎日新患予約を受け付けております。緊急性が高いと考えられる患者さんの予約外でのご紹介の際には当科外来宛てにご一報下さい。緑内障サージカル外来には高眼圧で薬物療法が著効しない症例、緑内障メディカル外来には眼圧が十分低いのに関わらず視野欠損が進行する症例を御紹介頂ければ幸いです。

診療内容

眼科分野の検査・治療方法の進歩は著しく、常に最新の情報をアップデートする必要があります。当科では医局員各々が専門分野を持ち、最新知見や知識を全員で共有することで医局員全員の診療クオリティを向上させ、患者さんの「失明ゼロ」を目指して医療を提供しております。

緑内障外来: 眼圧下降手術、非侵襲的な眼底血流の評価、眼圧下降が得られているにもかかわらず視野障害が進行する患者さんに対する神経保護治療など、緑内障に対して多角的に検査・治療を行っております。

網膜・ぶどう膜外来: 緊急性の高い疾患に対する小切開硝子体手術、加齢黄斑変性症などに対する抗VEGF抗体硝子体注射を行っています。眼内の感染症に対してPCR検査を行うことで、迅速かつ正確に診断を行い、患者さんの治療予後改善に役立てています。

角膜・ドライアイ外来: 海外輸入角膜と国内アイバンクの双方とネットワークを持ち、角膜パーツ移植を行っています。また、培養口腔粘膜上皮移植ができる設備を有しております。角膜感染症患者の微量な検体から原因ウイルス・細菌を特定するPCR検査を行っています。

神経斜視外来: 最新の画像診断装置・遺伝子検索を用いた診断と神経内科・脳神経外科・耳鼻咽喉科・形成外科との密な連携治療を行っています。斜視・弱視の専門医師による斜視手術・弱視治療を行っています。

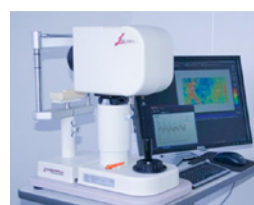
得意分野

緑内障外来では血液中の酸化ストレス値や末梢毛細血管の血流動態を測定することで眼圧以外の進行リスクについて研究を行い、生活指導やサプリメント内服も治療の一助として取り入れています。また冷え性や睡眠時無呼吸症候群といった緑内障との関連が報告されている因子に対して、他科と協力して積極的に精査・治療を行っています。網膜ぶどう膜外来では27ゲージ針による極小切開硝子体手術や、術中眼底OCTといった最新鋭の機器を用いて手術を行っています。角膜ドライアイ外来では角膜病変深度に応じた角膜パーツ移植を施行し、良好な手術成績を挙げています。



主な対象疾患

診断・治療にお困りのすべての疾患を対象とし眼科疾患別に専門外来を設けています。緑内障外来は他院での治療が難しい末期緑内障症例だけでなく、発症初期の若い緑内障症例も緑内障進行リスク精査のために県内外より御紹介頂いております。網膜ぶどう膜外来は手術が必要な症例や加齢黄斑変性症などの薬物治療が必要な症例、神経斜視外来は腫瘍や斜視・弱視の症例、角膜・ドライアイ外来では、難治性角膜混濁疾患や角膜感染症などを対象に診療を行っています。また、治療法が確立されていない網膜中心動脈閉塞症に対する治験を日本で唯一行っております。



酸化ストレス測定機器と眼底血流測定機器

感覚器・理学診療科

耳鼻咽喉・頭頸部外科

TEL 022-717-7755(外来)

完全予約制



科長
香取 幸夫 教授



地域の先生方へ

耳鼻咽喉・頭頸部外科領域のあらゆる疾患に対応します。一般外来、専門外来ともに予約制です。地域医療連携センターを介して外来予約をお申し込みください。緊急の場合は新患日にかかわらず対応いたしますので、遠慮なくご相談ください。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・唾液腺の疾患、頸部の腫瘍、嚥下障害、音声障害、難聴・めまい、嗅覚・味覚障害、睡眠時無呼吸など、多岐にわたる領域の疾患を対象に診療を行っています。耳科領域では、中耳疾患に対する内視鏡下耳科手術、高度難聴に対する人工聴覚器埋込術と聴覚リハビリテーションを行っています。先天性難聴に対する遺伝子検査、耳鳴症に対する耳鳴り順応療法や補聴器導入も行っています。鼻科領域では、ナビゲーションシステムを用いた内視鏡下鼻副鼻腔手術を行っています。好酸球性副鼻腔炎に対する生物学的製剤投与や、アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法も施行可能です。咽頭・喉頭科領域では、嚥下障害への嚥下改善手術や誤嚥防止手術、音声障害への音声改善手術やリハビリテーション、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する軟口蓋形成術を行っています。頭頸部がん領域に関しては、頭頸部腫瘍センターの中心的診療科として、放射線科、腫瘍内科、脳神経外科、形成外科、甲状腺外科、歯科顎口腔外科とともに毎週カンファランスを行い、治療方針を決定しています。希少がんを含む頭頸部腫瘍全般の診断および、手術・放射線療法・化学療法を組み合わせた集学的治療を行っています。

得意分野

嚥下治療センターを有し、他科と連携しながら嚥下障害の診断・治療を行っています。嚥下機能改善手術、誤嚥防止手術の経験も豊富です。頭頸部腫瘍センターでは、3Dモデルを使用した下顎骨再建手術など、他科と連携し機能温存を目指した治療を行っています。悪性腫瘍を含め、耳鼻咽喉・頭頸部外科の各領域において、内視鏡を用いた低侵襲手術を行っています。重度の感音難聴や回復困難な伝音難聴に対して、最先端の人工聴覚器による聴覚機能の回復と言語聴覚士によるリハビリテーションを行っています。



主な対象疾患

慢性中耳炎	涙道閉塞症
真珠腫性中耳炎	嗅覚障害
耳硬化症	急性喉頭蓋炎
中耳奇形	扁桃周囲膿瘍
滲出性中耳炎	深頸部膿瘍
突発性難聴	難治性口腔咽頭潰瘍
遺伝性難聴	味覚障害
先天性難聴	睡眠時無呼吸症候群
音響性聴覚障害	嚥下障害
加齢性難聴	咽頭・食道異物
耳鳴症	気道異物
メニエール病	音声障害
良性発作性頭位めまい症	けいれん性発声障害
前庭神経炎	反回神経麻痺
顔面神経麻痺	唾液腺腫瘍・唾石症
慢性副鼻腔炎	正中頸嚢胞
鼻中隔彎曲症	頭頸部がん(聴器、鼻副鼻腔、舌、歯肉、咽頭、喉頭、唾液腺、甲状腺)
アレルギー性鼻炎	
鼻副鼻腔腫瘍	

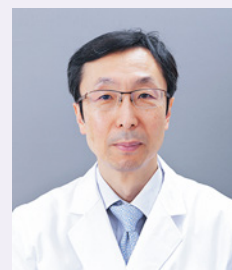


音声検査と手術の様子

感覚器・理学診療科

肢体不自由リハビリテーション科

TEL 022-717-7751 (外来) 完全予約制



科長
出江 紳一 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

新患日は月曜・水曜・木曜・金曜(完全予約制)です。地域医療連携センターにて新患予約をお願いします。専門外来については事前にリハ外来に電話でお問い合わせください。なお保険上の制約など当院にてリハ訓練を実施できない場合があります。

診療内容

リハビリテーションは全ての疾患や外傷の発生時から社会復帰にいたるまで、さまざまな障害に対処する技術および治療システムです。機能回復および代償手段の利用について科学的根拠に基づく医療を実践するとともに、他科との協力により高度医療を支える役割を担っています。

当科は1944年の鳴子分院に始まり、1994年の診療科開設以来、リハ需要の増加に応じて規模を拡大し、現在はリハ科医6名を中心に、リハ部スタッフ(理学療法士25名、作業療法士7名、言語聴覚士6名、看護師1名)で診療に当たっています。

診療は入院および外来通院で行います。入院治療の割合が大きく他科入院患者への対応が大半で、急性期からの廃用予防、機能障害・ADLの回復、退院時指導などを行います。高度救命救急センターの重症例や外科系の術後早期リハ、がん診療拠点病院としてがんリハにも力を入れています。また少数ながら自科病床を有し、重点的なリハが必要となる場合などに主治医として入院治療を担当します。外来通院は、リハ上の問題点に対して目標を定め期間限定で実施しています。通院治療のみ、当院退院後に継続が必要なケース、他院からの紹介例(地域医療連携センターで予約)など可能な範囲で対応しています。

得意分野

専門外来 ①**義肢装具外来**:小児から高齢者まで義肢装具診察・製作。②**痙縮外来**:脳卒中後遺症や脳性麻痺などにおける痙縮に対するボツリヌス療法。③**リンパ浮腫外来**:院内限定ですが、若干数外部からも応じています。

重点分野 ①**摂食嚥下障害**:嚥下治療センターと連携したリハ訓練。②**脳卒中片麻痺に対する磁気刺激療法、幻肢痛に対するミラー療法など先進的な機能回復治療**。当科で開発した磁気刺激装置パスリーダー(図)は、末梢神経の刺激を服の上からでも簡便に行うことができ、麻痺や廃用性筋委縮の治療として活用しています。



主な対象疾患

リハビリテーション治療の適応となる障害全般を対象とし、内部障害リハ科、高次脳機能障害科と専門分野毎に分担して診療に当たります。当科の専門分野としては、脳血管リハ(脳卒中・脳外傷、脊髄損傷、神経・筋疾患、顔面神経麻痺、慢性疼痛、脳性麻痺、小児運動発達遅滞、摂食嚥下障害など)、運動器リハ(リウマチ・骨関節疾患、切断、スポーツ障害、足病変など)、がんリハ(がん治療後の合併症やADL低下、リンパ浮腫など)、廃用症候群リハなどです。



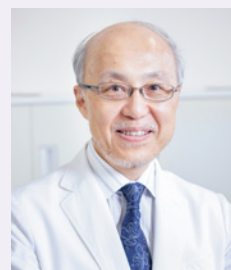
図.磁気刺激装置パスリーダー

感覚器・理学診療科

てんかん科

TEL 022-717-7751 (外来)

完全予約制



科長
中里 信和 教授



地域の先生方へ

本人と本人の様子に詳しい家族等の同席、かかりつけ医の紹介状が必須です。対面診療のほか、オンライン診療アプリCLINICS「クリニクス」によるセカンドオピニオン(自由診療)も実施しています。どちらも初診は1時間で品質の差はありません。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

対面外来診療は中里教授と神准教授が担当し、オンラインセカンドオピニオンは中里教授のみが担当します。いずれも初診の診察は約1時間で、紹介状を参照しつつも本人、家族、前医が気付かない小さい症状の詳細な聴取や、てんかん以外の発作の可能性についても詳しい問診を行います。発作以外にも、合併症の有無や生活上の悩みについて、たとえば本人や家族が気付いていない点まで含めて、専門的な問診を行います。前医で実施した脳波や画像もオリジナルから判読しなおします。診断と治療方針が決定した場合、前医や近医に戻して治療を継続してもらいます。外来では方針決定できない場合、入院精査を勧めます。

入院精査は2週間が原則です。最初の3泊4日はビデオと脳波による長時間モニタリング検査です。発作を誘発すべく減薬が必要な場合、家族に3泊4日の付添をお願いします。その後、神経画像検査、脳磁図検査、神経心理検査、心理社会的評価等を行います。退院後、診療に關与するすべての職種が一同に介して症例検討会を行い、治療方針を決定します。この症例検討会はセキュリティと個人情報保護に配慮した上で、オンラインにて他施設にも公開し、包括的てんかん診療の教育に利用されています。

得意分野

長年、抗てんかん薬を服用し続けていた患者でも、外来や入院精査を経て、てんかんが否定される率は2〜3割あります。てんかんと非てんかん性疾患との鑑別や、両者の合併例が診断されるメリットは、患者の人生においてかけがえのないものです。加えて公認心理師の時間をかけた面接によって、患者が抱える多くの心理社会的問題を発見し、退院後の医学的治療や社会資源の活用に役立てています。欧米の包括的てんかんセンターに匹敵する診療レベルを提供しつつ、日本国内やアジアの他施設での人材育成にも貢献しています。



主な対象疾患

てんかんと、てんかみを鑑別すべき疾患が対象です。大学病院でてんかん科でしか行えない診療に特化すべく、前医の治療で発作が抑制されない患者、発作が消えても合併症や副作用に悩む患者、周囲の偏見や誤解で悩みを抱えている患者など、従来の診療では問題が解決していない患者さんを優先しています。てんかんの初期治療や発作の救急は、近くの脳神経内科、小児神経科、脳神経外科などへの受診を推奨しています。12歳以下は小児科への依頼をお願いしています。

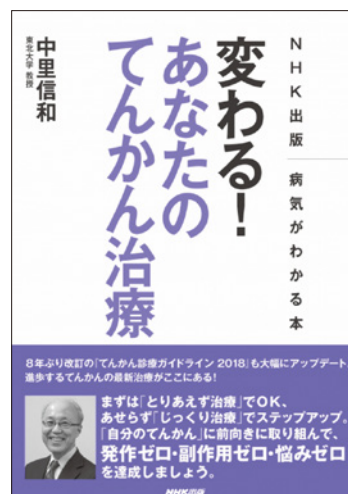


図1. 専門的治療の重要性を解説した患者向け入門書

感覚器・理学診療科

内部障害リハビリテーション科

TEL 022-717-7751 (外来)



科長
海老原 寛 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

内部障害リハビリテーションは、重症度にかかわらず、生命予後やQOLの改善効果があります。軽症の患者さんでも十分な効果や患者満足度が得られますので、遠慮せず是非ご紹介ください。なお地域医療連携センターを通して頂けますとスムーズに拝見できます。

診療内容

心臓機能障害

虚血性心疾患、心不全、下肢閉塞性動脈疾患、心大血管手術前後、心臓移植手術前後などの患者さんの診療を行っています。通院型もしくは2週間の入院型のどちらかを選択して、包括的リハビリテーションを行っています。

呼吸器機能障害

慢性閉塞性肺疾患、肺手術前後、肺移植手術前後などの患者さんの診療を行っています。きめ細かな評価に基づき、運動療法、セルフマネジメント教育、薬剤療法、食事療法、在宅酸素療法指導などを行い、呼吸困難感の軽減、体力の向上、日常生活動作能力の改善を図っています。

腎臓機能障害、肝臓機能障害

慢性腎臓病、NASH、NAFLDなどでは、運動は従来制限されてきましたが、近年、適切な運動は体力やQOLの向上、糖・脂質代謝の改善などのメリットをもたらすことが示唆されています。

高度肥満を伴った糖尿病・高血圧症・脂質異常症

外来治療が困難な高度肥満患者に対して、入院型包括的治療として、薬物療法、食事療法に加えて、整形疾患の発症・増悪の予防可能なストレングスエルゴメータや水中トレッドミルを用いて運動療法を行っています。

重複障害

様々な障害が重なった重複障害に対しても、包括的アプローチにてきめ個別にきめ細やかに対応していきます。

得意分野

従来のリハビリテーションは「疾病罹患後の廃用症候群の回復」というイメージですが、近年では、運動療法・薬物療法・食事療法・患者教育・カウンセリングなどをセットにした「包括的リハビリテーション」を積極的に取り組むことで、生命予後の改善、機能予後の改善、QOLや不安・鬱の改善などの目覚ましい成果を上げており、リハビリテーションの概念が「危険因子の軽減による攻めの医療」に大きく変容しています。



主な対象疾患

心臓機能障害

(虚血性心疾患、心不全、下肢閉塞性動脈疾患、心大血管手術前後、心臓移植手術前後など)

呼吸器機能障害

(慢性閉塞性肺疾患、肺手術前後、肺移植手術前後など)

腎臓機能障害

(慢性腎臓病、慢性腎不全、腎移植手術前後など)

肝臓機能障害

(慢性肝炎、非アルコール性脂肪性肝疾患、肝臓移植手術前後など)

高度肥満を伴う糖尿病、高血圧症、脂質異常症、減量手術前後など

内科的な専門管理が必要である脳卒中や廃用症候



点滴をしながらの有酸素運動

感覚器・理学診療科

高次脳機能障害科

TEL 022-717-7751 (外来)

完全予約制



科長
鈴木 匡子 教授



地域の先生方へ

新患外来は月曜・水曜・金曜で完全予約制になります。新患は詳細な病歴聴取が必要なため、できるだけ日常生活の様子をご存じの方の付き添いをお願いします。原因疾患が想定される場合は、それまでの治療の経過や画像等の情報のご提供をお願いしております。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

当科は日本で数少ない「高次脳機能障害」の臨床を専門とした診療科です。高次脳機能障害は、脳損傷により言語、記憶、注意等もっとも人間らしい複雑な神経機能が障害された状態です。損傷された脳の部位により、失語、健忘、注意障害など様々な症状が出現するため、個人ごとに正確に症状を把握する必要があります。神経疾患や外傷の後遺症として高次脳機能障害は全国に50万人いると推計されていますが、麻痺などと違って気づかれにくく、適切な対応がなされていないことが少なくありません。

認知症は高次脳機能障害により通常の社会生活が困難になった状態です。認知症は原因、症状ともに多彩で、原因疾患によって症状、経過、治療法が異なります。したがって、早めに原因疾患を診断して最適な治療方針を立てることが重要です。

当科では神経内科専門医、認知症専門医を中心とした高次脳機能障害の専門家が、外来・病棟を担当します。丁寧な診察に加え、神経心理学的/放射線学的/神経生理学的検査等を行い、原因疾患を診断し、治療方針を決定します。その後、紹介元の医療機関に逆紹介することを基本とし、連携しながら治療を継続します。福祉との連携で社会復帰や家庭生活に向けての支援も行っています。

得意分野

各個人の高次脳機能障害の症状とその原因を明らかにし、最適な治療や対応を考えることを得意としています。また、必要な医療・福祉支援を受けられるように機能評価や診断書作成も積極的に行っています。

■ 最新の知見に基づく認知症性疾患の鑑別と治療

特に正常圧水頭症、若年性認知症、原発性進行性失語症については豊富な経験を有します。

■ 脳血管障害や脳外傷後の失語、健忘などの診断とリハビリテーション

■ てんかん、脳腫瘍における高次脳機能マッピング、治療前後の高次脳機能評価と対応



主な対象疾患

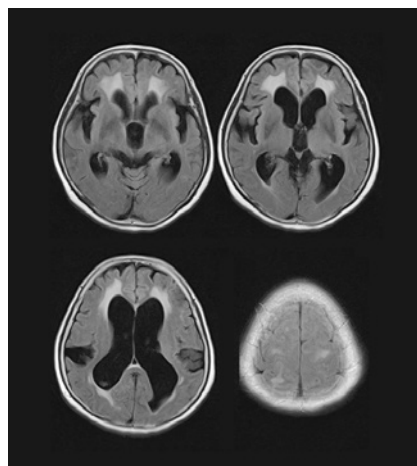
認知症性疾患：

アルツハイマー型認知症	レビー小体型認知症
前頭側頭葉変性症	特発性正常圧水頭症
血管性認知症	大脳皮質基底核変性症
進行性核上性麻痺	原発性進行性失語症など

脳の器質的疾患による高次脳機能障害：

脳血管障害後遺症（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）

頭部外傷後遺症	脳腫瘍
てんかん	脳炎
脱髄疾患	など



特発性正常圧水頭症のMRI画像

放射線科

放射線治療科

TEL 022-717-7732(外来)

完全予約制



科長
神宮 啓一 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

放射線治療に関することで何かございましたらお気軽にお問い合わせください。事前に画像を郵送いただけますと受診時の待ち時間が少なくなります。

診療内容

放射線治療には直線加速器による外部照射と密封小線源による腔内照射や組織内照射、非密封線源の内用療法があります。初診時には、まず、放射線治療の適応があるかどうかを、全身状態や画像、生化学検査等で判断いたします。照射適応があれば、どのように治療していくかの治療計画を行います。外部照射は照射範囲が重要であり、精度の高い治療を行うために、MRIやPET画像を合わせ込んだCT画像を基本とするシミュレータを駆使して照射範囲を決定し、その計画にそって治療が進められていきます。この治療計画には時間がかかるため、通常は新患日とは別な日に予約をとるという形をとらせていただいております。腫瘍による脊髄圧迫や腫瘍出血など、早急な治療が必要な場合はその限りではありません。放射線治療は一般的に1回数分間の治療を1日1回、月曜から金曜までの週5回治療で、病状に応じて数回から30回程度の治療を行います。近年のコロナ禍では通院回数をできるだけ減らした寡分割照射も実施しています。更に、1回大線量を集中的に照射して数回で治療する定位的放射線治療(SBRT)や、3次元的な不整形照射野に照射する強度変調放射線治療(IMRT)といった最新の放射線治療も行っています。2021年度からは最新の1.5TMRIとリニアックが一体となったMRIリニアック(図1)を用いた放射線治療を開始しました。この装置で前立腺癌やオリゴ転移への定位放射線治療を開始しています。これまで2か月ほどかかっていたものが週3回で5回のみで終了となります。密封小線源治療はIr-192を使用しています。この治療の場合、線源が入るアプリータを患部に刺入あるいは挿入し、局所的に大線量を照射します。子宮頸癌が主な対象になります。この装置は同室の大口径CTを付け、三次元的なCTガイド下の密封小線源治療を実施しています。必要な症例では腔内だけでなく組織内照射も実施しています。さらに前立腺癌にはI-125シード線源を、口腔癌にはAu-198グレイン線源を用いた永久刺入治療も行っています。また、隔離病棟を有しており、甲状腺癌に対するI-131カプセルの内服照射治療も行っています。2021年度には新しい放射線治療核種であるLu-177 DOTATATEによる神経内分泌腫瘍の治療も開始しました。



主な対象疾患

ほとんどすべての悪性腫瘍が対象となります。また、甲状腺眼症やケロイド、血管腫などの良性疾患も適応となることがあります。



MRI搭載放射線治療装置 エレクタ・ユニティ

得意分野

- 頭頸部癌
- 甲状腺癌
- 食道癌
- 肺癌
- 子宮頸癌
- 前立腺癌

放射線科

放射線診断科

TEL 022-717-7732(外来)

完全予約制



科長
高瀬 圭 教授



地域の先生方へ

■ 完全予約制：地域医療連携センターで、あらかじめ外来予約をお取りください。 ■ インターベンショナル・ラジオロジー (IVR) は放射線診断科で担当しています。 ＊腫瘍等に対する放射線照射療法は放射線治療科です。 ■ 参照画像データを紹介時点または受診時にDICOM形式のCDで送付をお願いします。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

最新の医療機器を用いた画像診断業務と、血管造影や超音波等の画像技術を用いて患者さんの治療を行うインターベンショナル・ラジオロジー (IVR)を行っています。

画像診断業務は、単に画像を読むことではありません。物理的エネルギーを付与しながら行われる検査故、患者さん毎に必要とされている医学的情報を個別判断しながら、放射線被曝や造影剤・磁場の負担を必要最低限に抑え、最適な撮像法を放射線技師との協力で最適化しています。CT、MRI、一般核医学検査およびPET-CTは、全てを当科が管理・読影しており、年間約7万2千件の画像診断を行っています。依頼に応じて単純X線撮影の読影、超音波検査施行をしています。

IVRは、経動脈的な腫瘍や出血の塞栓術、動静脈奇形や内臓等の動脈瘤塞栓術、腎動脈や四肢末梢、透析シャント等の血管狭窄の血管形成術、頭頸部癌の超選択的抗癌剤動注療法、先天性心疾患等、全身のIVRを行っています。副腎静脈サンプリングは世界一の実績があります。CTガイド下手技では、生検(肺、骨軟部等)、膿瘍ドレナージ、ラジオ波焼灼術に加え、東北で唯一となる腎癌の凍結療法を行っています。いずれも数mmの傷で施行できる低侵襲な治療です。救急IVRは、365日体制で、外傷、産後出血、術後出血、消化管出血等に対応しています。

得意分野

放射線診断医チームにより、隙の無い全領域の画像診断を最新の技術で行っていることが当科の特徴です。ワークステーションによる3次元画像処理と読影システムおよび人工知能 (AI) を駆使した詳細な画像再構成と読影を行っています。依頼科との多数の定期的カンファレンスでのコミュニケーションを基に、核医学も含め総合的な画像診断診療をしています。IVRもほぼ全領域に対応し、高難度IVRは大学病院に症例を集約しています。緊急IVRには、各科との協力体制で24時間365日対応です。CTガイド下の腎癌凍結療法は東北では唯一の施行可能施設です。副腎のラジオ波焼灼術も施行しています。



主な対象疾患

画像診断の対象となる疾患全般

各種のインターベンショナル・ラジオロジー (IVR) の対象となる疾患全般

— IVRとはカテーテル等を用いた血管内治療や画像ガイド下に行なう低侵襲治療です —

例：小径腎癌(凍結療法)、内臓動脈瘤、体幹部(肺・腎等)肺・内臓・四肢の動静脈奇形、難治性喀血、各種画像ガイド下生検、各種腫瘍の塞栓術、ステントグラフト留置後のエンドリーク、透析シャントトラブル、肝細胞癌、四肢の閉塞性動脈硬化症、椎体圧迫骨折、動注療法、外傷、出血、静脈サンプリング、胆道疾患、原発性アルドステロン症(ラジオ波焼灼治療) etc



Siemens 3T MRI

CLINICAL DEPARTMENT

[Dental]

—
齒科部門

口腔育成系診療科

小児歯科	59
矯正歯科	60

口腔維持系診療科

口腔支持療法科	61
顎口腔画像診断科	62
歯科顎口腔外科	63
歯科麻酔疼痛管理科	64

口腔修復系診療科

歯内療法科	65
咬合修復科	66

口腔回復系診療科

咬合回復科	67
歯周病科	68
口腔機能回復科	69

特殊診療施設

総合歯科診療部	70
顎口腔機能治療部	71
障がい者歯科治療部	72
顎顔面口腔再建治療部	73
周術期口腔健康管理部	74

院内共同利用施設

歯科インプラントセンター	75
口腔内科・リエゾンセンター	76
嚥下治療センター・歯科	77

歯科部門のご紹介

歯科診療部門長あいさつ

日頃より東北大学病院歯科診療部門にご支援を賜り、誠にありがとうございます。当院の基本理念および将来構想は、「患者さんに優しい医療と先進医療との調和を目指した病院」です。歯科診療部門はこの理念を基に、医科歯科連携を基盤とした高次歯科医療を東北医療圏に提供すべく日々全力で取り組んでいます。

歯科診療部門は11の専門診療科、6つの特殊診療部と3つの高度治療センターで構成されています。歯科は外来棟で3つのフロアにまたがっており、約140台の歯科用ユニットを有しています。また、病棟には歯科の入院患者さんのベッドが約30床あります。歯科診療部門には約260名の歯科医師が働いており、歯科衛生士、歯科技工士、医師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、言語聴覚士、管理栄養士など、たくさんの職種と協働してチーム医療を行っています。

当院は、全国的に見ても他職種連携と医科歯科連携が高いレベルで進んでいる大学病院です。医科と歯科が一つの病院建物のなかで緊密に連携しているため、患者さんに高度で総合的な医療を提供できる点が当院の特徴と言えます。人生100年時代を迎える中、個人のQOLをより向上させるには、歯科界が感じている以上に、医療機関には他職種連携と医科歯科連携に対する潜在的な需要があると感じております。

当歯科診療部門では、口腔内科・リエゾンセンターや嚥下治療センター・歯科を中心に、口腔粘膜疾患、口腔顔面痛、味覚障害、嚥下障害など歯科的な難治性疾患に加え、全身疾患や医科領域の疾患が疑われる患者さんの紹介に対して、医科部門と連携して治療に取り組んでいます。また、各診療科、特殊診療施設でも、医科歯科連携体制のもと、高度な専門医療や先端医療技術の提供に努めていますので、対象となる患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

一方、手術前後の口腔管理や、がん等に伴う口腔の苦痛症状の予防・軽減処置を要する患者さんにおいては、定期管理が可能なステージで、地域の歯科医療機関との連携が不可欠となります。医科歯科連携に繋がる病診連携を地域全体で進めるために、当院からの紹介についても是非ともご協力いただきますようお願い申し上げます。

これからも皆様に「地域になくはない歯科診療部門」と思ってもらえるよう、スタッフ全員の力を結集して尽力してまいります。皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



総括副病院長
(歯科診療部門長)

江草 宏

口腔育成系診療科

小児歯科

TEL 022-717-8384/8385(外来)



科長
山田 亜矢 特命教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

新患日は、平日(月曜～金曜)の午前中です。地域医療連携センターへの紹介予約をお願いします。緊急性が考慮される場合は、午後でも新患受付いたします。その際は、事前に小児歯科外来受付にご連絡ください。

診療内容

当科では、小児の歯科治療全般を担当しております。歯科のユニット数は7台で、そのうち3台は個室です。宮城県内外からの紹介を受け東北地区の拠点診療室として先駆的な診療を行っております。

小児の齲蝕や歯周疾患の治療などの一般的な歯科治療のみならず、一般開業医において治療に際し不協力的な小児の歯科治療や、歯科診療を受容可能になるよう行動トレーニングも行っております。また、過剰歯の抜歯、舌小帯や上唇小帯の切除術などの外科的処置、歯並び・咬み合わせの異常に対して、健全な永久歯列へと導くための咬合誘導、全身疾患を有する小児の歯科治療や、歯科麻酔科と連携した鎮静あるいは全身麻酔による集中治療も行なっております。さらに口腔粘膜疾患や口腔機能に対する治療など、小児期における口腔疾患のすべてに対応する診療科です。特に歯並びの治療に関しては、齲蝕や口腔習癖等に起因する異常に関して早期に予測・診断し、顎顔面の成長を考慮しながら適切な時期での治療を開始します。また同一フロアーにある矯正歯科と密な連携により、乳児期から学童期におけるシームレスな治療を行っております。

日本小児歯科学会の専門医研修機関として専門医や専門医指導医の育成にも携わっております。

得意分野

主に一般の歯科医院において治療が困難な小児の歯科治療を担当しております。特に低年齢の歯科治療の実績は多く、全国でもトップクラスの症例数を経験しております。各種全身疾患を有する小児においては、小児科等の関連診療科と連携して診療を行っております。また静脈内鎮静法や全身麻酔下での集中治療も実施しております。

一般的な歯科治療のみならず、小児期の歯並びの治療、小児の口腔外科処置、障害児への対応など、小児期にかかわる口腔疾患は当科で対応しております。



主な対象疾患

- | | |
|--------|--------------|
| 齲蝕 | 歯の萌出異常 |
| 歯髄炎 | 歯列・咬合の異常 |
| 歯周疾患 | 口腔習癖 |
| 小帯付着異常 | 歯の外傷 |
| 乳歯晩期残存 | 口腔機能発達不全症 |
| 過剰埋伏歯 | 歯の形成不全 |
| 歯牙腫 | 障害児・有病児の歯科治療 |
| 癒合歯 | |



小児歯科診療室での診療の様子

口腔育成系診療科

矯正歯科

TEL 022-717-8376(外来)



科長
溝口 到 教授



地域の先生方へ

矯正歯科治療に関する初診受付の時間は、平日午前8時30分から11時ですので、11時までに来院・受付を終えるように患者さんにご教示ください。また、紹介状なしで当科を受診すると、診察料のほかに特別料金がかかりますので、できるだけ紹介状を持たせてください。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

1) 歯を正常な位置に配列する治療: 歯の配列に用いる代表的な装置は、ブラケットとワイヤーからなるマルチブラケット装置です。ブラケットは、従来は金属製でしたが、最近では大人で矯正治療を希望する患者さんの要望に合うように、審美的に目立たないセラミック製あるいはプラスチック製のブラケットが用いられております。ワイヤーの調整は1か月間隔で行い、歯の移動を行う治療(動的治療)の期間は、平均的に2年から3年位かかります。

2) 顎骨の形や位置を変える治療: 成長期の子どもにおいて骨格性の問題がある場合には、整形的装置を用いて顎骨の成長をコントロールする治療を行います。使用期間は1年から2年です。

3) 顎骨手術を併用した矯正歯科治療(外科的矯正治療): 骨格性の不調和の程度が大きく、矯正歯科治療単独では良い咬み合わせを獲得できないと診断した場合には、矯正歯科治療と顎切り手術を併用する治療が行われます。治療期間は通常の矯正歯科治療と同じく2年から3年位を要しますが、途中顎切り手術のために2週間位の入院が必要になります。また、顎切り手術後1年位に顎骨の固定に利用したチタンプレートの除去手術のための入院(5日位)も必要になります。

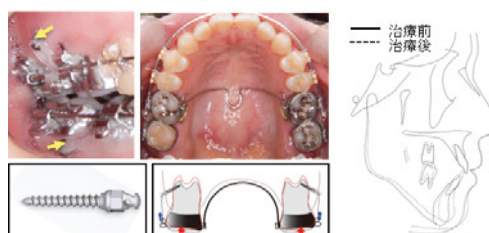


主な対象疾患

歯ならびや咬み合わせの異常(不正咬合)には、さまざまな種類があります。主な不正咬合としてはそう生、空隙歯列、上顎前突、下顎前突、開咬、過蓋咬合、交叉咬合(歯列の左右的非対称)があります。これらの不正咬合は、歯の位置の異常によるもの(歯性)と顎骨の位置や形によるもの(骨格性)に大きく分けることができます。当科の対象疾患は歯性不正咬合や軽度から中等度の骨格性不正咬合に加えて、重度の骨格性不正咬合(顎変形症)および不正咬合を伴う国の定める先天疾患が対象疾患となります。

得意分野

当科では通常の矯正歯科治療に加えて、歯科顎口腔外科あるいは医科との緊密な連携のもと、顎変形症に対する外科的矯正治療を積極的に行っております。また、顎骨に固定源を求める歯科矯正用チタン製インプラント(アンカースクリュー)も積極的に適用しております。アンカースクリューを用いることによって、従来の矯正歯科治療では困難であった歯の移動(大臼歯の遠心移動や圧下)を効率的に行うことができるようになり、永久歯抜去や外科的矯正治療を回避する可能性が高くなります。



アンカースクリューを利用した骨格性開咬の治療

口腔維持系診療科

口腔支持療法科

TEL 022-717-8330(外来)

完全予約制



科長
江草 宏 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

当科は、基本的に当院で医科処置を実施する患者さんを対象としておりますが、医科処置終了後も継続した口腔管理が必要であり、かかりつけ歯科医院へ御紹介させていただいております。御紹介後も必要に応じて診療支援・相談を行いますので、随時ご連絡下さい。

診療内容

医科の治療を遂行する際、お口の状態を良好に保つことはとても大切です。科名に掲げた口腔支持療法とは、がん等の疾病そのものや治療により口腔内に生じる合併症や苦痛症状について予防、治療、症状緩和を行うことです。特に、頭頸部の手術・放射線療法・化学療法、造血幹細胞移植などでは治療が長期に及び、口腔への影響も大きくなります。当科では医科での治療に伴う口腔粘膜炎などを未然に防ぐため、治療開始前から口腔管理計画を立案し、医科での治療時に問題となる部位の処置やお口のクリーニングを行い、治療スケジュールに合わせたご自身の歯磨き・保湿方法などをお伝えします。治療中も口腔管理を継続し、治療終了後はかかりつけ歯科医院へ経過報告と共に御紹介し、地域の歯科医師との連携を行っています。

当科は周術期等口腔管理を中心に診療しておりますが、新患は東北大学病院の医科治療中の患者さんに限らせていただいております。東北大学病院は東北で最大規模の病院であり、周術期等口腔管理の必要な患者さんが多数入院・通院しておりますので、ご理解をお願いいたします。また、口臭でお悩みの方について、口腔内科・リエゾンセンター経由で検査、診療を行っております。診察をご希望の場合には、まずは口腔内科・リエゾンセンターのご予約をお取りください。

得意分野

周術期等口腔機能管理

様々な医科治療における周術期等口腔管理を行っています。特に、頭頸部放射線療法・化学療法、造血幹細胞移植を実施する患者さんには、治療前から口腔粘膜炎の予防や重篤時の口腔管理を行っています。治療後には治療経過などの情報提供を行い、かかりつけ歯科にて継続的な口腔管理が実施されるように地域医療機関と連携しています。



主な対象疾患

医科の手術や化学療法等を受ける際に加療・管理を要する歯科疾患(むし歯や歯周病、義歯不適合、口腔粘膜疾患、口腔清掃不良などを含む)

がん薬物療法による口腔有害事象

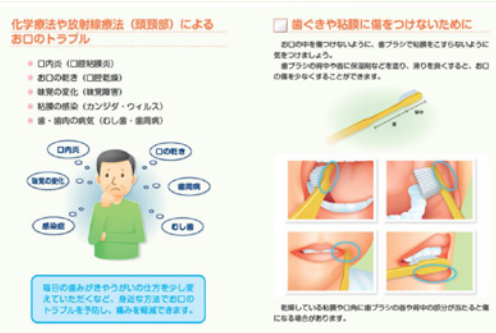
頭頸部放射線療法による口腔有害事象

悪性腫瘍手術(頭頸部癌等)に関連する口腔有害事象

造血幹細胞移植に関連する口腔有害事象

上記のような医科治療後も継続した歯科医学的配慮が必要な方の歯科疾患

口臭症



当科で使用している口腔セルフケア説明冊子

口腔維持系診療科

顎口腔画像診断科

TEL 022-717-8391 (外来)



地域の先生方へ

新患は、月曜から金曜の午前中となっております。歯科用CT撮影は、月曜、火曜、水曜、金曜の午後です。患者さんの待ち時間短縮のため、当院地域医療連携センターをご活用ください。



科長
飯久保 正弘 教授



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

当科は、近年の医用画像モダリティの多様化に対応すべく、2021年4月より「口腔診断科」から「顎口腔画像診断科」に名称を変更いたしました。当科が担っている顎口腔領域の画像診断は、口腔疾患の的確な診断および治療のためには必要不可欠なツールです。さらに、近年の歯科医用画像は、口内法エックス線写真やパノラマエックス線写真のような2次元画像から、歯科用CTや口腔内スキャナなどの3次元デジタル画像へと変化し、それらデジタル技術を駆使することで様々な医療支援システムが開発されています。当科は、CT、MRI、超音波診断装置、核医学などを用いた画像診断を主な業務とし、医科部門の放射線診断科および放射線部と協力し、安全な検査の実施と質の高い画像読影に務めております。また、インプラント治療シミュレーションなどの画像データを用いたサージカルガイド作製、周術期口腔健康管理部と連携し全身疾患有病者の顎口腔領域の感染巣精査とその治療、口腔内科・リエゾンセンターと連携し口腔粘膜疾患や口腔顔面痛に対する診断と治療なども行っています。

得意分野

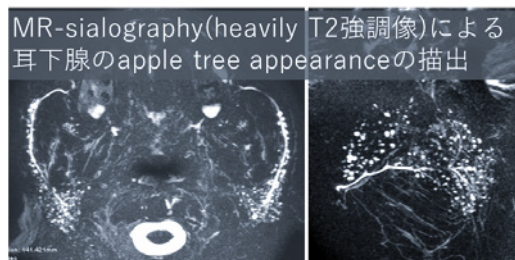
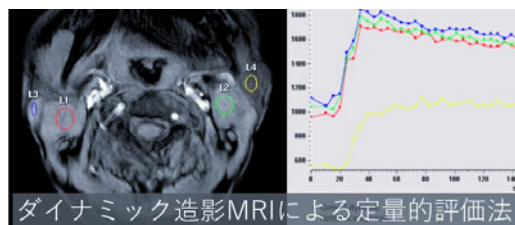
当科の専門医・認定医は、周術期口腔健康管理部や頭頸部腫瘍センター、歯科インプラントセンター、口腔内科・リエゾンセンター等にも所属しており、それぞれのカンファレンスを通じて総合的・実践的な画像診断を行っているとともに、実際の診療にも従事しています(日本歯科放射線学会;指導医1名、専門医5名、認定医4名、日本口腔診断学会;指導医5名、認定医3名)。特に、全身疾患を有する患者に対しては、医科部門の各診療科と連携し、全身の画像および検査所見を参考にしながら顎口腔領域の画像診断と治療を行っています。

(2021年実績:CT 3,857件、MRI 485件、シンチグラフィ 144件、FDG-PET検査 339件、歯科インプラントシミュレーション 152件)

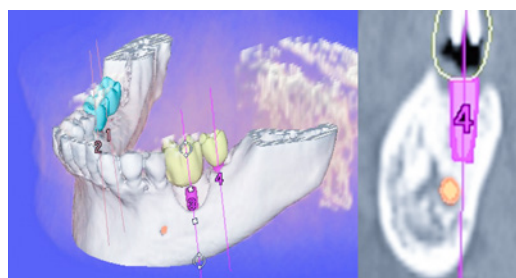


主な対象疾患

顎口腔領域に発生する疾患全般
全身疾患有病者の顎口腔領域の感染巣精査
歯科インプラント術前精査



唾液腺疾患患者のMR画像



口腔維持系診療科

歯科顎口腔外科

TEL 022-717-8352(外来)



科長
山内 健介 特命教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

智歯抜歯から腫瘍に至るまで、顎口腔領域の幅広い疾患に対応し、高度先進医療を提供しつつ、治療後の一般歯科治療にスムーズに移行できるように病診連携に努めて参ります。

診療内容

歯科顎口腔外科で最も多く紹介されるものは、埋伏智歯であり、外来での局所麻酔下での抜歯をはじめ、歯科治療恐怖症をはじめとする既往疾患によっては、静脈内鎮静併用局所麻酔下、または全身麻酔下で抜歯を行っています。さらに、高齢社会を背景として、既往疾患による多剤服用患者で全身管理が必要な患者さんには、モニター下での抜歯や小手術を行っています。抜歯以外については、主な疾患別に、口腔癌、顎変形症、顎関節・口腔顔面痛、外傷、口唇口蓋裂、顎骨壊死、インプラント・顎再建の診療グループ体制を編成しており、グループ毎に診療プロトコルを作成し、検査、診断、治療、管理をスムーズに行えるようにしています。

顎・口腔領域は、摂食、発音、嚥下、審美といった要素を持つ領域であるため、治療による影響を最小限に抑え、患者さんのQOL回復をはかるために、顎顔面口腔再建治療部、歯科インプラントセンターなどの院内歯科部門の連携はもちろんのこと、がん治療での頭頸部がんサージカルボードへの参加、嚥下治療センター、唇顎口蓋裂センターなどとも連携しています。

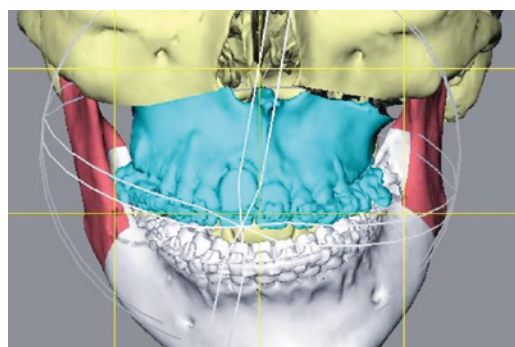
得意分野

CT画像をはじめとするデジタル画像を応用した三次元手術シミュレーションを幅広く応用し、治療による様々な障害を最小限にするように努めています。特に顎矯正手術での硬組織シミュレーションでは、術後の顎骨位置を正確に予測することで、顔貌の対称性や骨片干渉の有無を術前予測して対応しています。また、低侵襲手術の目的で内視鏡を応用し、異物迷入、異所性埋伏歯、広範な顎骨腫瘍などでは特に有効と考えています。また、手術等で失われた歯・歯槽骨に対しては、骨移植を併用しつつ広範囲顎骨支持型装置(インプラント)を用いた咬合再建も積極的に行っています。



主な対象疾患

腫瘍	先天・後天奇形
顎変形症	高度歯槽堤萎縮症
嚢胞	薬剤関連顎骨壊死
埋伏歯・埋伏智歯	口腔顔面痛
菌性感染症	ドライマウス
上顎洞炎	シェーグレン症候群
顎骨骨髓炎	顎関節強直症
粘膜疾患	習慣性顎関節脱臼
顎関節症	咀嚼筋腱膜過形成症
外傷・骨折	睡眠時無呼吸症候群
唾液腺疾患	



咬合関係を考慮した顎骨移動の手術シミュレーション

口腔維持系診療科

歯科麻酔疼痛管理科

TEL 022-717-8352(外来)



科長
水田 健太郎 教授



地域の先生方へ

外来の新患日は火曜・木曜・金曜、再来診療日は月曜～金曜となっており、原則として他の医療機関からの紹介状が必要です。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

手術室での麻酔管理: 歯科及び口腔外科の手術における全身麻酔・鎮静管理を行っています。麻酔管理に際しては、麻酔を受ける全ての患者さんに対して外来診察室で術前診察を行っております。患者さんの全身状態と手術内容を包括的に評価し、その時点で考えられる最適な方法を十分に説明しております。

全身麻酔下歯科治療: 歯科治療に対する恐怖心や不安感が強い方(歯科治療恐怖症)、歯科治療が苦手な小児患者、口腔内に治療器具が入ると嘔吐反射が生じる方(異常絞扼反射)は通法の歯科治療の受容が困難です。このような方々の口腔は多数歯にわたるう蝕・歯周病への罹患で崩壊しており、チームアプローチによる適切な対応が不可欠です。当科では全身麻酔下での一括歯科治療を行っています。

歯科外来での麻酔管理(鎮静): 静脈内鎮静法を用いて、歯科治療中の患者さんの精神的ストレスを軽減し、より快適かつ安全に歯科治療を受けられるようにしています。

局所麻酔薬アレルギー検査: 「以前に歯科治療を受けたときに気分が悪くなり、局所麻酔薬アレルギーと診断され、以来歯科治療を受けられずにいる」という患者さんがいらっしゃいます。実際にはこのような症状のほとんどは、血管迷走神経反射や、局所麻酔薬に含する血管収縮薬の作用によるものです。しかしごく少数ながら、真のアレルギー症状を呈する患者さんもあります。病歴から局所麻酔薬アレルギーが強く疑われたり、局所麻酔薬の使用に強い不安をもつ患者さんに対して、局所麻酔薬の即時型皮膚反応検査(プリックテスト、皮内テスト)やチャレンジテストを行っております。



主な対象疾患

歯科、口腔外科手術全般の麻酔管理
(全身麻酔、静脈内鎮静法)
歯科治療恐怖症
異常絞扼反射(嘔吐反射)
局所麻酔薬アレルギー

得意分野

歯科治療恐怖症、異常絞扼反射(嘔吐反射)を有する患者さんの治療を行う専門チーム(全身麻酔下歯科治療チーム)を運営しています。専門診療科が集結している大学病院の特徴を生かし、周術期管理は当科が、また歯科治療は複数科(保存系診療科/補綴系診療科/歯科顎口腔外科/小児歯科/障がい者歯科治療部)の歯科医師が歯科治療に参画し、高品質な歯科医療を提供しております。全身麻酔下に一括して歯科治療を行いますので、通院での治療に比べて治療回数を大幅に減らすことも可能です。



手術室での全身麻酔管理

口腔修復系診療科

歯内療法科

TEL 022-717-8337(外来)



科長
齋藤 正寛 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

近年飛躍的な進歩を遂げた歯を保存する治療技術は、標準治療としてグローバルに発展し、予知性を確実に高めてきました。これらの中には手術用顕微鏡を用いた根の治療、ミニマルインターベンションを軸とした虫歯治療が含まれます。歯内療法科ではこれらの治療を行っています。

診療内容

虫歯治療に関しましては、審美性の高いコンポジットレジンを用いたメタルフリー治療を中心に実施しています。術式としては通法の虫歯の除去、歯面処理を実施した後に、その上に象牙質色、エナメル質色に合わせたコンポジットレジンペーストで積層充填、研磨は手術用顕微鏡にて実施しています。

歯内療法に関しましては、ラバーダム防湿を用いた治療中に生じる感染予防、手術用顕微鏡を用いた根管の可視化、Ni-Tiファイルによる根管形成、化学的・機械的洗浄を施し、根管充填による封鎖を実践し、治療の促進と術後の再発を防止します。またこの歯内療法で治癒の期待出来ない病変がある場合には、手術用顕微鏡を用いた外科的歯内療法で対応しております。コンビームCTを用いた診査診断し、感染源である歯根の先端を切除し、逆根管形成、逆根管充填と呼ばれる技術で感染物の除去と封鎖を行い、根尖部歯周組織の治療を図ります。

これらの技術を導入することで、難症例を除き根管治療は2～3回で終了するようになりました。また外科的歯内療法の成績も改善し、年間に約70件を実施するまでの体制を整える事が出来ました。

得意分野

当科では再生医療を得意分野としております。例として自己修復能力の低下している難治性疾患に対して積極的に機能回復を導くため、自己血を用いた再生医療を根尖性歯周炎治療に応用しています。また幹細胞移植療法の導入も進めており、東北における再生医療の普及化活動も進めています。またマルファン症候群、炎症性腸疾患を含む難病の歯科治療にも取り組んでおり、歯内療法を中心にリスクの高いケースに対する治療技術の開発にも取り組んでいます。



主な対象疾患

う蝕
根尖性歯周炎
難病の歯科治療：マルファン症候群
炎症性腸症候群（クローン病、潰瘍性大腸炎）
皮膚疾患の歯科治療：掌蹠膿疱症

歯髄炎
歯根嚢胞
歯根嚢胞

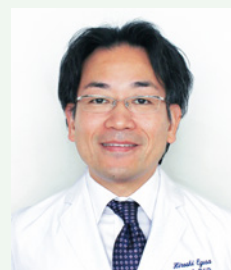


図上段 コンポジットレジン症例（左：術前、右：術後）
図下段 手術用顕微鏡（左図）とラバーダム防湿下での
Ni-Tiファイルによる根管形成

口腔修復系診療科

咬合修復科

TEL 022-717-8364(外来)



科長
江草 宏 教授



地域の先生方へ

新患受付は毎週火曜と金曜の8時30分から11時となっております。初回は主に基本診査と担当医の決定、応急的処置を行います。初回以降は、担当医との予約制となります。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

咬合修復科では、感染と咬合力の制御を基本とし、歯の喪失をこれ以上拡大しないためのエビデンスに基づいた補綴歯科治療を実践しています。補綴歯科治療全般を担当し、特に日本補綴歯科学会の定める専門性の高い難症例（著しい顎堤吸収、すれ違い咬合、咬合平面の乱れ、咬合崩壊、低位咬合、全身疾患に起因する摂食機能障害、全顎的審美障害、ブラキシズム、顎機能障害、睡眠時無呼吸症候群など）を治療します。特色ある診療では、審美補綴歯科治療、歯周補綴治療、金属アレルギー歯科治療、スポーツマウスガードの製作・提供などに積極的に取り組んでいます。

また、最新のデジタル歯科技術を導入し、高度医療としてCAD/CAMや3Dプリンターを活用したメタルフリー歯科治療を提供しています（図）。健康保険診療では、臼歯部におけるCAD/CAM冠やグラスファイバー補強高強度コンポジットレジンブリッジ治療に積極的に取り組んでいます。メタルフリー補綴治療には、症例に適した歯冠修復材料およびセメントの選定や、接着技法における最新かつ正確な専門知識が求められます。当科では、長年蓄積した臨床データと最新の学術情報をたえず治療にフィードバックし、治療の長期予後を高めるよう努めています。



主な対象疾患

歯質・歯の欠損による咀嚼障害、発音障害や
審美障害
補綴装置（義歯、クラウン、ブリッジなど）の
不備・破折
歯の破折
咬耗症
ブラキシズム
（歯ぎしり）
歯科金属アレルギー
著しい顎堤吸収
すれ違い咬合
咬合平面の乱れ、
咬合崩壊、低位咬合

全身疾患に起因する
摂食機能障害
口腔機能低下症
全顎的審美障害
睡眠時無呼吸症候群
スポーツ外傷予防
（マウスガード）

得意分野

ジルコニアやセラミックスの補綴装置、CAD/CAM冠やグラスファイバー補強高強度コンポジットレジンブリッジを用いたメタルフリー歯科治療を得意としています。また、エビデンスとMinimal Interventionに基づいた接着ブリッジ、短縮歯列を活用した補綴設計や、徹底的な感染管理を基本とした歯周補綴治療を数多く手がけています。また、歯科インプラントセンターと連携し、各症例に最適な上部構造の材料選択から専門性の高いインプラント補綴治療を提供します。スポーツ外傷を防止するマウスガードの製作も担当します。

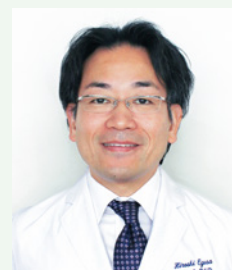


CAD/CAM技術を用いたオールセラミッククラウンの治療例

口腔回復系診療科

咬合回復科

TEL 022-717-8364(外来)



科長
江草 宏 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

外来診療は補綴歯科専門医4名(うち指導医3名)を含む歯科医師19名による担当医制です。新患外来は月曜・木曜になります。初診時には、新患係が診査を行い、担当医を決定します。また、応急処置を実施します。再来診からは、担当医による予約診療となります。

診療内容

咬合回復科は、義歯などの補綴歯科治療により「咬み合わせ」を回復し、口の働きを改善することを専門とします。

失われてしまった歯・顎などの一部を装置により再建することによって、歯列・顔貌などの形の回復とともに、「食べる」「しゃべる」「味わう」という人間にとって大切な口の機能の回復・保全を図り、患者さんのQOLの向上・豊かな生活に貢献することを目的とします。

当科では、一般の歯科診療所等での対応・管理が難しい患者さんに対し、地域診療所の歯科医師の先生方、他科の医師・歯科医師の先生方との連携を取りながら治療にあたっています。また専門外来においては、各専門医・指導医による指導体制を整備し、より高い専門性に基づいた補綴歯科治療を提供することを心がけております。各疾患や治療法に関する国内外の診療ガイドラインや最新動向を調査し、エビデンスに基づいた補綴治療を実施しています。

新治療技術、新素材を積極的に導入し、患者さんの要望により対応しうる最新治療の提供、新たな治療法の開発にも力を注いでおります。近年の歯科医療におけるデジタル化に対応し、口腔内スキャナーを使用した「歯の型取り」を積極的に実施しております。また、顎運動計測装置や咀嚼能力検査装置を使用し、治療効果の見える化を実践しております。



主な対象疾患

歯の欠損
咬み合わせの異常
閉塞型睡眠時無呼吸症候群(OSAS)や
いびき症
摂食嚥下障害

得意分野

- 多数歯欠損、咬合崩壊、すれ違い咬合などの補綴難症例に対する補綴治療(義歯、ブリッジ、インプラント)
- 咬み合わせの不良などによる顎や口の痛み
- 閉塞型睡眠時無呼吸症(OSAS)に対する各種口腔内装置による治療
- ノンメタルクラスプデンチャーを用いた治療
- 重度の歯科恐怖症など歯科治療が困難な患者さんに対する静脈内鎮静法や全身麻酔下での歯科治療
- 各種検査(咀嚼能力検査、咬合接触検査、顎運動検査など)による口腔機能評価
- スポーツ外傷に対するマウスガード



様々なタイプの義歯を用いた治療例

口腔回復系診療科

歯周病科

TEL 022-717-8337(外来)



科長
山田 聡 教授



地域の先生方へ

新患受付日は月曜(奇数日のみ)、火曜、木曜の午前中となっております。患者さんの待ち時間短縮のため、当院地域医療連携センターを介して新患予約をお申し込みください。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

歯周病科では、歯周病の早期発見と早期治療による口腔の健康確立を目指すとともに、特に中等度以上の歯周病に罹患された患者さんに対して、歯周ポケット検査やエックス線写真などの検査結果をもとに診断を行い、治療計画を立案した上で専門的な歯周治療を実施しています。

さらにフラップ手術や歯肉切除術などの標準化された歯周外科手術を含め、先端治療である歯周組織再生手術を実施しています。また、局所的に下がった歯肉などに対して審美性を改善するために歯周形成手術を行うこともあります。

また、上記の治療の過程で、歯の欠損部への入れ歯やブリッジの作製、インプラント治療、病的に動いた歯の矯正などを行って、快適に咬めるようにまた審美的にも満足できるようにします。この段階では、当科の担当医と関連診療科の専門医が連携して、それぞれの患者さんに最適な治療を行います。

歯周病科には日本歯周病学会および日本歯科保存学会認定の専門医・認定医が数多く在籍しており、最新の専門的な医療の提供を通して大学病院の使命の1つである地域連携について積極的に取り組んでいます。

得意分野

進行した歯周疾患の治療において症例によっては、従来の歯周治療に加えて歯周組織再生療法が選択できる時代となってきました。当診療科はこれまでにエムドゲイン®を用いた歯周組織再生誘導療法に加え、遺伝子組換えヒトbFGF(塩基性線維芽細胞増殖因子)を有効成分とする日本発・世界初の歯周組織再生医薬品リグロス®を用いた歯周組織再生誘導法に積極的に取り組んでおり、これらのノウハウを生かし歯周外科手術や歯周組織再生手術のすぐれた成績を上げています。



主な対象疾患

歯肉炎
歯肉増殖症
慢性歯周炎
侵襲性歯周炎
う蝕
歯髄炎
根尖性歯周炎

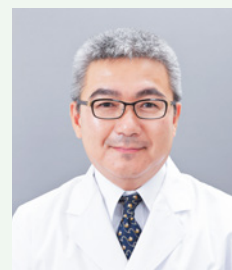


歯周病科のスタッフ

口腔回復系診療科

口腔機能回復科

TEL 022-717-8397(外来)



科長
服部 佳功 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

ご紹介の際は、当院地域医療連携センターを通して予約をお願いします。顎堤の高度吸収、上下顎対向関係の異常、唾液分泌低下、口腔感覚・運動機能低下、オーラルジスキネジア、認知症やパーキンソン病など、多様な背景の義歯難症例を受け入れています。

診療内容

わが国で歯科を受診する患者数に大きな変化はありませんが、全患者に占める高齢患者の比率は上昇の一途で、患者の2人に1人が65歳以上高齢者、4人に1人が75歳以上の後期高齢者で占められるまでになりました。日本人高齢者の残存歯数は近年著しく増加し、健康日本21に掲げられた高齢期の歯科保健目標である「8020」（80歳時点で20歯以上の天然歯を維持すること）の達成者が既に過半に及ぶ（2016年歯科疾患実態調査、51.2%）など、高齢者の口腔保健状況は著しく改善しています。とはいえ、高齢者の顎口腔には生理的な加齢変化に加えて積年の病的変化が蓄積され、歯数の減少、唾液分泌低下、咀嚼・嚥下・発語などに係わる顎口腔の筋力の低下などが好発し、高齢者の健康や生活機能を脅かします。また、運動機能や認知機能、視聴覚機能などの低下は、口腔衛生状態を悪化させ、口腔機能の低下に拍車をかける要因として作用します。高齢期の口腔機能の低下は、低栄養、ひいてはフレイルのリスクを高めることが知られています。当科は、義歯治療などの欠損補綴歯科治療を中心に、多様な治療手段を駆使して、高齢者の口腔機能の維持・回復に必要な管理・指導を行います。

得意分野

日本補綴歯科学会および日本老年歯科医学会の専門医研修施設である当科は、専門的で高度な歯科補綴治療を主な手段として、高齢者の口腔機能回復をはかる診療を提供しています。高度顎堤吸収や下顎位不安定などの義歯難症例にも、十分な時間を費やして必要な診療を行い、可及的な機能回復に努めています。歯科部門で唯一、歯科訪問診療を提供する診療科でもあり、仙台歯科医師会との連携のもと、在宅療養中、施設入所中、あるいは歯科をもたない病院に入院中の高齢患者に歯科訪問診療を提供します。



主な対象疾患

- 欠損歯
- 咬合異常
- 高度顎堤吸収
- 口腔乾燥症
- 口腔機能低下症



老人福祉施設における歯科訪問診療

特殊診療施設

総合歯科診療部

TEL 022-717-8410(外来)



部長
菊池 雅彦 教授



地域の先生方へ

総合歯科診療部では、2021年度より新患予診業務を担当しております。歯科部門には多数の専門診療科がありますが、どの専門診療科に紹介すればよいか判断できない症例につきましては、一旦、当診療部にご紹介いただき診察後、適切な専門診療科を受診していただきます。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

当診療部は、包括的歯科診療ならびに臨床教育を担当することを目的に設置された診療部です。2006年度に歯科医師臨床研修が必修化されてからは、臨床研修の管理・運営・指導に重点をおき、本学歯学部に加え全国の大学から毎年多数の研修医を受け入れています。

以下に挙げる疾患について研修医が担当医となって、新患診査から診療、予防管理に至るまでの一連の歯科医療を実践しており、当診療部スタッフは専門診療科の協力を得ながら指導にあたっています。なお、症例の種類や全身状態によっては、専門診療科に診療を依頼する場合があります。

- う蝕による歯質の欠損への充填・修復処置
- う蝕による歯の痛みに対する歯内治療
- 歯周病による歯の動揺、歯ぐきの腫れ、歯ぐきの痛み、出血等に対する歯周治療
- う蝕や歯周病の予防管理
- 大きな歯質欠損や歯の欠損を修復するための冠やブリッジの治療
- 歯の欠損を回復するための取り外しできる入れ歯(有床義歯)の治療

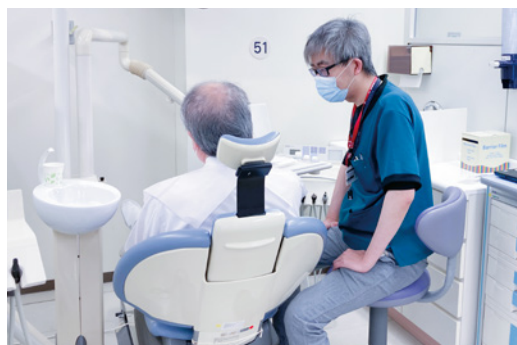
得意分野

当診療部では、各専門診療科と連携しながら、口腔全体を一つの単位として捉えた「一口腔一単位制」の診療指針に則った全人的歯科医療の実践と、本学歯学部臨床教育の理念である「考える歯科医師」の育成を目指しています。研修医には日頃より、患者さんのことを第一に考え、安心・安全で懇切丁寧な診療を行うよう指導しております。



主な対象疾患

新患予診では、高校生以上の患者さんの歯科疾患全般を対象とします。中学生までの患者さんは小児歯科をご紹介ください。抜歯や補綴難症例、矯正治療など依頼内容が明らかな場合には、直接、各専門診療科にご紹介いただくことにより、新患日の患者さんの負担が軽減され診察までの流れがスムーズに進みます。なお、研修医が担当することに同意される患者さんにつきましては、当診療部で診療を行うことができます。



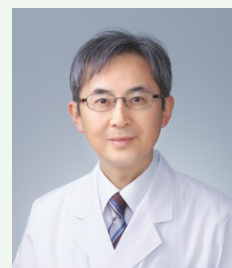
新患の予診

特殊診療施設

顎口腔機能治療部

TEL 022-717-8412(外来)

完全予約制



部長
五十嵐 薫 教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

顎口腔機能治療部は、頭蓋顔面領域の先天性疾病を有する患者さんを主な対象として、調和のとれた機能的な歯並び・咬み合わせを形成し、良好な発音ができるようにする専門外来です。当治療部は東北大学病院唇顎口蓋裂センターにおいて、院内他科とチーム医療を実施しています。

診療内容

当部には以下の2つの治療室があります。

矯正歯科治療室(頭蓋顔面先天異常グループ)では、口唇裂・口蓋裂などの頭蓋顔面領域に先天性疾病のある小児を主な対象として、生後間もなくから矯正歯科治療を行っています。術前顎矯正、顎整形治療、本格矯正歯科治療、顎矯正外科手術(骨延長を含む)の際の術前・術後矯正などが含まれます。

言語治療室では、発音障害のリスクを抱える患児(者)の言語発達や発音状態を定期的に評価し、必要に応じて言語訓練を実施しています。診療技術部歯科技術部門に所属する言語聴覚士2名が配置されています。

得意分野

裂が大きく、重度の組織変形を伴う唇顎口蓋裂の新生児に対して、硬質レジンで作製した口蓋床を用いた術前顎矯正治療を行っています。授乳が楽になるとともに、裂を狭め、裂側鼻軟骨を矯正することによって、口唇形成手術等を容易にする効果が得られます。

マルチブラケット装置による本格矯正歯科治療では、歯科矯正用アンカースクリューを積極的に併用しています。その結果、良好な治療結果が得られるようになっていきます。

口蓋裂に特有の器質性構音障害に対する専門的な言語訓練を行っています。院内他科や地域のことばの教室と連携して、質の高い言語治療を提供しています。



主な対象疾患

口唇裂・口蓋裂
顔面裂(斜顔裂、横顔裂、正中顔裂など)
ベックウィズ・ヴィーデマン症候群
マルファン症候群
先天性外胚葉形成不全
頭蓋骨縫合早期癒合症
(クルーゾン症候群、アペール症候群など)
ロバンシークエンス(ピエール・ロバン症候群)
トリーチャー・コリンズ症候群
第一第二鰓弓症候群
(ヘミフェイスアルマイクロソミア)
鎖骨頭蓋骨異形成症
軟骨無形成症
染色体異常(ダウン症候群、ターナー症候群など)
6歯以上の先天性部分無歯症
その他の顎・口腔の先天異常
顎変形症
前歯及び小臼歯の永久歯のうち3歯以上の萌出不全
に起因した咬合異常



言語治療の様子

特殊診療施設

障がい者歯科治療部

TEL 022-717-8408(外来)

完全予約制



部長

水田 健太郎 教授



地域の先生方へ

初診時は、どのように診療を進めていけばいいのか方向性を決めていきます。そのため基礎疾患やサポート体制など歯科疾患とあまり関係のないこともお聞きます。ご紹介いただく際は基本的には地域医療連携センターを利用してのご予約をお勧めします。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

歯科治療が困難な場合のアプローチとしては、大きく分けて心理学的手法に基づく「行動療法を用いた通法下での歯科治療」、薬理学的手法に基づく「精神鎮静法あるいは全身麻酔法を用いた歯科治療」の2つがあります。一般の歯科治療にこれらの手法を適宜活用しながら診療を行っています。

診療内容としては、歯科治療が苦手な方が安心して口腔ケアや治療に臨めるように歯科診療導入に向けたトレーニングから、う蝕・歯周病管理を含む定期的な予防管理、一般歯科診療全般を実施しております。行動療法では、系統的脱感作法を用いて不安や恐怖刺激の弱いものから強いものへと段階的に刺激に慣れるトレーニングや、自閉スペクトラム症など話し言葉による理解が難しい場合は絵カードなどの視覚支援を用いて診療の順番を構造化して示すこともあります。それらを用いても難しい場合や、早急な治療が必要だと判断した場合は精神鎮静や全身麻酔下における歯科治療を提案させていただくこともあります。その際は歯科麻酔疼痛管理科との連携のもとに実施しております。個人個人の歯科診療への受容状況や口腔内状況、そして身体状態を合わせた配慮と工夫のもとに安全安心な歯科治療を提供できるように努めています。



主な対象疾患

当治療部では歯科治療に対して協力を得ることが難しく、一般の歯科医院では受け入れが困難である方を対象として歯科医療を行っています。

具体的には、知的能力障害や自閉スペクトラム症、注意欠如・多動性障害などの発達障害、脳性麻痺や筋ジストロフィーなどを含む身体障害、そのほか、先天異常や染色体異常など歯科治療を受け入れることが困難な基礎疾患があり、歯科治療を行う上で意思疎通困難があったり、歯科治療を行うこと自体が身体的に大きな負担になるなど、特別な配慮を必要とする方を対象としています。

得意分野

当治療部では、日本障害者歯科学会認定の専門医や認定医が診療に従事し、患者さんの障害の特性に配慮した歯科診療を心がけております。診療は個室で行っていて、外部からの刺激を遮断することで、歯科診療に向けてのトレーニングや、歯科診療時に周囲の環境から患者さん本人が影響を受けないよう配慮をしています。障害のある方の口腔の生涯にわたる健康支援を通じて、障害のある方のQOLの維持に貢献していきたいと考えています。



リラクゼーションのための天井テレビのある個室診療室

特殊診療施設

顎顔面口腔再建治療部

TEL 022-717-8581 (外来)



部長
小山 重人 特命教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

顎顔面部に欠損をお持ちの方で診療を希望される方は、かかりつけの先生の紹介状をお持ちになって、顎顔面口腔再建治療部の新患を受診なさってください。

顔面補綴治療(エビテーゼ)は自費診療となります。

診療内容

顔面口腔再建治療部では腫瘍手術や外傷、先天性疾患などによって、口腔を形作る骨や組織、顔面の一部を失った方を対象に、その機能と形態および審美性を回復する顎顔面補綴治療を専門に行っています。顎顔面補綴には、顎骨の欠損部を非観血的にあるいは手術等の併用により人工物で補填する顎補綴(顎義歯)と、顔表面を含む実質欠損部を補填修復する顔面補綴(エビテーゼ)があります。最近ではインプラント義歯である「広範囲顎骨支持型装置及び広範囲顎骨支持型補綴」が保険導入されたこともあり、顎顔面欠損患者に積極的に歯科インプラントの適用を図っています。

医歯境界領域の専門診療チーム医療である嚥下治療センターにおいては、頭頸部腫瘍術後(舌接触補助床(PAP)や顎義歯で患者介入)の摂食嚥下・リハビリテーションに取り組んでいます。顎義歯は患者口腔内形態を回復することができ、PAPは舌の口蓋への接触を容易にする装置で、これら特殊補綴装置を適用することにより、嚥下機能の改善を図っています。

得意分野

- 上顎顎補綴装置(顎義歯、オブチュレータ、閉鎖床)を用いた顎補綴治療
- 下顎顎補綴装置(顎義歯、インプラント義歯)を用いた顎補綴治療
- デジタル歯科診療(口腔内スキャナー、マッチングシミュレーション、3Dプリンタ、ガイドドサージェリー用ステント)を応用した顎骨再建補綴治療
- 広範囲顎骨支持型装置及び広範囲顎骨支持型補綴
- 口唇口蓋裂補綴治療
- 舌接触補助装置(PAP)、軟口蓋挙上装置(PLP)を用いた摂食嚥下治療
- スピーチエイドを用いた発音治療
- 顔面補綴装置(エビテーゼ)を用いた顔面補綴治療
- 放射線治療補助装置



主な対象疾患

- 先天性、腫瘍手術、MRONJ、外傷による
歯・顎欠損
- 先天性、腫瘍手術、外傷による顔面欠損
(目、耳、鼻、指など)
- 口唇口蓋裂
- 摂食嚥下障害

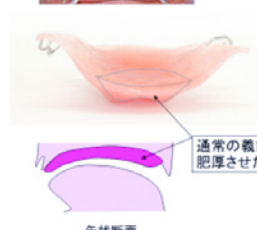
顎補綴



舌接触補助床(PAP)



舌切除
+皮弁



通常の義歯より
肥厚させた部分

矢状断面

顎義歯と舌接触補助床例

特殊診療施設

周術期口腔健康管理部

TEL 022-717-8930(外来)

完全予約制



部長
飯久保 正弘 教授



地域の先生方へ

当院医科診療部門からの新患を、月曜～金曜の午前中に受け付けています。
地域の医療機関からの紹介は、火曜と水曜に地域医療連携センターを通して予約してください。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

近年、手術前後の口腔清潔を行うことで術後合併症の発生が抑制できることが明らかとなり、がん手術、放射線治療、化学療法、心臓血管手術、臓器移植術、人工関節置換術などを受ける患者に対する「周術期口腔機能管理」は国策として推進されております。

歯科部門では、全ての医科部門診療科の入院患者に対する歯科への紹介窓口として2015年4月に周術期口腔支援センターを設置し、迅速に入院患者の口腔管理に対応出来る体制を整備しました。2021年4月からは、増え続ける医科部門からのニーズに対応すべく、「周術期口腔健康管理部」に名称を変更し、専任歯科医師を配置し医科歯科連携の更なる強化に努めております。「口腔は全身の鏡」と昔から言われており、口腔と全身は密接に関わっております。

当治療部は、入院患者さんが当院で安心して入院治療を受けていただけるように、口腔管理という立場から全身の健康をサポートし、さらに退院後の口腔健康維持に必要な地域歯科医療機関との連携も行っております。



主な対象疾患

全身麻酔下の手術を受けられる患者の口腔管理
心臓血管手術や人工関節置換術等の手術を受けられる患者の口腔管理
ステロイド剤や骨粗鬆症治療薬を使用される患者の口腔管理

得意分野

医科診療部門と緊密に連携し、それぞれの専門職が一体となって入院患者の口腔管理に取り組んでいます。各分野の専門歯科医師による集学的な医療を提供するだけでなく、歯科衛生士による口腔ケアとセルフケアの指導を行っています。また、入院前からの口腔管理の依頼等の前方支援業務、退院時の地域歯科医療機関への紹介や診療依頼等の後方支援業務を管理する地域連携のハブとして機能しています。



毎日行っている新患カンファレンスの風景

院内共同利用施設

歯科インプラントセンター

TEL 022-717-8426 (外来)



センター長
小山 重人 特命教授



地域の先生方へ

患者さんのインプラント治療に関する相談のみでも受診可能です。

包括的なインプラント治療だけでなく、インプラント治療を前提とした骨造成、またインプラント体の埋入のみの依頼も承っております。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

歯科インプラント診療は治療技術の進歩により適応範囲の拡大・高度化が進んでいます。さらに患者の高齢化や全身疾患などを合併している割合も年々増加しているため、より高度な集学的治療が必要とされています。このような状況下、歯科インプラントセンターでは治療に関わる複数の部局の連携による安全で高度なチーム医療を提供しています。また、相談からメンテナンスまでを含む包括的かつ先進の歯科インプラント治療に取り組み、3次元デジタル技術を導入し、画像診断からガイドドサージェリー、印象採得さらにインプラント上部構造作製等に応用しています。腫瘍切除等による大きな顎欠損患者や、顎口蓋裂など先天性疾患に対する「広範囲顎骨支持型装置及び広範囲顎骨支持型補綴」が保険導入されました。このような難症例に対応するためには、骨造成や鎮静法、入院手術など全身管理が必要となりますが、病院機能（病院手術室、一般病床）などを有効活用し、医療安全に重点を置いた安全かつ高度で先進的な診療を実施しています。一連のインプラント治療が終了した後も、インプラントの予後を良好に保つために定期的に来院し、専門的なケア（メンテナンス）を受けていただきます。また、残っている歯とインプラントに対する自己管理（ブラッシングなど）も必要になります。

得意分野

- デジタル歯科診療（口腔内スキャナー、マッチングシミュレーション、3Dプリンター、CAD/CAM）を応用したインプラント治療
- 広範囲顎骨支持型装置及び広範囲顎骨支持型補綴
- 骨造成（サイナスリフト）、顎骨再建（チタンメッシュと自家腸骨海绵骨細片）併用インプラント治療
- 審美歯科（フルジルコニア冠）
- インプラント周囲歯肉炎

主な対象疾患

う蝕、歯周病、外傷、歯根破折等による
歯の欠損
先天性歯欠損
腫瘍等の手術による歯・顎の欠損
インプラント周囲歯肉炎
インプラント周囲炎



歯科インプラントセンターのコンセプト

院内共同利用施設

口腔内科・リエゾンセンター

TEL 022-717-8708(外来)



センター長
庄司 憲明 特命教授



地域の先生方へ

新患日は月曜～金曜の午前中(9時～11時)となっております。口臭外来は毎週火曜(9時～10時：2022年10月から)です。患者さんの待ち時間短縮のため、当院地域医療連携センターへの診療予約申込(FAX)をご活用下さい。



診療科WEB



外来担当医表

診療内容

当センターは、2021年4月1日、口腔顔面痛、顎関節症、口腔粘膜疾患、口腔乾燥症、味覚障害などの難治性疾患の専門外来として全国で初めて開設されました。これらの疾患は、外科的なアプローチを主体とせず、患者さんの口腔症状と全身的背景を考慮した診断と治療が必要であり、「口腔内科疾患」と呼ばれています。原因がわかりにくいだけでなく、不適切な歯科の介入により重症化しやすいため、早期発見、早期診断、早期治療が不可欠です。

当センターでは、口腔粘膜疾患と口腔顔面痛の専門的セクションにて、日本口腔内科学会、日本口腔外科学会、日本顎関節症学会、日本口腔顔面痛学会などの専門医が連携(リエゾン)して診断と治療を担当しています。疾患の背景因子として全身疾患や医科領域の疾患が疑われる場合には、当病院の医科歯科連携の利点を活用して、医科部門とも連携して治療を行っております。また、本年10月から口臭外来を開設します。対象となる患者さんがいらっしゃいましたら、是非ご紹介下さい。



主な対象疾患

口腔顔面痛

[歯と歯槽部および解剖学的構造の障害による口腔顔面痛、筋筋膜性口腔顔面痛、顎関節痛、脳神経の病変または疾患による口腔顔面痛、一次性頭痛の症状に類似した口腔顔面痛、特発性口腔顔面痛(口腔灼熱症候群：BMSなど)]

顎関節症

口腔粘膜疾患

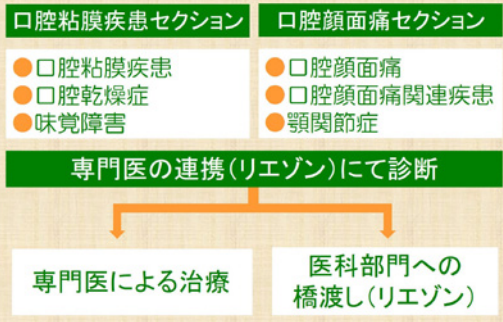
口腔乾燥症

味覚障害

口臭症

得意分野

歯や歯周組織の疼痛を発生源としない歯痛は「非歯原性歯痛」と呼ばれ、歯痛全体の2.1%～9%を占めることが報告されています。最近では、この非歯原性歯痛に対し無意味な根管治療や拔牙等の歯科処置が実施されており社会問題になっています。非歯原性歯痛の発症メカニズムは、歯列接触癖(TCH: tooth contacting habit)による筋・筋膜痛、神経障害性疼痛、神経血管性頭痛など多岐にわたり大変複雑です。日本口腔顔面痛学会専門医が的確な診断を下し多くの患者さんを非歯原性歯痛のお悩みから救済しております。



口腔内科・リエゾンセンターの組織概略

院内共同利用施設

嚥下治療センター・歯科

TEL 022-717-8581 (外来)

完全予約制



副センター長
小山 重人 特命教授



診療科WEB



外来担当医表



地域の先生方へ

当センター・歯科では、嚥下（えんげ）障害により口から食べることが難しい患者さん、誤嚥による肺炎を繰り返す患者さん、およびその危険性のある患者さんの検査と治療を行っています。医科への患者紹介に対して少しハードルを感じている歯科医師の皆様への窓口になることができればと思います。

診療内容

2019年7月に、「東北大学病院嚥下治療センター」が開設されました。当センターでは、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、リハビリテーション科、歯科、看護部、リハビリテーション部門、管理栄養室、歯科衛生室などの多職種のメンバーが参画し、検査、カンファレンス、治療を実施しています。今回の歯科診療部門の改編に伴い、歯科外来でも「嚥下治療センター・歯科」としての運用を開始しました。当センターの特長である医科歯科連携を活かした体制から、より多くの食べることに困っている患者さんを診察することができるよう努めています。

対象は、嚥下障害が疑われる地域医療施設からの紹介患者、当院歯科外来に通院する嚥下障害患者、歯科治療後も口腔機能低下症に該当する患者等になります。必要に応じて、上記のカンファレンスを通じて医科と密な連携を行います。地域医療を担う歯科関連の皆様と病診連携を充実させ、摂食嚥下リハビリテーションが行える診療体制を確立すること、さらには、教育研修制度の開発・提供・実施を企画し、地域医療に貢献することを目指します。

得意分野

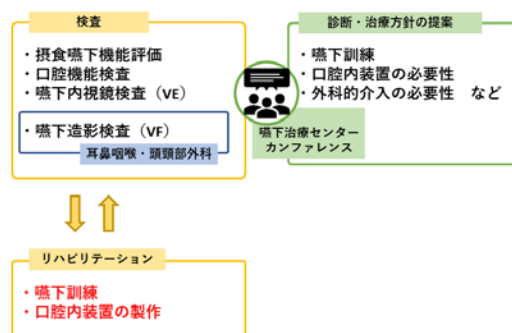
- 口腔機能検査（口腔衛生状態、口腔乾燥度、咬合力、舌口唇運動機能、オーラルディアドコネシス、咀嚼能力）
- 軟口蓋挙上装置（PLP）を用いた摂食嚥下治療
- 舌接触補助装置（PAP）を用いた摂食嚥下治療
- 義歯・顎義歯用いた補綴治療
- 口腔ケア・管理による誤嚥性肺炎の予防
- 摂食嚥下訓練



主な対象疾患

摂食嚥下障害
（安全に飲み込む力の低下）

口腔機能低下症
（食べる力の低下）



嚥下治療センターの診療体制

CENTRAL CLINICAL FACILITY, etc

中央診療施設

特殊診療施設

院内共同利用施設等

看護部	80	歯科医療管理部	86
薬剤部	80	卒後研修センター	86
感染管理室	80	MEセンター	86
医療安全推進室	80	WOCセンター	86
がんセンター	81	栄養管理室	87
検査部	82	栄養サポートセンター	87
手術部	82	消化器内視鏡センター	87
放射線部	82	唇顎口蓋裂センター	87
生理検査センター	82	先端医療技術トレーニングセンター	88
産業衛生外来	83	摂食障害治療支援センター	88
技工室	83	てんかんセンター	88
歯科衛生室	83	個別化医療センター	88
集中治療部	83	デイスージャリーセンター	89
病理部	84	嚥下治療センター	89
輸血・細胞治療部	84	睡眠医療センター	89
高度救命救急センター	84	臨床研究推進センター	89
周産母子センター	84		
リハビリテーション部	85		
血液浄化療法部	85		
臓器移植医療部	85		
メディカルITセンター	85		

看護部

部長

鈴木 由美

TEL 022-717-7551(看護管理室)



WEBサイト

特色

2014年度より看護提供方式「パートナーシップ・ナーシング・システム(PNS)」を導入し、2名の看護師がパートナーとなり看護実践を行い安心して看護できる体制づくりを行っています。相談相手がいつもそばにいる、話し合って看護の方針が決められると現場の看護師から好評です。また、キャリア支援、教育力向上による看護の質の担保、東北大学と協同した臨床における研究を推進しています。



薬剤部

部長

眞野 成康

TEL 022-717-7528(薬剤部受付)



WEBサイト

特色

「薬物療法の適正化を通じて、医療の質と安全の向上を目指す」を薬剤部の方針の一つに掲げ、薬剤業務を展開しております。患者さんの入院から退院までの薬学的ケアだけでなく、がん化学療法を含む外来診療にも積極的に関与しています。さらに患者さんの在宅セルフケアをサポートするため、保険薬局とも様々なツールを用いて連携し、シームレスな薬物療法の管理を目指しています。



感染管理室

室長

徳田 浩一

TEL 022-717-7841



WEBサイト

特色

感染制御の資格を有する医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務職員など多職種で構成されたチーム(ICT)が院内感染対策の実践、感染症や感染制御に関する職員教育等を行っています。

主な活動: ICT院内ラウンド、感染症コンサルテーションと症例カンファレンス、抗菌薬適正使用支援(AST)活動、院内感染対策講演会、行政や地域医療機関との連携



医療安全推進室

室長

田畑 雅央

TEL 022-717-7561(医療安全推進室受付)



WEBサイト

特色

医療安全推進室は、医療事故(有害事象)による患者さんへの被害を防止し医療の質と安全性を向上させるための各種活動を行っています。特定機能病院である当院の基本理念である「患者さんに優しい医療と先進医療との調和を目指した病院」に沿うよう、より安全に、高度な医療を提供できるようなシステムを構築するため、多職種が協力して日々努力をしています。



がんセンター

センター長 石岡 千加史

TEL 022-717-8543(臨床腫瘍学分野)



WEBサイト

特色

当センターは、2006年度に全国の大学病院に先駆けて都道府県がん診療連携拠点病院(以下、がん拠点病院)に指定されたことを機に設置されました。その後、当院は2012年度には全国に初めて15カ所指定された小児がん拠点病院の1つに、2017年度には、全国に初めて11(現在12)カ所指定されたがんゲノム医療中核拠点病院に指定され(いずれも東北地方では唯一の指定)、当センターは名実ともに東北地方のがん医療の中心となる医療機関のがんセンターとなりました。現在、当センターの下部組織である化学療法センター(写真1)、小児腫瘍センター、緩和ケアセンター、がん診療相談室(写真2)、院内がん登録室、高精度適応放射線治療センター、口腔健康管理センター、医学物理室、小児がん相談室、がん地域連携室、テレパソロジーセンターおよび頭頸部腫瘍センター(設置順)をはじめ、関連する診療科や部署が協力してがん拠点病院の機能を強化し、標準治療の普及、正しいがん医療情報の提供、院内がん登録の推進、がんゲノム医療や臨床試験・治験を含む高度がん医療の推進、がん専門の医療従事者の養成などを通じて東北地方のがん医療に貢献しています。なお、2021年度末に高精度適応放射線治療センターに高磁場MRIとリニアックが一体化した高精度放射線治療装置エレクト・ユニティ(わが国で2番目)を導入しました(写真3)。

地域がん医療水準の向上にはこれらががん拠点病院等の診療機能の強化や地域がん医療連携に加え、それを担うがん医療従事者の養成が不可欠です。このため、がん医療従事者の養成に関する地域から当院への期待は以前にも増して大きくなっています。2017年10月にわが国の第3期がん対策推進基本計画が、続いて第3期宮城県がん対策推進計画が2018年3月に策定され、その施策の中でとりわけがんゲノム医療の推進、希少がん・難治がん対策、小児がん・AYA世代のがん対策、高齢者のがん対策、がん患者の就労対策、ライフステージに対応できる医療従事者の養成は喫緊の課題です。当センターはこれまでどおり、医学系研究科の地域がん医療推進センターと2017年度に当院に新たに設置された個別化医療センターと協力し、これらの課題に対応出来るがん医療従事者の養成に取り組んで参ります。

2020年以降は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のため、がん医療やその臨床開発にも少なからぬ影響が出ています。当院ではパーティションの設置や待合スペース、治療室のブロック化などCOVID-19対策を強化し、その影響を最小限に留めるように努めています。今後とも東北地方のがん患者の皆様のお役に立てるように努力してまいります。



写真1. 化学療法センター(ベッド28床、リクライニングチェア7床、がん薬物療法専門医を有する医師が常駐)



写真2. がん診療相談室・がんサロン「ゆい」



写真3. MRI搭載放射線治療装置 エレクト・ユニティ

検査部

部長

張替 秀郎

TEL 022-717-7374(臨床検査技師長室)



WEBサイト

特色

検査部には、尿一般検査室、生化学検査室、免疫血清検査室、血液検査室、遺伝子検査室、微生物検査室、夜間・休日検査室といった検査室があります。検査部は365日・24時間体制で検査に対応しており、2011年には臨床検査室に特化したISO15189認証を取得し、現在に至っています。当部門は高度先進医療施設に相応しい質の高い検査結果を提供しています。



手術部

部長

海野 倫明

TEL 022-717-7403(手術部受付)



WEBサイト

特色

当院手術部は、COVID-19対応の感染症用陰圧手術室、術中MRI脳神経外科手術室など最新の設備を備えた全23室からなる、国立大学病院最大級の手術部です。手術部を支える手術部看護師数は85名と大変手厚く、一部の手術を除き手術前には手術部スタッフが訪問いたします。ご不安な点やご質問があれば是非お話しください。安心して手術が受けられるよう、ご説明いたします。



放射線部

部長

高瀬 圭

TEL 022-717-7419(放射線部受付)



WEBサイト

特色

放射線部では、単純X線撮影、マンモグラフィ、CT、MRI、各種透視、歯科診療、血管造影などの画像診断、PET/CTを含めた核医学検査、低侵襲のIVR治療、および次世代放射線治療装置であるMRリニアックや高精度放射線照射を含む放射線治療の業務を、最新の技術で、医療被曝の適正化にも配慮しながら行っています。



生理検査センター

部長

中里 信和

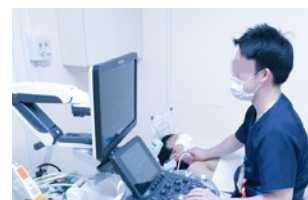
TEL 022-717-7385(生理検査センター受付)



WEBサイト

特色

生理検査センターは各診療科に公平な生理検査の提供・業務の拡充、地域医療に貢献しています。教育では全ての検査項目において独自の教育プログラムを作成し、効率よくスタッフの教育と管理を行っています。研究では各診療科との共同研究や研究協力を積極的に行い、日々進化する医療に合わせた取り組みと様々なニーズに対応した臨床・教育・研究すべての業績上昇を目指しています。



産業衛生外来

環境・安全推進センター、産業医学分野

黒澤 一

TEL 022-717-7732(外来) / 7874(医局)



WEBサイト

特色

病気や症状が職業関連である場合、働く環境の整備や就業措置が必要になることがあります。労働安全衛生法に基づく法定の特殊健康診断後の対応には産業医の専門的な判断が助けになります。職場の喫煙対策や禁煙教育等についても産業医が職場に助言する立場です。お困りの労働者の症例に関する対応と一緒に検討させていただきます。なお、直接的な治療は行いません、ご承知おきください。



技工室

室長

江草 宏

TEL 022-717-8421(中央技工室)



WEBサイト

特色

技工室は、従来の歯科技工に加え、デジタル技術を用いた補綴装置、歯科インプラントのアバットメント、術前顎骨モデルやサージカルガイドなどを製作しています。また、顎骨欠損に対する顎義歯、顔面欠損に対するエピテーゼや気管挿管に使用する歯の保護装置にも取り組んでいます。さらに、医科部門に術前シミュレーションに役立つ臓器モデルを提供するなど、病院診療に幅広く貢献しています。



歯科衛生室

室長

山田 聡

TEL 022-717-8414(歯科衛生士長室)



WEBサイト

特色

歯科衛生室では、全身麻酔下歯科治療やインプラント埋入手術での介助のほか、入院・手術前後の患者、放射線・化学療法中の患者、臓器移植患者等の専門的口腔衛生処置や口腔機能管理に携わっています。QOLの向上を目指して、治療に伴う口腔粘膜疾患の管理や、術後肺炎の予防、合併症の軽減などにに関わり、早期に経口栄養摂取ができるように歯科衛生の観点からの患者支援に努めています。



集中治療部

部長

齋藤 浩二

TEL 022-717-7690(集中治療部受付)



WEBサイト

特色

当院集中治療部は国公立大学では日本で初めて創設されたICU(Intensive care unit)です。呼吸・循環・代謝などの重要な機能が損なわれた患者さんに対して、強力かつ集中的に治療を行う中央部門です。集中治療専門医を含めたICU担当医が24時間体制で勤務しており、看護師も、昼は1対1、夜は2対1の配置で専門性を活かした手厚い看護を提供しています。



病理部

部長

鈴木 貴

TEL 022-717-7440(病理部受付)



WEBサイト

特色

病理部は、患者さんから採取された組織や細胞について、顕微鏡標本を作成し診断を行う部門です。近年では種々の疾患について、治療法の選択に必要な情報提供を行うなど、直接患者さんと接することはありませんが、臨床医を通して診療に深く関わっています。また病気のために亡くなられた患者さんの死因、病気の成り立ちを解明するために、ご遺族の許可を得て病理解剖を行うこともあります。



輸血・細胞治療部

部長

張替 秀郎

TEL 022-717-7472(輸血・細胞治療部受付)



WEBサイト

特色

認定輸血検査技師7名を含む専従技師9名により24時間輸血検査とアルブミンを含む輸血製剤供給に対応しています。また自己血採血、自己フィブリン糊作製、ABO各型同種クリオ調製、末梢血幹細胞やリンパ球の採取と調製保管、顆粒球採取、ABO不適合骨髄の処理、造血幹細胞検査、キメリズム検査、移植臍帯血受入れ、再生医療等製品の調製管理等を行い、HCTCとも連携しています。



高度救命救急センター

部長

久志本 成樹

TEL 022-717-7024(外来)



WEBサイト

特色

救急診療では、“時間”が大切です。緊急性の判断と速やかな治療の開始が大きく転帰に影響します。“緊急を要する病態”であると考えられるときには、適切なタイミングでご紹介ください。集中治療／外傷／熱傷専門施設、ECMOセンターとして広く診療体制を整備しています。また、“外傷再建センター”として、機能的再建が必要な整形外科領域の患者さんの診療を専門チームが積極的に行っています。



周産母子センター

センター長 八重樫 伸生

TEL 022-717-7711(周産期救急搬送コーディネート受付)



WEBサイト

特色

産科ではハイリスク妊娠・分娩管理を中心に診療を行っています。年間の分娩数は約850件です。他科と連携し緊急症例などにも対応しています。

新生児室は病床数33床で、生育限界児、母体合併症児、先天疾患の児などを中心に診療してます。年間入院患者数は約300名(超低出生体重児30名、人工呼吸管理80名、外科手術約20名)です。



リハビリテーション部

部長

海老原 寛

TEL 022-717-7677(リハビリテーション部受付)



WEBサイト

特色

リハビリテーション部は、医師7名、理学療法士24名、作業療法士7名、言語聴覚士6名、看護師1名で構成されており、すべての領域で最高水準の施設基準認定を受けています。大学病院の特殊性に対応する高度で専門的なリハビリテーションを提供できる体制であるとともに、全ての領域のリハビリテーション医療の研修が可能で、多くの研修生を受け入れていきます。



血液浄化療法部

部長

宮崎 真理子

TEL 022-717-7467(血液浄化療法部受付)



WEBサイト

特色

血液浄化療法部は各科と血液浄化の専門性を融合させて最大の治療効果を目指しています。また、透析患者さんの合併症治療中は普段とは大きく異なる状態となり、細心の透析管理が必要です。2021年は持続血液ろ過透析 1143件、エンドトキシン吸着 48件、血漿交換178件の実績があり、腹水ろ過濃縮再静注 70件、血液透析は導入、急性期・合併症治療で合計1914件実施しました。



臓器移植医療部

部長

岡田 克典

TEL 022-717-7702(臓器移植医療部受付)



WEBサイト

特色

当院は心臓、肺、肝臓、脾臓、腎臓、小腸の全ての臓器移植が行える施設であり、また脾臓移植実施施設でもあります。臓器移植医療部は、部長、副部長、スタッフ医師(助教)、レシピエント移植コーディネーター3名、事務補佐員2名からなり、臓器横断的に当院の臓器移植医療の中心となり、移植を必要とする患者さんやご家族に対する支援を行います。

臓器提供と臓器移植に関する権利
—全ての人が下記の4つの権利を持っています—



メディカルITセンター

部長

張替 秀郎

TEL 022-717-7504(メディカルIT センター受付)



WEBサイト

特色

病院の診療業務を効率化し、医療の質および安全性を向上させるために、電子カルテなどの病院情報システムの運用や機能改善を行い、電子カルテの記載内容の定期的な監査も実施しています。また、コンピュータウイルスなどの脅威から病院情報システムを守り、安全かつ安定した情報インフラを運用するためのセキュリティ対策やBCP対策にも積極的に取り組んでいます。



歯科医療管理部

部長

江草 宏

TEL 022-717-8431 (歯科医療管理部)



WEBサイト

特色

歯科医療管理部は、歯科部門における医療安全と感染対策を中心とし、歯科医療情報管理、歯科医療機器や器材の管理、職員等の安全衛生など、歯科医療を行う上で必要となる様々な役割を担っています。(写真は、患者の転倒転落防止の一環として、リハビリテーション部のご協力により行われた車椅子から歯科用ユニットへの移乗講習会の様子。)



卒後研修センター

センター長 石田 孝宣

TEL 022-717-7765



WEBサイト

特色

医師としての第1歩となる初期研修を全面的に支援しています。当院は44の診療科を有し、450名を超える専門医による指導体制が構築されており、一般的な疾患も学べるよう約120病院と連携しています。今年度から独自の選択プログラムとして、AI技術を活用して医療情報解析の基礎を学べる診療情報処理研修を新設するなど、将来につながる取り組みも行なっています。



MEセンター

センター長 亀井 尚

TEL 022-717-7688 (MEセンター受付)



WEBサイト

特色

MEセンターには臨床工学技士27名が配置され、高度医療機器に関する仕事をしています。現場は手術部、集中治療部、血液浄化部等で、生命維持に不可欠な人工呼吸器、ECMO、透析装置などの操作や管理を行い、多職種チーム医療の一員として日々臨床を支えています。さらに機器の点検や整備を一元管理し、安全使用の研修会も行うことで、MEセンターは医療安全と病院運営に貢献しています。



WOCセンター

センター長 海野 倫明

TEL 022-717-7652 (WOCセンター受付)



WEBサイト

特色

WOCとは、Wound Ostomy Continece の略で、Woundは創傷(褥瘡・瘻孔)のこと、Ostomyは手術で作成された人工肛門や人工膀胱のこと、Contineceは尿や便の失禁のことを示します。当センターでは、これらの診療上の問題に関して皮膚・排泄ケア認定看護師と各診療科の医師が診療科の枠を超えて連携することで専門性の高い医療を提供しています。なお、診療は予約制ですので事前に上記受付まで電話連絡をお願いします。



栄養管理室

室長

布田 美貴子

TEL 022-717-7119/7120(栄養管理室受付)



WEBサイト

特色

栄養管理室は「患者さんひとりひとりに目をむけた、やさしい、つながりのある栄養管理を目指します」という理念の下、14名の管理栄養士が栄養管理手順に則り、栄養評価、アセスメント、栄養介入を行っています。また、栄養評価を基に、個々の患者さんの病状・病態・摂取能力に合わせた食事の提案、行事食や特別メニューの提供など、適切な栄養管理の実践とQOL向上に努めています。



栄養サポートセンター

センター長 香取 幸夫

TEL 022-717-7119(栄養管理室受付)



WEBサイト

特色

2003年に設置された栄養サポートセンターは多職種のメンバーで構成され、全ての患者さんが適切な栄養療法を受けることができ、職員が栄養療法に関わることを支援しています。症例カンファランス、研修会の実施、広報誌の発行に加えて、日本臨床栄養代謝学会の認定するNST専門療法士の認定資格に関わる講習を行っています。栄養に関するご相談や講習への参加をお待ちしています。



消化器内視鏡センター

センター長 正宗 淳

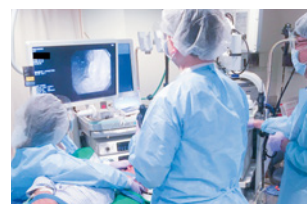
TEL 022-717-7767(消化器内視鏡センター受付)



WEBサイト

特色

消化器内視鏡センターでは、年間約13,000件の内視鏡が行われています。全個室の検査室に最新のシステムを配置、拡大内視鏡・バルーン内視鏡・カプセル内視鏡・極細径(経鼻)内視鏡・超音波内視鏡・顕微鏡レベルの生体観察可能なEndo-Cytoスコープを保有し、消化器内視鏡学会専門医、指導医、消化器内視鏡技師(看護師)、臨床工学技士(MEセンター)が協力し最先端の医療を提供しています。



唇顎口蓋裂センター

センター長 今井 啓道

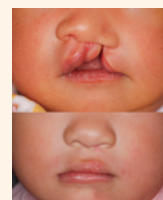
TEL 022-717-7748



WEBサイト

特色

唇顎口蓋裂をはじめとする生まれつきの顔の病気を治療するセンターです。顔の病気は、形成外科・耳鼻科・小児科といった医科と、顎口腔機能治療部・口腔外科といった歯科、及び言語聴覚士、心理士が連携して治療する必要があります。本センターは医科歯科が連携したチーム医療を実践している全国でも数少ない施設です。新生児新患の紹介は窓口である形成外科の新患外来で承っています。



先端医療技術トレーニングセンター

センター長 岡田 克典

TEL 022-717-7765



WEBサイト

特色

先端医療技術トレーニングセンターは、実験動物を用いた手術トレーニングの施設として、2013年9月に開所した施設です。従来は、動物実験施設において初期研修医や若手医師を対象としたブタを用いた外科手術トレーニングを行っていましたが、本センターが開設したことにより充実したトレーニングが行えるようになりました。実際の患者さんに接する前にトレーニングをすることで、医療安全に寄与できるものと考えています。



摂食障害治療支援センター

センター長 福土 審

TEL 022-717-7734(外来) / 7328(コーディネーター)

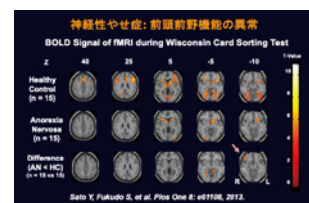


WEBサイト

特色

摂食障害の窓口として、医療連携、患者家族支援、普及啓発活動を行っています。代表疾患が神経性やせ症(図1)と神経性過食症です。活動は、院内組織のセンターが宮城県摂食障害支援拠点病院の名称にて、国(厚生労働省)の事業かつ自治体の支援を受けています(心療内科のページ参照)。早期発見・治療と患者さんの地域医療での継続診療の連携をお願いします。

図1



てんかんセンター

センター長 中里 信和

TEL 022-717-7751(てんかん科外来)



WEBサイト

特色

てんかんセンターは厚労省「てんかん地域診療連携整備事業」開始の2015年、全国8拠点のひとつとして誕生しました。大学病院らしく複数の診療科が連携し、高度な精査入院、薬物調整、外科治療を実施しています。公認心理師やソーシャルワーカーの協力にて、患者や家族の悩みにも対応しています。また「知って安心、てんかん」を合言葉に、啓発活動でも全国をリードしています。



個別化医療センター

センター長 石岡 千加史

TEL 022-717-8480



WEBサイト

特色

当センターは患者さんのゲノム・オミックス情報を活用してひとりひとりに最適な治療を提案する「個別化医療」を開発・推進する取り組みを行っております。診療部門ではがん診療に関わる診療科が参加しがんゲノム医療であるがん遺伝子パネル検査を行っております。研究部門では病院バイオバンク事業を行い、ゲノム・オミックス解析による次世代の個別化医療研究に役立たせております。



デイスージャリーセンター

センター長 國方 彦志

TEL 022-717-7757(眼科外来)



WEBサイト

特色

眼科の日帰り手術をご希望の患者さんは、外来受診時に医師にぜひご相談ください(現在の対象疾患:白内障、翼状片など)。本センターの手術設備は、当院の入院手術設備と変わらない高いレベルであり、経験豊富な医師が万全を尽くして執刀いたします。当院の外来5階デイスージャリーセンターにおいて、スタッフ一同、皆さまをお待ちしています。



嚥下治療センター

センター長 香取 幸夫

TEL 022-717-7755(耳鼻咽喉・頭頸部外科外来)



WEBサイト

特色

口から食べることが難しい患者さん、誤嚥による肺炎を繰り返す患者さん、およびその危険性のある患者さんの検査と治療を行っています。耳鼻咽喉・頭頸部外科、歯科、歯科衛生室、リハビリテーション科・部、看護部、栄養管理室、薬剤等多くのスタッフが協力し、医科と歯科の両方の窓口で患者さんのご紹介に対応しています。摂食嚥下の評価と治療に関して、広くご紹介をお待ちしています。



睡眠医療センター

センター長 小川 浩正

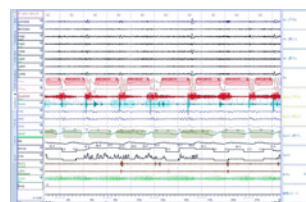
TEL 022-717-7875(呼吸器内科外来)



WEBサイト

特色

睡眠時無呼吸などの睡眠障害は、幅広い世代で様々な疾患と関連していますので、総合的見地から診療する必要があります。睡眠医療センターは、当院の強みをいかし、内科・外科・歯科の関連診療領域での検査・治療を集約化して包括的に睡眠障害に対する医療を提供します。睡眠障害管理上困難な患者さんがおられましたら、是非当睡眠医療センターをご利用ください。



臨床研究推進センター

センター長 張替 秀郎

TEL 022-717-7122(臨床研究推進センター事務室)



WEBサイト

特色

臨床研究推進センター(CRIETO)は、橋渡し研究支援機関として2022年4月に文部科学省から認定を受け、アカデミア発シーズを実用化に繋げるために必要な専門的支援を提供しています。また、医療法上の臨床研究中核病院として、国際水準の臨床研究や難病等の医師主導治験を推進することにより、医療の向上に貢献しています。





JR仙台駅バスのりば 9 10 13 15 28 番から乗車し「東北
大学病院前」下車すぐ。または、60 番から乗車し「交通局
東北大学病院前」下車徒歩約5分。乗車時間は約20分。



JR仙台駅タクシーのりばより、所要時間約15分。



仙台市営地下鉄南北線仙台駅から泉中央行きに乗車し、「北四番丁駅」下車後、北2出口より徒歩約10分。



東北大学病院

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1
平日 8:30-17:15 TEL 022-717-7000
時間外・休診日:TEL 022-717-7024

